

平成 24 年度

海洋教育普及の実現に向けた 戦略的研究及び条件整備 報告書

～次期学習指導要領改訂へのロードマップ～

平成 25 年 3 月

海洋政策研究財団

はじめに

2008年3月の海洋基本計画策定から5年が経過し、現在、海洋基本計画の見直し作業が進められている。わが国の海洋政策は海洋基本計画が示した12の分野においてこの5年間で大きく前進した。しかしこの中で、海洋に関する国民の理解の増進と人材育成、とりわけ次世代を担う青少年を対象とした学校教育での海洋教育の取り組みについては十分に進んでいるとは言い難い。

一方、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波は、われわれに海の脅威をあらためて知らせ、海に対する無知と無関心への大きな警鐘となった。このほか、海洋再生可能エネルギー開発の加速、大陸棚延伸と広大な管轄海域での資源開発への期待、また島の領有権をめぐる周辺諸国との対立など、近年海洋に関する様々なニュースが国民の注目を集めており、いま国民の海洋に対する関心は急速に高まりつつある。

このように海洋をめぐる社会環境が急速に変化する中、学校教育における海洋の取り扱いは十分に対応できているとは言い難い状況にあり、わが国の学校教育における海洋教育の位置づけについて、あらためて見直すべき時期に来ている。

そこで本事業は、国の教育政策に海洋に関する教育内容を具体的に反映させるため、これに必要な戦略的研究と条件整備を行うことを目的に平成23年度から3年計画で実施するものである。2年目の今年度は次期学習指導要領改訂を視野に海洋に関する教育内容の拡充を図るための条件整理と戦略策定を行った。本事業の成果が今後のわが国の海洋教育普及推進の一助となれば幸いである。

当財団が本事業を実施するにあたり、長年にわたり深いご理解と多大なるご支援をいただいている、ポートルース業界並びに日本財団に厚く感謝を申し上げます。

海洋政策研究財団

理事長 今 義男

海洋教育普及の実現に向けた戦略的研究及び条件整備事業 研究体制

■海洋教育普及の実現に向けた戦略的研究委員会

委員長

佐藤 学 学習院大学教授／日本教育学会 前会長

秋道 智彌

総合地球環境学研究所 名誉教授

石原 義剛

財団法人東海水産科学協会 海の博物館 館長

嶋野 道弘

文教大学 教育学部 教授

／日本生活科・総合的学習教育学会 前会長

白山 義久

独立行政法人海洋研究開発機構 理事

／京都大学 名誉教授

高田 浩二

(株)海の中道海洋生態科学館

マリンワールド海の中道 館長

寺島 紘士

海洋政策研究財団 常務理事

春成 誠

一般財団法人運輸政策研究機構 理事長

日置 光久

文部科学省 初等中等教育局 視学官

宮崎 活志

東京大学海洋アライアンス

海洋教育促進研究センター上席主幹研究員 *1

山形 俊男

独立行政法人海洋研究開発機構 上席研究員

(委員長を除き五十音順)

* 1 平成 24 年 10 月 31 日まで

■研究メンバー

寺島 紘士

海洋政策研究財団 常務理事

大川 光

海洋政策研究財団 政策研究グループ長代理

米山 茂

同

酒井 英次

海洋政策研究財団 海技研究グループ国際チーム長 *1

釣田 いずみ

同

政策研究グループ研究員

瀬木 志央

同

政策研究グループ研究員 *2

堀口 瑞穂

同

研究調査員

赤見 朋晃

同

研究調査員

* 1 プロジェクトリーダー

* 2 平成 24 年 8 月まで

目次

実施報告	1
1: 事業目的	2
2: 実施方法	2
3: 実施項目	2
4: 実施内容	3
(1) 学習指導要領改訂に向けた具体的戦略の策定と提言	3
1) 次期学習指導要領改訂までのスケジュール検討	3
2) 海洋基本計画見直しに向けた提言の実施	4
3) 改訂に向けた必要条件の整理	4
4) 戦略ロードマップの作成	5
5) 海洋教育連絡会議の設置及び開催	6
(2) 海洋教育普及に必要な教育環境の研究	7
1) 海洋人文系教材の研究	7
2) 海洋人文系分野の教材に関する基礎調査	7
3) 今後の活動について	14
(3) 外部支援体制の組織化	14
(4) 教育研究の推進	14
今後の課題	27
(1) 学習指導要領改訂に向けた具体的施策の策定と提言	28
(2) 海洋教育普及に必要な教育環境の研究	29
(3) 外部支援体制の組織化	29
(4) 教育研究の戦略的推進	29
参考資料	31
日本財団・海洋政策研究財団	
「海洋基本計画改訂に向けた海洋教育に関する提言」	32
海洋基本法戦略研究会	
「次期海洋基本計画に盛り込むべき施策の重要事項に関する提言」	34
連絡会議資料と議事録	41
全国アンケート分析	46



實施報告

1: 事業目的

本事業は、当財団が過去に作成した「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」のコンセプトをベースに、学習指導要領に海洋に関する教育内容を具体的に反映させるために必要な戦略的研究と条件整備を行うことを目的とする。平成24年度は次期学習指導要領改訂までのロードマップ作成と必要条件の整理を行う。また平成25年3月に海洋基本計画の見直しが実施されることを踏まえ、海洋基本計画見直しの際における海洋教育に関する内容拡充を図るための活動を行う。

2: 実施方法

本事業は、教育と海洋の有識者で構成する「海洋教育普及の実現に向けた戦略的研究委員会」の審議に基づき実施計画を策定し、海洋政策研究財団事務局において実施した。また次期学習指導要領改訂を視野に入れた海洋教育推進戦略の全体的な方向性については、日本財団海洋グループ、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと議論を行い調整しながら決定した。

3: 実施項目

平成24年度「海洋教育普及の実現に向けた戦略的研究及び条件整備」事業計画書に基づき、次期学習指導要領に海洋教育の内容を反映させるための戦略的研究並びに条件整備として以下を実施した。

- (1) 学習指導要領改訂に向けた具体的施策の策定と提言
 - 1) 次期学習指導要領改訂までのスケジュール検討
 - 2) 海洋基本計画見直しに向けた提言の実施
 - 3) 改訂に向けた必要条件の整理
 - 4) 戦略ロードマップの作成
 - 5) 海洋教育連絡会議の設置及び開催
- (2) 海洋教育普及に必要な教育環境の研究
「海洋人文系教材の検討」
- (3) 外部支援体制の組織化
- (4) 教育研究の戦略的推進
「小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査」記述分析

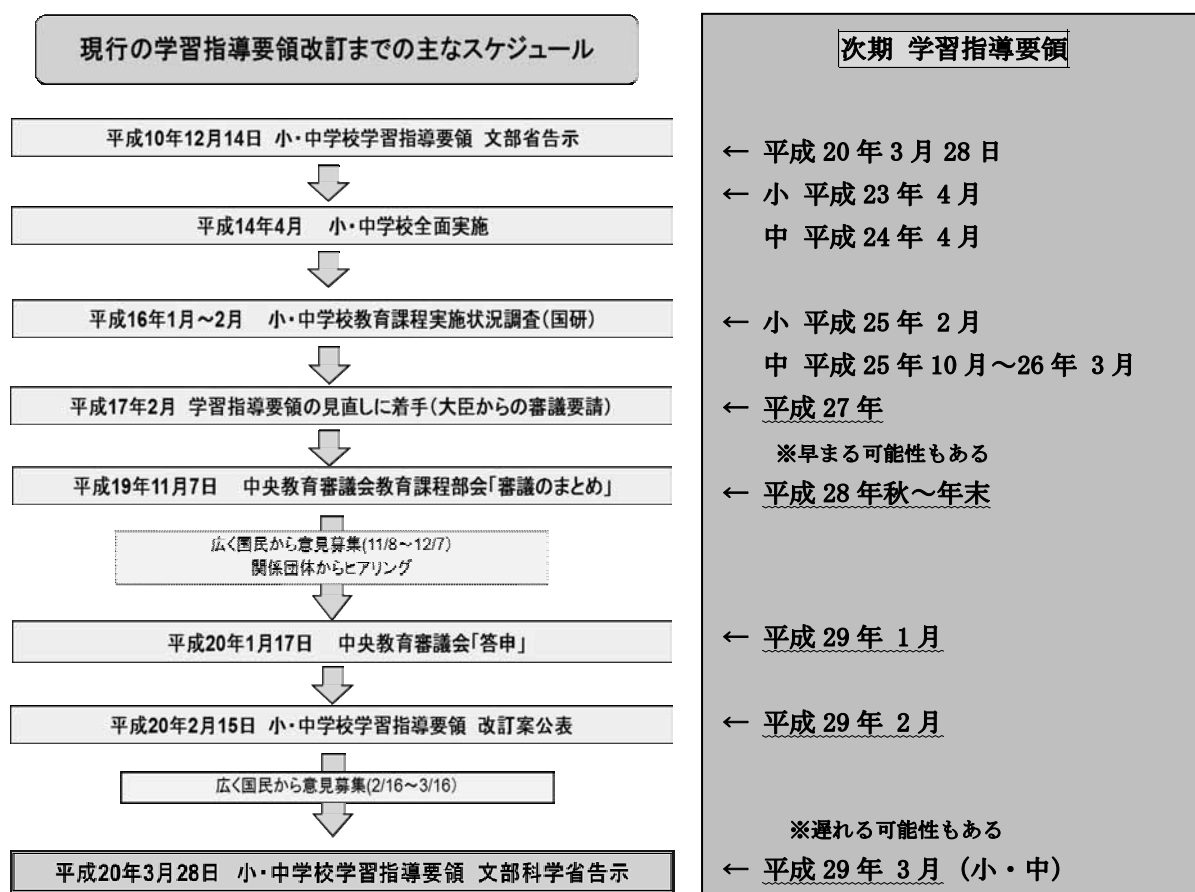
4: 実施内容

(1) 学習指導要領改訂に向けた具体的戦略の策定と提言

1) 次期学習指導要領改訂までのスケジュール検討

次期学習指導要領改訂において海洋に関する教育内容の拡充を図るには、学習指導要領の改訂に向けて効果的な働きかけを行うことが不可欠である。そのためには学習指導要領改訂へのプロセスを分析するとともに、内容拡充に必要な条件を整理し、いつまでに、誰が、誰に対して、何をすべきか、といった具体的な計画を立て、業界横断的に推進することが必要である。

そこでまず次期改訂までに行われる各事務手続きを予想し、具体的なスケジュールの作成を行うこととした。スケジュールについては東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの宮崎活志上席研究員がとりまとめた資料を参考に設定した。学習指導要領はおよび10年に1回の頻度で改訂が行われてきており、これまでの例に照らしてみると図のようになると考えられる。



(図1 学習指導要領改訂のスケジュール 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター資料より)

これによれば、次期学習指導要領の改訂は平成29(2017)年3月頃の告示が予想され、そこから過去の経緯をふまえて必要なプロセスを逆算していくと、中央教育審議会への審議要請は平成27(2015)年頃、事務局による見直し着手は平成25(2013)年頃と考えられる。しかし一方で10年毎の改訂では間隔が長いとの意見もあり、こうした社会的動きに配慮して2014年度中に審議要請が出る可能性もあるため、戦略立案については急いで実施する必要があることが明らかとなった。

2) 海洋基本計画見直しに向けた提言の実施

次期改訂に向けたプロセスとして直近の大きな動きが平成 25（2013）年 3 月に予定されている海洋基本計画の見直しである。海洋基本計画の見直しは平成 24（2012）年 5 月に参与会議が立ち上がり秋頃までに中間的な骨子案が作成されることから、ここに働きかけを行うためにはそれまでに効果的な提言を行う必要がある。そこで当財団は日本財団と共同で「海洋基本計画改訂に向けた海洋教育に関する提言」を取りまとめ、7 月 31 日開催の第 9 回海洋基本法戦略研究会¹でその内容を発表した。この提言は 9 月 25 日に総合海洋政策本部事務局を通じて羽田雄一郎海洋政策担当大臣（当時）宛に提出した。

提言は、制度面の強化、教育現場の環境整備、外部支援の拡充という 3 つの柱で構成され、その内容は以下のとおりである。

1. 海洋立国を担う国民の基礎的な素養育成のため、小中学校並びに高等学校において教科横断的に海洋に関する学習を行えるよう、学習指導要領の総則及び総合的な学習の時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」等に海洋の重要性を明確に位置付けるべきである。
2. 学校教育で海洋教育の実施を推進するため、文部科学省並びに国立教育政策研究所は海洋教育に関する事例集や手引きなど指導資料を作成するとともに、学校教員の指導力向上を図るため教員研修の充実などの措置を講じ、教育現場が主体的かつ継続的に取り組めるような条件整備を行うべきである。
3. 分野横断的に多様な事柄を扱う海洋教育を推進するにあたっては、教科書における海洋関連の記述の充実を図るとともに、それを補完する副教材の作成、水族館や博物館など社会教育施設あるいは水産業や海事産業など産業施設との有機的な連携を推進し、海洋教育の総合的な支援体制を整備すべきである。

なお、海洋基本法戦略研究会は「次期海洋基本計画に盛り込むべき施策の重要事項に関する提言」をとりまとめ、平成 24 年 8 月 31 日に野田佳彦内閣総理大臣・総合海洋政策本部長（当時）に要請したが、その中の「海洋に関する施策の総合的推進体制・法制度等の整備」において、海洋教育の推進の具体的内容は、当財団の提言の内容を反映したものとなっている（参考資料参照）。

3) 改訂に向けた必要条件の整理

提言でも示したとおり、次期学習指導要領改訂に向けての具体的な目標は、海洋教育が有する教科横断的な特性を考慮すると、学習指導要領の総則に海洋教育のコンセプトを位置づけることである。また、あわせて各教科や総合的な学習の時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」にも内容を盛り込むことも必要である。しかし、総則の中に記述を盛り込むには、単に海洋教育の重要性を訴えるだけでは不十分であり、社会的にその必要性が認知されているか、また実践が進んでいるか、の二つの条件を満たす必要がある。加えて政策的な働きかけも重要であり、教育政策ならびに海洋政策の両面からの検討が必要である。これら必要条件は、以下のように整理することができる。

¹ 海洋基本法の制定に尽力した超党派の国会議員や海洋関係各分野の有識者らで構成する海洋基本法戦略研究会（代表世話人：石破茂自由民主党幹事長）

① 社会的な必要性の認知

- ・海洋教育という概念が「環境教育」「情報教育」「食育」などと同等の認知度を有し、文部科学省や中央教育審議会などの教育関係者だけでなく、教育現場、および社会全般にその必要性が広く理解されていること。
- ・津波などへの海洋防災対策関連や、持続可能な社会に向けたや海洋との共生、また国際的協調のもとでの領海や管轄海域への管理意識、海洋資源・エネルギー、海洋文化などの重要性について、国民の理解・関心と学びへの機運が高いこと。
- ・海洋教育を推進する国際的な流れと外圧。
- ・各種メディアが海洋関連コンテンツを積極的にとりあげる環境があること。

② 実践の推進

- ・研究開発校、特例、特区制度など指導要領に縛られない枠組みで実践を積み上げ、海洋教育のカリキュラムと教材が蓄積されていること。
- ・海洋教育の価値と効果について理論構築が行われ、海洋教育が学力向上に有効であることを示せること。PISA や TIMS など国際的な学力調査も含む。
- ・教師教育のプログラムに位置づけられ教員の研修制度が整備されていること。

③ 政策的な働きかけ

a. 教育政策面

- ・文部科学省初等中等教育局、国立教育政策研究所、中央教育審議会初等中等分科会教育課程部会など教育行政への働きかけが行える体制があること。
- ・教育現場である教育委員会や教員の理解を得る活動が推進できる体制があること。
- ・大学の教育学部、教育大学に海洋教育研究の拠点整備とネットワーク構築をさらに拡充できること。
- ・教科書会社や教材会社への情報提供や資料提供など積極的な協力をを行うこと。

b. 海洋政策面

- ・内閣官房総合海洋政策本部を中心に海洋基本計画見直しにあたってより具体的な表記を求め、海洋政策の重点項目として位置づけること。
- ・海洋基本法戦略研究会や、そのほか海洋に関係の深い政治家や有識者などが協働で教育関係機関に働きかけを行うこと。
- ・造船・船用工業、海運・港湾、水産、海洋開発、資源エネルギー、海洋科学などのすべての海洋関連産業が協力して、海洋教育推進の働きかけを行うこと。
- ・国民運動としての海洋教育推進を展開できること。
- ・海洋教育協力支援機関の組織化を行うこと。

4) 戦略ロードマップの作成

上記で示した改訂までのスケジュールと必要条件を、具体的な戦略計画としてビジュアル化し、海洋教育を推進する機関の役割分担と実施時期を明確にするため、以下のようなロードマップのフォーマットを作成した。今後、実施機関と内容を充実させてゆくことで、より広域的かつ重層的に働きかけを行える基盤を作る。

新学習指導要領までの流れ(予想)			教育関係の動き	総合海洋政策本部	日本財団・OPRF	海洋基本法戦略研究会	東大と連携大学	海洋教育連絡会議	メディア	その他
2008 平成20	3/28	小中学校学習指導要領 文部省告示		3月 海洋基本計画策定	3月 小学校の海洋教育提言					
2009 平成21					3月 海洋教育ワシントン宣言 小学校編作成					
2010 平成22					3月 海洋教育ワシントン宣言 中学校編作成					
2011 平成23	4月	小学校 新学習指導要領 全面実施			7月 海洋教育ワシントン宣言 国枝編、英語編作成					
2012 平成24	4月	中学校 新学習指導要領 全面実施			3月 全国アンケート調査実施 8月 提言 12月 アンケート結果公表	8月 提言	9月 提言(東京大学)			
2013 平成25	2月	小学校学習指導要領実施状況調査(国研) ※前回+16年2月は教育課程実施状況調査の名で実施		12月 TIMSS調査結果発表	11月 参考会議提言					
2014 平成26	4月	中学校教育課程実施状況調査(国研)		4月 海洋基本計画見直し				1月 連絡会議立ち上げ		
2015 平成27	※早まる可能性あり	学習指導要領見直し着手 (大臣からの審議要請)		12月 PISA調査結果発表						
2016 平成28	秋～年末	中央教育審議会教育課程部会「審議のまとめ」 ハブコム募集・関係団体へアリップ								
2017 平成29	1月 2月 3月 ※遅れる可能性あり	中央教育審議会 答申 小中学校学習指導要領 改訂案公表 ハブコム募集 小中学校学習指導要領 文部省告示								

※東京大学海洋ライアンスの資料を基に作成

図2 戦略ロードマップ フォーマット

5) 海洋教育連絡会議の設置及び開催

先述のとおり、次期改訂への働きかけにおいては、海洋に関係する諸機関が協力して総合的に行う必要があり、ロードマップ横軸の実施機関をいかに多く獲得し、また共通のビジョンのもと連携して活動できるかが重要である。そこで海洋教育に関心のある関係機関と今後の具体的な方策について戦略的に議論し、また各機関同士の情報共有及び今後の活動について意見交換を行う場として、海洋教育連絡会議を立ち上げ 1月22日に第1回目の会議を開催した。概要は以下のとおり。

①日時：2013（H25）年1月22日（火）10:00～12:00

②場所：海洋政策研究財団 第1会議室

③参加機関：19機関27名（参考資料参照）

④議題

挨拶及び趣旨説明（海洋政策研究財団常務理事 寺島 紘士）

学習指導要領改訂に向けた戦略について（学習院大学教授 佐藤 学）

海洋教育連絡会議の進め方について（海洋政策研究財団事務局）

参加機関紹介 各機関の参加者（各2分程度）

ディスカッション

- ・各方面への働きかけ方
- ・活動事例の共有と、支援体制の強化・連携
- ・世論喚起

今後の活動について

会議では学習指導要領改訂に向けた戦略、海洋教育連絡会議の進め方、各方面への働きかけ、活動事例の共有と支援体制の強化・連携、世論喚起などのテーマについて議論を行った。今後検討すべき課題として、

情報共有のためポータルサイトなどの開設の可能性などが提案された。また戦略ロードマップのフォーマットについて、今後参加各機関が実施可能な事項の検討をしていくことが提案され、次回以降の会議で具体的にその内容を議論することとした。

(2) 海洋教育普及に必要な教育環境の研究

1) 海洋人文系教材の研究

海洋教育の普及に貢献する教材は、図鑑やガイドブック等、全国に数多く存在している。しかし、教育の現場においては、特に防災や生活に関する海の教育が依然として求められており、そのためには適切な教材が必要だというニーズは高く、中でも海洋に関する人文系の教材が不足していることが、H23 年度に実施した「小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査」と「教科書調査」で明らかになっている。

「小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査」においては、子どもたちが海に関してどのようなことを最も学ぶべきかを質問したところ、54.2%の回答者が海の災害や防災に関する内容が重要だとし、海と私たちの生活の関連性に関する内容についても 42.9%が重要だと回答した。また、学校外機関に期待するサポートを質問したところ、教材の提供があれば海の学習が充実するあるいは海の学習に取り組めるようになるという回答した学校が 49.1%あり、教材に関するニーズも高かった。

「教科書調査」においては、海洋教育の教材の中でも特に人文系の教材が不足しているということが分かっている。海に関係するキーワードを調査すると、地球温暖化、プレートテクトニクス、海洋汚染、海岸線の変化等の説明に関する理科系の題材を扱うものが多い。書店や図書館等で海洋に関する教材を検索しても、既存の学校で活用できるような教材は、海洋生物や海洋環境の仕組みなどを解説した理科系のものが多く、人文系の題材を扱う教材は少ない。

これらのことを合わせて考えると、日本全国どこにでもキッカケとして存在する人文系のテーマや事象を入口として据え、そこから海へと興味や学びをつなげるための仕掛けを持った教材が必要だと言える。その切り口として、本年度は、海の災害や防災等の教訓に関する情報を生活の中から伝える「妖怪」の果たす役割に注目した。「妖怪」の伝承は民話や神話に関連し、歴史学・社会学・民俗学的な価値が高い。そこで、人文系の分野から海洋教育を推進するための基礎調査として、海の妖怪に関する文献調査と海の人文系教材に関する聞き取り調査を以下の通り行なった。

2) 海洋人文系分野の教材に関する基礎調査

① 海の妖怪に関する文献調査

海の妖怪に関する文献調査では、まず海の「妖怪」「民俗学」「伝説」「神話」などに該当する文献をインターネットの検索ツールを利用して抽出した後、調査内容としてふさわしい文献を精査し(下記参考文献参照)、妖怪に関する基礎情報を①型、②名前、③出現場所、④概要、⑤対策という内容で分類した。本調査によって、全国にどのような妖怪が伝えられ、どのような状況をもとに、どのような教えを説いているのか、あるいは、説いていないのかということをおおまかに把握することが出来た(表1)。

表1：海に関する妖怪リスト

型	妖怪・怪異	亜種・関連怪異	出現場所	概要	対策
男性型	海坊主	海入道・海法師・海南坊	日本各地	海上に大きな黒い化物。見るだけで不吉。	
			宮城県石巻市網地島	海に引き込まれそうになる。	
			宮城県本吉郡大島(気仙沼市)	美女に化けて競泳を挑む。	
			愛知県伊良湖岬沖	船に女房を乗せたら出現。	
			桑名	俺の姿は恐ろしいかと訊く。	世を渡る以外に恐ろしいものはないと答える。
			大阪府貝塚市	全身漆のように黒い。3日で帰る。	
			阿波(徳島県)と土佐(高知県)の国境の沖合	高さ十丈。大仏のよう。	
			愛媛県宇和島市下波	按摩に化けて漁師の妻を殺した。	
			愛媛県温泉郡中島町	見ると長寿になる。	
			一つ目の大坊主	山口県岩国市	夜の川に船を出したら出現。
	海和尚		現れると颶風が起き災害をもたらす。「海島逸志」		
	和尚魚		海和尚と同じ。「和漢三才図会」「齊諧俗談」		
	海難法師	東京都伊豆七島	正月24日。見ると悪いことが。	家に籠る。雨戸に柵やトビラの葉。門口には籠。	
		三宅島	正月24日夜半に薬師堂のカラ猫が海難法師の供をして回る。	その声が聞こえる前に寝る。	
	海座頭	鹿児島県鹿児島郡黒島	夜の海上に立ってついでくる。		
	ぬるぬる坊主	鳥取県米子	胴回り二尺程の杭のような怪物。もたれかかり油をなすりつける。		
	海狸々(うみしょうじょう)	富山県水見市・新湊市	船の舳先に腰掛ける。驚くと船がひっくり返される。	黙って船底に打ち伏した。	
		山口県周防大島	夜半海底から樽をくれと言う。	底を抜いた樽を投げる。	
	海人(かいじん)		頭髮・鬚・眉・水掻きがある。「長崎見聞録」		
	手洗い鬼		香川県	三里をひとまたぎ。海で手を洗う。	
		オジョモ	讃岐地方	飯野山と青ノ山に足をかけ瀬戸内海の水を飲んだ。	
	手長足長		秋田県・山形県	鳥海山に住む。日本海の船乗りを食べた。	
	レブンエカシ		内浦湾(噴火湾)	アイヌ語で長老の意。鯨を8島飲み込む大きな化物。	
河童	浪小僧・波小僧	静岡県浜名郡伊佐美村曳馬野(浜松市)	波の音で天気を教えてくれる。		
	小法師(こぼし)	三重県志摩郡	河童。旧暦6月14日祇園祭に海で泳ぐと尻を抜かれる。		
	シリコボシ	三重県志摩郡和具町(志摩町)			
三重県志摩郡布施田町(志摩町)		天王祭の日に海に入ると尻から生肝を抜かれる。	山椒の枝を糸でまとめ胸からかける。		
海小僧		静岡県賀茂郡南崎村(南伊豆町)	大瀬下流ケイカイバの仏島。		
磯織鬼		伊豆諸島利島	悪き物。悪かれると急に腹が減り倒れる。	芋などを籠に入れておく。	
舞首(まいくひ)		伊豆国真鶴が崎(神奈川県舞鶴町)	1243~47年3人の悪者が互いの首を海に斬り落とす。首だけになっても争う。		

型	妖怪・怪異	亜種・関連怪異	出現場所	概要	対策
女性型	人魚		宮城県石巻市	海の主。	
			茨城県の海岸	鎌倉時代「古今著聞集」。人魚の死体が漂着。	
			富山県富山湾	1805年全長11m。450丁の銃で仕留める。	
			奈良県宇陀郡曾爾村 曾爾高原お亀ヶ池	赤子を抱かせる。	
			大阪府難波堀江	619年日本最古の出現。「日本書紀」	
			福岡県福岡市	鎌倉時代網にかかる。福岡県博多区竜宮寺。骨が残る。	
		アイヌソッキ	北海道内浦湾		
		ニイギヨ	岩手県下閉伊郡 番代村黒崎	毛の生えた髪を着た3歳くらい。	船のヘリを叩いてから潜る。
		イオ	佐渡ヶ島	美しい人魚。	
		人魚塚	新潟県大潟町雁子浜	男の下へ通う人魚	
		八百比丘尼	福井県若狭	人魚の肉を食べて800歳まで生きた。	
		三本杉	長野県長野市戸隠神社	若狭の漁師の子が人魚を食べ死んだため祀る。	
		川の淵にいた人魚	滋賀県蒲生町	三兄妹。619年日本最古の出現記録。「日本書紀」	
	アマビエ	肥後国 (熊本県)	1864年。農作物の豊凶や流行病の予言。		
	神社姫	肥前国 (長崎県・熊本県)	1819年4月19日。高さ二丈。人面で角。疫病を予言。		
	ザン	九州・沖縄	食べる時は浜で料理。		
		石垣島	助けてもらったお礼に大津波を予言。		
	ザンノユ	奄美大島	大時化になる。	船は急いで帰港。	
		ルルコシンブ	北海道	美しい。心惹かれると死ぬ。	
	磯女		長崎県五島列島宇久島	船を襲う。乳から人間。	
			長崎県南高来郡西郷 (瑞穂町)	砂浜に現れる怪女。長い黒髪の若い女。	
			熊本県天草市深海	罎網を伝って船に侵入。長い黒髪の先端から血を吸う。	知らぬ土地で碇泊する際は罎網を取らず罎だけ。
			島原の小浜		苔の毛を3本着物の上に載せて寝る。
			熊本県天草郡御所浦島	白髪の翁に化けて漁師の昼飯をねだった。	
		磯姫	鹿児島県出水郡長島町	人の生き血を吸う。絶世の美女だが見ると死ぬ。	
		磯女子	長崎県対馬南部	雨夜に濡れそぼった姿で出現。	
			杏枝	海や沼から全身ずぶ濡れで出現。	
温泉郡怒和島・二神島			髪の毛を濡らして海から出現。		
磯女子・笑い女子		愛媛県宇和	洗い晒しの髪。ニタリと笑い気を許すと一生つきまとう。		
浜姫・海女・海姫		石川県江沼郡橋立村 (加賀市)	美女。見られると影を呑まれ死ぬ。		
海女房		島根県出雲市十六島	海坊主の奥さん。子連れ。塩漬けの鰯を食べる。		
海夫人			「大和本草」		
濡れ女・濡れ女子・ ヨロヅナセノ		島根県など	赤ちゃんを抱かせる。牛鬼の手先。		
ダキ	佐賀県東浦郡鎮西町 加唐島	魚をくれと近づいてくる。	罎網を取らず罎だけおろす。		
共潜き (ともかずき)		三重県志摩郡	海女が海中で自分そっくりの人を見る。	道具に魔除けの印を付ける。	
		静岡県賀茂郡南崎村 (南伊豆町)	似た人がいるからと潜らなかつた女房を潜らせたら死亡。		
白負い婆 (うすおいばあ)		新潟県佐渡郡小木町 大字宿根本	あかえの京に2~3年に一度姿を見せるが無害。		
長井戸の怪		新潟県佐渡郡金泉村 (相川町)	海底の蛇の目の傘がざんばらの髪の人に。		

型	妖怪・怪異	亜種・関連怪異	出現場所	概要	対策
船型・怨霊型	舟幽霊	船幽霊・沖幽霊・いなだ貸せ	全国各地	遭難者の霊 柄杓で水を入れられる。	底を抜いた柄杓を準備。
		幽霊船		水難者の霊。風に逆らい走る。右舷左舷のランプ位置が逆。色が違う。	
		幽霊船・大阪丸	山口県平群島	船の輪郭を象するような電飾。	
		亡霊船 (もうれいせん)	福島県	小雨の晩に風に逆らい走る。	底を抜いた柄杓や飯をどっさり海に放る。
			和歌山県有田郡	荒天の雨夜。死んだ時に乗っていた船の形。	度胸を握えて注意深く見る。
		船亡霊	和歌山県有田郡	遭難者が亡霊に。船べりに頭をかける。	竈の灰を船べりに撒く。
		亡者船	青森県下北郡東通村 尻屋崎	人を見た鮫が化ける。	味噌を水で溶かしたものを流す。
			岩手県九戸郡	盆に出現。塗り取りを貸せと言う。	鬼の豆を撒く。
			愛知県日間賀島	盆の16日に出現。	髪の毛を燃やすか魚を焦がす。
		亡霊火 (もうれいび)	宮城県牡鹿郡女川町	突然帆船が出現避けようとしても前方に。遭難者の亡霊。	
		亡霊ヤッサ (もうれんやっさ)	千葉県銚子市・海上郡	霧深い日や時化の日沖が明るくなり声が。	底を抜いた杓子を与える。
		引き亡霊 (ひきもうれん)	三重県志摩郡・度会郡	満潮と干潮の境のナイバで風のない夜燐光が燃え揺らぐ。	
		迷い舟・迷い船	福岡県遠賀郡	盆の月風に逆らい進む帆船。	
			玄海町(宗像市)	盆の内に出現。	盆の15日の夜の漁はタブー。
		迷い仏・迷い	福岡県沿岸	遭難者の浮かばれない霊。暴風雨の夜の海上の怪火。	
		よいよい船	福岡県宗像郡福岡町	盆の16日に出現。	
	オーバコ	山形県飽海郡飛鳥	柄杓をくれと言われる。	刃渡り三〜六寸の短刀を舟の尾に結びつけて流す。	
	ポーシン	三重県志摩	雨夜に出現。船べりに後ろ向きに並んで腰掛ける。	タテ楫で搦めると海に落ちる。ハヤ楫の隙間から覗くと見えない。	
	平家一族の怨霊	兵庫県尼崎市大物浦	源義経が頼朝に追われた時、平家の怨霊が沈めようとした。	船中での会話禁止。	
	グゼ		小雨の晩に風に逆らい走り見ると船が動かない。	灰を撒く。苔を焼いたものや燃えさしの薪を投げる。	
	ヨバシリ	山口県阿武郡相島 (萩市)	こちらが走れば相手も走って逃がす。	灰を撒いて音を立てると逃げる。	
	モンジャ	モジャ・モジャ火	青森県北部海岸地方	海で死んだ者の魂。亡者。庭で足を叩く音。寒いから火を焚けと言う。	
			北津軽郡小泊村	浜で火を焚くとあたりになる。	
		モレ火	西津軽郡館岡 (木造町)	夜中に大戸を叩く。	
			西津軽郡勝ヶ沢町	人に憑き凍えさせる。	
	シキ		三重県北牟婁郡賀利村 (尾鷲市)	時化の晩に船や山を幻視させる。	
			九州西部	夜の海が魚群で白くなる。	
香岐			船に憑くと魚が取れない。白い光で船の中まで明るい。	ランプをつけると消える。	
シキオカク		神奈川県江ノ島	5月頃に波の下が光る。		
ウグメ	ウーメ	シキガツク・シキカケテクル	長崎県甌島	海で死んだ者が魚になってついてくる。	
		長崎県平戸	船に憑くと動かなくなる。		
		熊本県天草郡御所浦島		鰻を入れるぞと言いながら石を投げ込み、その後鰻を入れる。	
蒙古高句麗 (もうここくり)		和歌山県	3/3山5/5海に。麦畑では人、神小浜では鯛、海上では海月。蒙古襲来時に水死した人の霊魂。		
底幽霊		長崎県・佐賀県	海底に真っ白な姿で出現。成仏できない水死者の霊。		
七人みさき		愛媛県・高知県など	海で遭難した七人の亡霊。人について殺し成仏する。		
シラミ	シラミュウレン	愛媛県	海で死んだ人の亡霊。バカと呼び、聞こえたと船を沈める。		
			「日本妖怪大全」		
迷い火		山口県岩国市	天地の沖から現れた迷い火の中に人の顔多数。		
船玉様	船霊様・船魂様			音を立ててお告げをする。	
	じん八様	愛知県知多郡日間賀島	遠州灘で嵐にあり、念じて助かった。		

型	妖怪・怪異	亜種・関連怪異	出現場所	概要	対策	
動物型	牛鬼(うしおに)	ぎゅうき・ごき	近畿~九州	頭はウシ体はクモ。		
			岡山県邑久郡牛窓町・山口県光市牛島	牛鬼が名前の由来。		
			出雲の国(島根県北東部)・鳥取県鳥取市・気高郡気高町	雨降り続きの時に体まわりつく白い光。		
			高知県高知市土佐山	牛鬼淵。川に毒を流して魚を取ろうとして山崩れが。		
			愛媛県宇和島市	和霊神社の例祭に牛鬼の山車。		
			四国・近畿地方	牛鬼淵・牛鬼滝が数多く有る。		
			和歌山県三尾川	例外的に人を助けた。		
	海牛(うんむし)		鹿児島県垂水市	角がある黒い牛の姿。盆の後の27日。	海に出ない。	
	コシンプ	コシンプ・コシンプイ・コシンプウ・コシンプク	樺太・北海道	獣が人間に懸想して悪くこと。		
			アヅイコシンプク	北海道	アザラシが化けた女の妖怪。	
			ルルコシンプ	北海道	海獣。	
			イワコシンプ	北海道	狐など。	
	ニライの大王		沖縄県・鹿児島県薩南諸島	海の彼方のニライカナイ(兼土)の王。		
	磯撫(いそなで)		那覇松浦(佐賀県・長崎県)沖	尾の長いサメのような姿。北風が吹くと出現。船員を撫で落とし食べる。		
	七本鯨(しちほんざめ)	磯部さん	愛知県幡豆郡佐久島	6月14日に龍神の使いとして来る。	泳いではいけない。	
			三重県志摩郡	旧暦6月24・25日のおさごい日という祭りに出現。		
	ジンベイサマ		宮城県金華山沖	首から尾が分らないほど大きい。鰹が大漁になる。	竿でつつくと沈む。	
	タテオベス		新潟県佐渡島内海府北小浦(両津市)	剣のようなひれを持つ大魚。	見かけたら黙って逃げる。	
	赤い魚		安房国野島ヶ崎(千葉県白浜町)	三里以上の大きさ。「絵本百物語 桃山人夜話」		
	鯉の大助(さけのおおすけ)		東北	毎年決まった日に川を渡る。	声が聞こえないように耳ふさぎの餅を焼いたり一晩中酒を飲み騒ぐ。	
	イクチ	イクジ	常陸(茨城県)外海	通りすぎるのに十二刻かかるウナギ。油を残す。		
			西海・南海(九州・近畿)	船の舳先にかかる。通りすぎるのに2・3日。		
			小さなイクジ	豆州・八丈の海辺		
オキナ	アDOIコロカムイ・アドシカスマカムイ・チカイタチベ・ヤツインゲ	北海道	鯨を飲み込む巨大魚。			
グズ		石川県加賀市動橋町	巨大な鱈。秋に人身供養を要求。口から火を吐き田畑全滅させる。			
海蜘蛛		筑紫(福岡県)	白い綿で船を引っ張る。			
平家蟹	武文蟹	山口県下関市・香川県高松市	壇ノ浦で敗れた平家の恨みが海の底にたまった。			
		明石の浦	恨みが凝って鬼面の蟹に。			
		尼崎の浦	恨みが凝って鬼面の蟹に。			
出世蝶(しゅっせぼら)		静岡県西部地方・沼津市	深山の法螺貝が山・里・海にそれぞれ1千年で竜に。			
栄螺鬼(ささえおに)		三重県海岸部・三重県波切	助けた女に薬丸を取られ海に捨てた所栄螺鬼に。			
ヤウシケブ		礼文筆(虻田郡豊浦町)	暴れる大蜘蛛をレブンカムイ(海の神)が海中に引き入れ大ダコに。			

型	妖怪・怪異	亜種・関連怪異	出現場所	概要	対策	
無形型	虚空太鼓 (こくうだいこ)		山口県周防灘大島瀬戸	旧6月ころ海から太鼓の音が聞こえる。		
	ジャン		高知県	音と同時に光る。数日間不漁。		
	石投げんじょ	石投げん女 石投げん尉		長崎県西彼杵郡 江ノ島近海	五月露のかかる晩突然大きな岩が崩れるような音。	
					「総合日本民俗語彙」	
					「広辞苑」	
	海鳴り小坊主		石川県羽咋市	上杉謙信に追い詰められ海で死んだ僧兵の亡魂。		
	海月の火の玉 (くらげのひのたま)		加賀国大聖寺 (石川県加賀市)	赤い火の玉。		
	たころう火		広島県御調郡	海上に2つの火。		
	龍灯 (りゅうとう)		周防国(山口県) 野上庄熊野権現	毎年12月晦日の丑の刻。		
			丹後国(京都府北部) 与謝郡天橋立	毎月16日の夜半に丑寅の方角から出現。		
	ムラサ		隠岐郡都万村	ニガシオ(夜光虫の光る潮)の中で丸く固まって光る。	刀か包丁を竿の先に付けて鱧の海面を左右に数回切る。	
	不知火 (しらぬい)		有明海・八代海	海上を飛ぶ怪しい光。	船を出すことを禁止。	
	オグメ		長崎県諫早	怪火。3度手を叩くと山の峰より飛んでくる。		
	靈気楼			富山県・石川県など	大きなハマグリを吐いた息。	
		狐だま		青森県津軽	狐が出す。	
		喜見城(きけんじょう)・ 狐松原(きつねまつばら)		富山県魚津市		
		狐の森		三重県桑名		
		和のわ (なごのわ)		四日市		
		ながふ		伊勢		
		蓬萊島 (ほうらいとう)		広島県宮島		
		浜遊び		山口県		
	浮きもの		新潟県岩船郡粟島	5~6月の花曇り。数里沖に大きな魚か陸地が浮動して見える。		
	海塞ぎ	山塞がり	鹿児島県奄美大島	沖合に山が現れる。	慌てずに目を閉じ念仏を唱える。	
タテエボン		新潟県佐渡島 外海府小田	目の前に突然高々と立ちはだかる何かが船に倒れこんでくる。			
米かし		愛知県幡豆郡佐久島	海岸の藪で米や小豆をガシガシと磨ぐ。			

参考文献：

- ・ 常光 徹、2010、「みたい!しりたい!しらべたい!日本?の妖怪大図鑑〈3〉海の妖怪」 ミネルヴァ書房
- ・ 水木 しげる、 荒俣 宏、2011、「水木しげるの妖怪地図—47 都道府県ご当地妖怪を訪ねる」、別冊太陽 太陽の地図帖 8、平凡社
- ・ 水木 しげる、村上 健司、2005、「日本妖怪大事典」、Kwai books、角川書店
- ・ 講談社、2008、「DISCOVER 妖怪 日本妖怪大百科 VOL. 06 ~海から寄り来るものの伝説」、講談社
- ・ 中村 哲 (著、編集) 梶田 叡一 (監修)、2009、「学校を活性化する伝統・文化の教育」、学事出版
- ・ 全日本郷土芸能協会、「民俗芸能で広がるこどもの世界」、全日本郷土芸能協会
- ・ 緒方英樹 著、2012、「身近に楽しむ・学ぶ・語り継ぐ ふるさとの歴史資産」、オーム社
- ・ 丸山顕徳 編 (著)、2012、「古事記 環太平洋の日本神話」 (アジア遊学 158)、勉誠出版

② 海の人文系教材に関する聞き取り調査 1

海の人文系教材に関する聞き取り調査では、日本の海洋人類学をリードしている本事業の委員、総合地球環境学研究所の秋道智彌名誉教授に、海洋人文系の教材を作成していくにあたっての要点等を確認した。具体的な内容は以下の通り。

- 日程： 平成 24 年 12 月 25 日 (火) 13 : 30~15 : 00
 会場： 海洋政策研究財団第 2 会議室 (東京都港区虎ノ門 3-4-10)
 参加者： 総合地球環境学研究所名誉教授 秋道智彌氏
 本事業担当者 3 名

内容： まず、海洋の人文系のジャンルとして、詩・民話・神話・伝説・方言などがあげられた。次に、魚・食・船・神社・祭り・海賊・妖怪などといった特定のテーマから海の問題を広げていくことが出来るということが共有された。更に、今後の海洋人文系の調査において有益な「国史大辞典」「魚と貝の事典」「ものと人間の文化史シリーズ」などの文献や立教大学高井先生、南山大学後藤先生、成城大学小嶋先生、甲南大学出口先生等の有識者を紹介していただいた。

まとめ： 聞き取り調査を通して、人文学という枠の中でも海洋教育の教材として役立つテーマは沢山あるということが分かった。また、妖怪など一つのテーマからも文化・歴史・地理・自然観・生態・民俗にまたがる多様な学問分野に話題を広げていくことが出来るということが確認できた。出版物・ホームページ・データベースなど数ある教材の中で、どのような教材を具体的に作成するのかを決めていない段階での調査だったため、テーマによって最良の表現方法が異なることも分かり、今後の作業を組み立てていくための重要な調査材料となった。

③海の人文系教材に関する聞き取り調査 2

海の人文系教材に関する第 2 回目の聞き取り調査として、小中学校の教育現場に精通している関係者を中心に、学びの入り口となる海洋人文系教材の要点等を確認した。具体的な内容は以下の通り。

日程： 平成 25 年 2 月 3 日（日）10：00～15：00

会場： 海洋政策研究財団第 1 会議室（東京都港区虎ノ門 3-4-10）

参加者： 千葉県富津市立環小学校校長 今井 常夫氏

上越教育大学キャリアコーディネーター 五島 由美子氏

文部科学省初等中等教育局教科調査官 田村学 氏

本事業担当者 4 名

内容： 妖怪には、お化けや昔話と類似共通する部分があり定義が曖昧であるということや、可視化された妖怪の表現方法が人や場所によって違うことなどについて議論された。妖怪が持つこの曖昧な部分こそが、子供の想像力を膨らませ「怖さ」と「興味」を融合させる対象になるということが確認された。また、妖怪は、大人が子供に教育する手段としての「道徳」や「教訓」の材料となっていることも分かった。これは、漁師や船乗りなどの海に関わる職人が持つ技術・直感・暗黙知を、妖怪として視覚化・人格化して伝えているということからも解る。教材のアイデアとしては、「子どもに読み聞かせたい海の妖怪」「妖怪を探せ」「2 コマ漫画」「落語用教材」「妖怪絵巻物」「妖怪の創作」などがあげられ、それらの教材をハードコピーだけではなく、インターネットやアプリケーションを使ったデジタル資料にする可能性や小中学校参加型のイベントにしつつ作成していくことなどが提案された。

まとめ： 妖怪が子供の関心の対象であるからこそ、妖怪を通して海への興味や学びを深められる可能性があるということが共有できた。また、これまで、「語られている妖怪」を中心に調査を進めていたが、本調査を通して「新たな妖怪」を何らかの形で創作し、海とのつながりを意味づけることも可能だということがわかった。この発見は、全ての妖怪が必ずしも教訓や教えを説いていなかったという文献調査の分析結果から一歩前進出来る材料となった。

3) 今後の活動について

今年度は、海洋教育の普及に必要な教育環境としての材料を洗い出し、それを精査する作業が進められた。この作業を通して、海洋に関する人文系の教材を「妖怪」というテーマで進めていく引き出していくという方向性が見えてきた。妖怪は、子供の関心を引き出す材料となることから見せ方や仕掛け次第で、海洋教育の教材としてのインパクトが期待できる。今後は、文献調査や聞き取り調査の成果をいかして、具体的にどのような方法が海洋教育を広めていくために有効なのかということ学校参加型のイベント等も考慮した上で進めていく必要がある。

(3) 外部支援体制の組織化

日本財団、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと協力し、お茶の水女子大学、岡山大学、琉球大学、横浜国立大学など海洋教育研究拠点大学との連携会議を通じて、海洋教育研究の進捗状況と方向性について情報共有を図るとともに、これら機関が個別に有するネットワークの連携に向けた検討を行った。また後述する海洋教育の全国調査で明らかとなった外部支援機関の分類を進め、学校のニーズや実態に即した外部支援体制の検討を始めた。その結果、外部から支援を受けている学校の3割以上が漁業協同組合など漁業関係であることが判明した。今後はこの調査結果を参考に、外部支援体制の組織化について検討を進める予定である。

(4) 教育研究の推進

学校教育での海洋教育の普及推進を図るためには、現在わが国の学校で行われている海洋に関連した教育の実施現状を把握していなければならない。これについては、当財団が日本財団および東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと共同で平成24年3月に実施した「小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査」の結果、全国の小中学校の5分の1を超える6,706校から回答を得て、およその姿が明らかとなった。平成24年12月に一次集計を公表したところ大きな反響を得たが、回答のうち学習概要・体験の自由記述については個人情報や個別の学校情報が多く含まれていたことから集計・公表を見送った。しかし、合計で1,540校から寄せられた自由記述回答の中には、特に総合的な学習の時間や課外活動など学校裁量で内容が決定される時間枠での取り扱いや、臨海学校などの現状について具体的な記述が多く寄せられ、わが国の義務教育における海洋教育の実態を示す貴重なデータが多く含まれていることがわかった。そこでこれらを集計・分類し、資料として取りまとめた。

その結果、総合的な学習の時間や課外活動など学校裁量で内容が決定される時間枠で海洋教育を実施している学校では、体験学習を行っている例が8割程度あると考えられ、海洋教育における体験学習の重要性が伺えた。海洋教育の教育課程上の位置付けについては、教科の中では総合的な学習の時間で扱いが最も多く、次いで社会、生活の順に記述が見られた。教科外では、修学旅行、遠足の順に記述が見られた。また臨海学校の実施状況についても分類を試みたが、これは非常に困難であることが判明した。その理由は海洋に関する体験学習の名称は86種類におよび、また宿泊を伴うと思われる体験学習も、海洋をメインテーマとするもの、自然や野外をテーマとするもの、宿泊をメインテーマとするものと3つに分類できるなど、海洋に関する体験学習の実態は多岐にわたるためである。臨海学校の実施が減ったと指摘される背景には、名称や目的の多様化も要因の一つとして考えられる。なお海洋教育実践における東日本大震災の影響については、1,540件のうち36件(2.3%)が震災の影響を受けたと記述している。

<自由記述欄の集計・分析結果>

アンケート質問票中の自由記述に関する設問の内容

- 質問3：あなたの勤務する学校は、以下のどれに最も近いですか？
最も近い選択肢の番号に○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 海に関する教育や活動は行っていない。 |
| 2. 海に関しては教科書に載っている範囲の内容について教えている。 |
| 3. 総合的な学習の時間で、「海そのもの」あるいは「海に関わるもの(生物や仕事など)」をメインテーマとした学習を行っている。 |
| 4. 総合的な学習の時間で、メインテーマとしてではないが、「海に関わるもの」を取り上げたり学習したりしている。 |
| 5. 教科と総合的な学習の時間を連携させるなどして、海洋教育を重視している。 |
| 6. 教育課程外で海に関する活動を行っている。 |

- 質問3-2：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きます。
その海に関する学習や活動は、どのような内容の学習ですか？

対象学年：	年生	時数：	時間
概要：			

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

- 質問3-3：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きます。
その海に関する学習において、体験学習(臨海学校、漁村体験、磯の調査等)を行なっていますか？
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。またそれはどのような体験学習ですか？

体験学習の有無：	1. 行なっている	2. 行なっていない
概要：		

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

対象学年

質問 3-2 における対象学年毎に回答するを集計した（複数学年の回答あり）。

学年	回答数	回答率	全回答校 における 該当率
小学1年	177	17.1	4.2
小学2年	200	19.3	4.7
小学3年	336	32.4	8.0
小学4年	396	38.2	9.4
小学5年	730	70.3	17.3
小学6年	371	35.7	8.8
小学校計	1,038		n= 4,216
中学1年	281	65.3	11.2
中学2年	223	51.9	8.9
中学3年	163	37.9	6.5
中学校計	430		n= 2,503
その他・不明	10		

※複数学年の回答があるため、計はいずれかに回答した件数

※小中学校は両方にカウント

小学校においては、5年生が最も多く 730 件(70.3%)であった。中学校においては、1年生が最も多く 281 件(65.3%)であった。

時数

回答に幅がある場合は、多い方で集計した（「3～6時間」の場合 6時間）。学年毎の時数が記載されている場合は最も多い時数で集計した。「2泊3日」「1日」等は1日6時間として集計した。

学年	回答数	回答率	全回答校 における 該当率
5時間以内	477	36.3	7.1
10時間以内	335	25.5	5.0
20時間以内	327	24.9	4.9
それ以上	159	12.1	2.4
その他・不明	16	1.2	0.2
計	1,314		n= 6,706

5時間以内の回答が 477 件(36.3%)で最も多かった。10時間以内と 20時間以内がほぼ同じで約 25%であった。但し、この時数に体験学習を含んでいる回答とそうでない回答が見受けられたため、それらを分けて質問する必要があった。

海洋教育の形態

質問 3-2 の海洋教育の概要を以下の 3 つに分類したところ、次の表のようになった。

体験学習のみ：臨海学校等における体験のみで完結するような学習活動

体験学習と事前事後学習：体験の前後に学校における学習を組み合わせた学習活動

総合的・全学的な学習：より総合的あるいは複数の学年にまたがるような学習活動

質問 3-3 の体験学習の自由記述内容や、時数も参考にした。但し、時数は校外学習を含めている場合とそうではない場合があり、単純に時数が多いからと言って総合的な学習とは言えない。そのため判断が難しいものも多かった。また、自由記述の集計全般について、その学習が以前行われていたものか、現在行われているものか、あるいは今後行われるものであるのかの区別はしなかった。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率	全回答校における該当率
体験学習のみ	684	44.4	10.2
体験学習と事前事後学習	131	8.5	2.0
総合的・全学的な学習	385	25.0	5.7
その他・不明	340	22.1	5.1
計	1,540	n= 1,540	n= 6,706

学習概要もしくは体験内容の自由記述に回答した 1,540 件のうち、約 44% (681 件) の記述内容が体験学習のみであり、事前事後学習を伴うものをあわせると約 53% (812 件) であった。総合的・全学的な学習であったものは約 25% (385 件) であった。

体験学習の重要性

質問 3-3 の体験学習内容として、「質問 3-2 と同じ」という回答が多かった。これは海洋教育において体験学習が中心的存在であることを示していると考えられる。そこで海洋教育の形態において体験学習のみに該当するものに加え、「質問 3-2 と同じ」「上記参照」等の回答、及び、質問 3-2 は無回答で質問 3-3 のみに回答があったものをカウントしたところ次のようになった。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率	全回答校における該当率
体験学習のみ	684	44.4	10.2
体験に「概要と同じ」	266	17.3	4.0
概要無回答・体験回答	45	2.9	0.7
上記のいずれかに該当	779	50.6	11.6
		n= 1,540	n= 6,706

質問 3-3 の体験に概要と同じと回答されたものは 266 件、質問 3-3 のみの回答が 45 件あり、体験学習のみだったものをあわせると、779 件にのぼった。これは自由記述回答校の半数にあたり、海洋教育における体験学習の重要性がうかがえる。

宿泊を伴う学習活動の有無

質問 3-2 の海洋教育の概要、もしくは質問 3-3 の体験学習の内容から宿泊を伴う活動があるかどうかを判断し分類した。時数も参考にした。宿泊日数が記載されているものや、宿泊学習、宿泊研修等を宿泊ありとし、臨海学校などは宿泊の可能性が高いとした。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率	全回答校における該当率
宿泊あり	443	28.8	6.6
宿泊の可能性高い	148	9.6	2.2
宿泊の可能性低い	949	61.6	14.2
計	1,540	n= 1,540	n= 6,706

学習概要もしくは体験内容の自由記述に回答した 1,540 件のうち、約 29% (443 件) が宿泊を伴う学習を行っていた。宿泊の可能性が高いものもあわせると、約 38% (591 件) が宿泊を伴う学習を行っていた。一方、宿泊の可能性が低いものは約 62% (949 件) であった。

短期集中型体験学習の種類

青少年自然の家や海洋研修センターにおいて、臨海学校や宿泊研修などの短期集中型の体験学習（宿泊を伴うことが多い）が行われていることが多いため、それらの分類を試みた。質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、完全に同一の名称が記載されていた場合にカウントし、同名以外の場合の判断は行わない。例えば「海洋の学習」と記載されていても、「海洋学習」とはカウントしなかった。「体験学習」は名称であるのかが判断できないためカウントしていない。同一校が違う呼び方をしている場合もあり、その場合は複数カウントした。

大きく以下の 3 つにわかれた。

- ・海洋をメインテーマとする学習
- ・自然や野外をテーマとする学習
- ・宿泊をメインテーマとする学習

86 件もの呼び名があった。「海洋」の中では、「臨海学校」が 89 件で最も多かった。「自然」の中では「自然学校」と「自然教室」が 26 件で最も多かった。また「宿泊」の中では、「宿泊学習」が 72 件で最も多かった。

分類	名称	回答校数	分類	名称	回答校数	
海洋	臨海学校	89	自然	自然学校	26	
	海事研修	26		自然教室	26	
	臨海学習	25		環境教育	22	
	漁村体験	24		環境学習	19	
	臨海自然教室	20		自然体験学習	12	
	海の学習	10		野外活動	11	
	海の学校	7		環境体験学習	5	
	海洋体験	7		自然体験教室	4	
	水産教室	7		野外学習	3	
	マリン活動	7		野外宿泊学習	3	
	海洋教室	6		自然体験	2	
	海浜学校	5		環境活動	1	
	海洋体験学習	5		環境教室	1	
	臨海学舎	5		キャンプ学習	1	
	マリン体験	4		宿泊自然教室	1	
	海浜学習	3		宿泊野外実習	1	
	海洋学習	3		少年自然活動	1	
	海洋研修	3		長期宿泊自然体験授業	1	
	海事教室	2		野外教育活動	1	
	海洋環境教室	2		野外実習	1	
	海洋実習	2		野外体験学習	1	
	マリンスクール	2				
	臨海学園	2		宿泊	宿泊学習	72
	臨海体験学習	2			宿泊研修	35
	海体験学習	1			宿泊体験学習	21
	海の体験学習	1			宿泊体験	14
	海辺の学校	1			宿泊訓練	13
海事学習	1		集団宿泊学習	11		
海浜キャンプ	1		集団宿泊教室	9		
海浜教室	1		宿泊体験活動	8		
海浜自然教室	1		集団宿泊訓練	6		
海浜宿泊体験	1		宿泊活動	4		
海浜体験	1		宿泊教室	3		
海洋学舎	1		合宿訓練	2		
海洋活動	1		集団宿泊活動	2		
海洋訓練	1		集団宿泊研修	2		
海洋自然体験	1		集団宿泊体験	2		
漁村宿泊研修	1		宿泊合宿	2		
シーサイドスクール	1		合宿体験	1		
汐の学校	1		教育合宿	1		
宿泊海洋体験学習	1		宿泊体験研修	1		
洋上研修	1		生活体験学習	1		
臨海合宿	1		長期宿泊学習	1		
臨海研修	1					

教育課程上の位置付け

質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、教育課程上の位置付けをカウントした。前述の短期集中型体験学習のカウントとは異なり、多少の判断をしつつカウントした。例えば、「総合的な学習」や「総合学習」が「総合的な学習の時間」を示していると考えられる場合はそのようにカウントした。

名称	回答校数	名称	回答校数
総合的な学習の時間	156	夏季行事	1
生活	24	余剰時間	2
社会	43	社会見学・社会科見学	11
理科	16	校外学習・郊外研修	18
地学	1	移動教室	9
国語	3	遠足	35
美術・図画工作	2	修学旅行	47
体育	4	学習旅行	3
道徳	1	クラブ活動・部活動	14
特別活動	7	生徒会活動	5
学校行事	34	PTA活動	11
		子ども会活動	4

教科の中では、総合的な学習の時間での扱いが 156 件と多かった。次いで社会が 43 件、生活が 24 件であった。教科外では、修学旅行が 47 件と多く、次いで遠足の 35 件であった。

学習の種類

質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、学習の種類をカウントした。教育課程上の位置付けと同様に、多少の曖昧さを持ってカウントした。

- ・「個別・班別学習」には、課題やテーマ毎に個別あるいはグループに分かれて学習するような方法を採用しているものをカウントした。「テーマ」「課題」「班」「グループ」「個別」「個人」。
- ・「縦割班学習」には、異なる年齢間でグループを作って活動しているものをカウントした。「縦割」「たて」「縦」「異年齢」「異学年」。
- ・「地域・郷土学習」には、郷土、地域、ふるさとなどについて学習しているものをカウントした。
- ・「調べ学習」には「調べ」「調査」などが含まれるものをカウントした。
- ・「課題学習」には個別あるいは班別に「課題」を設定し調査するようなものをカウントした。ここで言う「課題」とは、「解決すべき事柄」ではなく、「学ぶべき事柄」といった意味合いである。
- ・「心・態度の育成」には、「海を大切に思う」「漁師の思いを考える」「みんなで力をあわせる」など心や態度、考え方の育成について明示されているものをカウントした。

名称	回答校数	名称	回答校数
個別・班別学習	57	地域・郷土学習	159
調べ学習	245	交流	35
課題学習	30	食育	4
縦割班学習	8	防災教育	15
進路学習	2	エネルギー教育	3
職場体験	35	ジオパーク学習	13
キャリア教育	5	心・態度の育成	85
産業体験学習	1		

調べ学習が 245 件と多く見られた。また地域・郷土学習も 159 件と多かった。食育には調理体験などをカウントしていないため少ないが、それらをカウントすると多くなると考えられる。

学習の概要と 12 領域

質問 2-2 学習の概要において、「～について学ぶ」等のように学習の目標やねらい、具体的な内容が示してあれば、それを 12 領域に分類することを試みた。但し、体験学習は極力判断材料としないようにした。

本来 12 領域は海について学ぶべき「要素」の分類なので、それらの組み合わせである学習の目標やねらいを 12 分野に分類するのは困難であったが、次のようなルールで分類を試みた。

- ・「地域の海の学習」「自分の地域と他の地域の比較」「海・水の大切さ」「海の楽しさ」「海の怖さ」「協調性」「仲間づくり」「個性の伸長」等は、産業や生活、エネルギー等多くの領域にまたがるため分類しなかったが、学習の種類において「地域・郷土学習」「心・態度の育成」にカウントした。
- ・「街づくり」は J 経済・産業にカウントした。
- ・「海に親しむ」は B 観光・レジャー・スポーツにカウントした。
- ・漁業については、「仕事」や「漁村の生活」等は J 経済・産業に、「水産物」は A 生活・健康・安全にカウントした。
- ・「キャリア」や「職業」は J 経済・産業にカウントした。

12領域	該当校数
A 生活・健康・安全	60
B 観光・レジャー・スポーツ	22
C 文化・芸術	29
D 歴史	16
E 地球・海洋	47
F 物質	1
G 生命	125
H 環境	235
I 資源・エネルギー	7
J 経済・産業	215
K 管理	2
L 国際	5

環境が 235 件で最も多かった。次いで経済・産業が 215 件、生命が 125 件であった。

体験学習の種類

「磯遊び」「カヤック」等の体験学習を、同一な名称ではなくてもある程度の判断を加えつつカウントした。

外部連携	博物館・水族館	131	漁業体験	漁師体験・漁業体験	65
	博物館・水族館職場体験	1		漁船見学・漁船体験	49
	外部講師の出張講座・出前授業	71		地引網	114
	しんかい6500見学	1		底引き網	1
生物観察	研究所見学	2	定置網	18	
	生物観察	125	追い込み漁	8	
	磯遊び・磯の生物観察	244	カゴ漁	3	
	干潟の観察	30	刺網	3	
	人工干潟作り	1	大敷網漁見学	4	
	生物飼育	1	キス網漁	1	
	アサリ育成調査	1	カツオ一本釣り	1	
	貝の採集・飼育	4	イカつけ漁	1	
	貝の同定	1	イカ釣り	2	
	ウニ採集	2	イザリ漁	1	
	ウニ飼育・観察	2	うたせ漁	1	
	ウミホタル観察	16	ササヒビ漁	1	
	ガザミ飼育・観察	1	こつき網漁	1	
	ヒメジャコ観察	1	シラス漁見学	1	
	カブトガニ観察	1	タコつぼ漁	1	
	カブトガニ幼生調査	1	エビ籠漁	1	
	プランクトン調査	1	エビ網漁	1	
	植物調査	6	ウニ漁見学	1	
	松原観察	1	ウニ採り	2	
	海藻採集	1	カニ漁	1	
	藻場見学	2	カニカゴ漁	1	
	アマモ場観察	2	カニ釣り	1	
	マングローブ観察	2	サザエ漁	1	
	透視船・グラスボート観察	5	シジミ漁	1	
	コーラルウォッチ	2	アサリほり	4	
	サンゴ産卵観察	1	海藻とり	1	
	ホエールウォッチング	3	わかめ採り	2	
	野鳥観察	4	ひじきがり	1	
	標本作成	ウミガメ骨格標本作り	1	もずく収穫	3
		貝殻標本作り	1	磯のりかき	2
	解剖	海藻標本作り	3	アーサ採り	1
		魚の解剖	1	昆布採り	2
		ミズウオ解剖	2	浮き球網掛け	1
	保護活動	ホタテ解剖	1	網あげ	1
		シロウリガイ解剖	1	網おこし	2
		ウミガメ孵化場見学	4	網の片付け	1
		ウミガメ卵移設	2	網の修理	1
		ウミガメ飼育	4	漁港漁村見学	39
		ウミガメ放流	3	漁港見学	2
		カブトガニ産卵場所調査	1	水揚げ	5
カブトガニ飼育		1	水揚げ	1	
カブトガニ放流		1	魚しわけ	3	
マングローブ種子採取		1	魚荷さばき	11	
マングローブ植樹		2	せり見学	18	
マングローブ林内清掃		1	漁協見学	2	
アマモ栽培・植付		9	漁協職場体験	12	
アマモシート作成		1	魚市場見学	1	
海藻植え付け		1	漁村調査	1	
ツメタガイ捕獲		2	漁家体験	15	
ヤコウガイ放流		1	漁師の方との交流・講和	26	
サンゴ養殖見学		1	民宿宿泊	1	
サンゴ飼育		1	民宿手伝い	9	
サンゴ植え付け		1	民泊	32	
ウニ駆除		1	漁師との交流・講和	1	
グミ植樹		1	番屋見学	1	
ハマボウフウの種取り・苗植え		1	魚屋見学	1	
浜での植樹		1	祭り参加	4	
防風林植林		1			
松育成		1			
松植林		4			
松林草ぬき		1			
松原樹林間伐		1			
松のこもまき		1			
ニジガハマギク植樹	1				
ハマナデシコ植え付け	1				
カミネッコン作り	1				
山への植樹	1				

養殖体験	水産試験場等見学	30	水産加工体験	水産物加工体験	3
	水産試験場職場体験	1		水産加工場見学	12
	魚礁観察	1		缶詰作り	2
	養殖場見学	9		サバの缶詰作り	1
	いけす給餌	6		サバのへしこ作り	2
	稚魚放流	14		サバの干物作り	2
	カンパチ養殖体験	1		はんぺん作り	1
	カンパチ餌付け	1		かまぼこ作り	2
	ブリ養殖見学	1		ちくわ作り	2
	ブリエサやり	1		笹かま作り	1
	サワラ放流	1		サケ燻製作り	2
	エゾメバル稚魚放流	1		サケ新巻作り	6
	ニシン稚魚放流	1		サケフレーク作り	2
	イサキ稚魚放流	1		サンマ燻製作り	1
	タイ放流	7		サンマ干物作り	1
	ヒラメ養殖体験	1		タタミイワシ作り	1
	ヒラメ飼育	1		トビウオ燻製作り	1
	ヒラメ放流	18		シラス加工工場見学	1
	カレイ放流	1		しらす釜揚げ	1
	カサゴ稚魚放流	2		ちりめん加工工場見学	1
	サケ放流	14		イクラ加工	1
	サケ飼育	10		干物作り	31
	サケ採卵・受精	6		くさや作り	1
	アユ飼育・放流	1		干しカレイ作り	1
	エビ放流	1		アジの干物作り	3
	タカアシガニ放流	1		一夜干し作り	1
	アサリ稚貝放流	4		魚の一夜干し作り	1
	アサリ移植	1		イカの一晩干し作り	7
	アサリ間引き	1		イカ生干し作り	1
	アサリ成長調査	1		スルメ作り	1
	牡蠣養殖体験	8		イカさき	3
	カキむき	4		たこの干物作り	1
	ホタテ養殖体験	2		タコの燻製作り	1
	ホタテ人工授精	1		ホタテ殻剥き	1
	ホタテエサつり	1		ホタテ燻製作り	1
	ホタテ耳吊り	2		ホタテ燻製販売	1
	ホタテのごみとり	1		みりん干し	3
	ホタテ水揚げ	2		たて干し	1
	サザエ網はずし	1		ワカメ芯抜き	2
	アワビ養殖見学	1		のり工場見学	5
	アワビ稚貝放流	1		のり作り・のりすき	15
	シャコ貝放流	1		わかめ干し	2
	ワカメ養殖体験	5		天草採集・ところてん作り	2
	ワカメ育成	3		テングサかんでん作り	2
	枝ワカメ作り	2		製塩工場見学	4
	のり養殖場見学	2		塩作り	45
	海苔つけ	1	調理体験	魚料理	37
	のりつみ	1		魚さばき	25
	海ぶどう施設見学	1		サケ解体・調理	2
	真珠養殖体験	1		タラ解体	1
	真珠養殖見学	1		カツオのタタキ作り	3
				アジの開き料理	11
				イワシの開き	1
				魚の三枚おろし	2
				ハマチの三枚おろし	1
				アジの三枚おろし	2
				シタの三枚おろし	1
				トビウオさばき	1
				焼きアゴ作り	1
				ホッケ汁作り	1
				カニ汁試食	1
				煮魚定食	1
				塩釜汁作り	1
				はらこ飯作り	1
				あんこうつるしぎり見学・どぶ汁試食	1
				鯨料理作り	1
				イカ調理	2
				ホタテ調理	1
				浜焼体験	1
				漁師鍋	1
				手こね寿司	1
				バエリア作り	1
				バーベキュー	1
				シーフードカレー	1
				料理創作	1

海事見学	コンテナターミナル見学	1	スポーツ	水泳	46	
	工業地帯見学	1		遠泳	32	
	ヘッドランド工事見学	1		飛び込み	1	
	造船所見学	3		シュノーケリング	52	
	台場跡見学	1		スキューバダイビング	5	
	橋上ウォーキング	1		スキューバダイビング	5	
	下水処理施設見学	1		ダイビングインストラクター体験	1	
地形水質調査	地形・地層観察	22	ボート	波乗り	1	
	貝塚調査	1		ボディボード	2	
	赤土流出調査	1		ウインドサーフィン	1	
	磯焼け調査	1		ビーチバレー	1	
	砂組成調査	1		ビーチフラッグ	1	
	化石観察	4		海岸持久走	3	
	潮流体験	1		砂浜運動会	1	
	渦潮見学	1		水上運動会	2	
	水質調査	14		カヌー	102	
	海水観察	1		カヤック	79	
	天体観測	4		ヨット	21	
	砂浜活動	砂浜活動（遊び・ゲーム）		44	OPヨット	4
		ビーチコーミング		9	ボート	15
		貝拾い		10	カッター	173
流木拾い		2	ローボート	4		
ビーチクリーン・海岸清掃		196	ペーロン	15		
除藻		1	權伝馬	1		
漂着物調査		26	爬竜船（ハーリー）	11		
漂流物調査		7	サバニ	1		
工作芸術		工作	10	いかだ作り・いかだ乗り	64	
		ナチュラルアート	5	手漕ぎ木造船	2	
		貝がらキーホルダー作り	2	櫓漕ぎ	5	
		貝がらフォトフレーム作り	1	たらい船	1	
		貝の根付	1	さっぱ船	1	
		貝がらクラフト	6	乗船体験	20	
	ストーンペインティング	2	船中泊	1		
	海藻クラフト	2	クルージング	5		
	海藻おしぼ	1	海洋・水産高校連携・見学	16		
	海藻しおり	3	海洋実習船見学	2		
	海藻絵葉書作り	2	海洋実習船乗船	4		
	サンドアート	60	探査船乗船	1		
	写生	8	高速モーターボート乗船	1		
	海を守るポスター	2	バウスブリッド渡り	1		
レジャー	壁画	2	マスト登り	3		
	組紐体験	1	甲板みがき	4		
	作曲	1	手旗信号	8		
	海水浴	44	ロープワーク・結索	11		
	海開き	6	ボンク作り	1		
	潮干狩り・貝掘り	28	安全	海上保安庁職場体験	4	
	はまぐり採り	1		海上保安庁見学	3	
	釣り	85		海上保安庁職員の話	5	
	沖釣り	8		海上保安庁巡視船乗船	3	
	ディンギー釣り	1		ライフセービング	6	
	アジ釣り	1		着衣泳	8	
	魚のつかみどり	10		救命道具の装着	1	
	タコつかみ	3		救急救命講習	3	
	遊覧船	6		津波防災訓練・避難訓練	9	
バナナボート	3	津波防災マップ作り		1		
トレッキング	1					
ウォークラリー	5					
オリエンテーリング	6					
海沿いの道追跡ハイク	1					
ナイトハイク	3					
ホタル観賞	1					
サイクリング	2					
凧上げ	1					
隠れ家作り	1					
浜辺キャンプ	7					
無人島キャンプ	1					
キャンプファイヤー	11					
火起こし	1					
バーベキュー	2					
炊飯活動	9					
花火	1					
スイカ割り	4					
宝探し	1					
肝試し	1					

体験学習の分類

体験学習を以下のようなルールで12領域に分類した。

- ・「魚をさばく」などの料理はA.生活にカウント。
- ・「釣り」はB.レジャーにカウント。
- ・「サンドアート」「貝がら工作」などはC.芸術・文化としてカウント。
- ・「水質調査」はF.物質にカウント。
- ・「磯遊び」「生物観察」はG.生命にカウント。
- ・「ビーチクリーン」「漂着物調査」はH.環境にカウント。
- ・漁業など水産業に関するものはJ.産業にカウント。

12領域	該当校数
A 生活・健康・安全	126
B 観光・レジャー・スポーツ	634
C 文化・芸術	142
D 歴史	6
E 地球・海洋	27
F 物質	16
G 生命	416
H 環境	249
I 資源・エネルギー	1
J 経済・産業	564
K 管理	221
L 国際	0

臨海学校や宿泊研修などでカッターやカヌーが盛んに行われているため、B 観光・レジャー・スポーツが634件と多かった。次いで地引網などの漁業体験が多いためJ経済・産業が564件と多かった。G生命も416件と多いのは、磯遊びを行う学校が多かったからである。

東日本大震災の影響

質問3-2もしくは3-3において、東日本大震災の影響でそれまで行われていた学習ができなくなるなどと記載された回答をカウントした。具体的には、次のキーワードを含む回答をピックアップし、影響があったかどうかを判断した。「震災」「津波」「22年度」「23年度」「地震」「放射」。

震災の影響	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率(%)	全回答校における該当率(%)
あり	36	2.3	0.5
	n=	1,540	6,706

質問3-2もしくは3-3の自由記述に回答した1,540件のうち、36件(2.3%)が震災の影響を受けたと記述していた。これは全回答数6,706件の0.5%に該当する。

今後の課題

(1) 学習指導要領改訂に向けた具体的施策の策定と提言

各関係機関は海洋教育の普及推進にあたっての共通目標として、次期学習指導要領の総則、各教科の内容、ならびに総合的な学習の時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」等に海洋の重要性を明確に位置付けることを掲げ、またこの実現に向けて整備すべき以下の条件を共有し、協働して働きかけを行う必要がある。

1. 社会的な必要性の認知

- ・ 海洋教育という概念が「環境教育」「情報教育」「食育」などと同等の認知度を有し、文部科学省や中央教育審議会などの教育関係者だけでなく、教育現場、および社会全般にその必要性が広く理解されていること。
- ・ 津波などへの海洋防災対策や、持続可能な社会に向けた海洋との共生、また国際的協調のもとでの領海や管轄海域の管理、海洋資源・エネルギー、海洋文化などの重要性について、国民の理解・関心と学びへの機運が高いこと。津波など海洋防災関連や、持続可能な社会や海洋との共生、また領海や管轄海域への意識、海洋資源・エネルギー、海洋文化の重要性について、国民の理解・関心と学びへの機運が高いこと。
- ・ 海洋教育を推進する国際的な流れと外圧。
- ・ 各種メディアが海洋関連コンテンツを積極的にとりあげる環境があること。

2. 実践の推進

- ・ 研究開発校、特例、特区制度など指導要領に縛られない枠組みで実践を積み上げ、海洋教育のカリキュラムと教材が蓄積されていること。
- ・ 海洋教育の価値と効果について理論構築が行われ、海洋教育が学力向上に有効であることを示せること。PISA や TIMS など国際的な学力調査も含む。
- ・ 教師教育のプログラムに位置づけられ教員の研修制度が整備されていること。

3. 政策的な働きかけ

①教育政策面

- ・ 文部科学省初等中等教育局、国立教育政策研究所、中央教育審議会初等中等分科会教育課程部会など教育行政への働きかけが行える体制があること。
- ・ 教育現場である教育委員会や教員の理解を得る活動が推進できる体制があること。
- ・ 大学の教育学部、教育大学に海洋教育研究の拠点整備とネットワーク構築をさらに拡充できること。
- ・ 教科書会社や教材会社への情報提供や資料提供など積極的な協力を行うこと。

②海洋政策面

- ・ 内閣官房総合海洋政策本部を中心に海洋基本計画見直しにあたってより具体的な表記を求め、海洋政策の重点項目として位置づけること。
- ・ 海洋基本法戦略研究会や、そのほか海洋に関係の深い政治家や有識者などが協働で教育関係機関に働きかけを行うこと。
- ・ 造船・船用工業、海運・港湾、水産、海洋開発、資源エネルギー、海洋科学などのすべての海洋関連産業が協力して、海洋教育推進の働きかけを行うこと。
- ・ 国民運動としての海洋教育推進を展開できること。
- ・ 海洋教育協力支援機関の組織化を行うこと。
- ・ 教科書会社や教材会社への情報提供や資料提供など積極的な協力を行うこと。

これらを実践するうえでの情報共有基盤として、海洋教育連絡会議の強化を図り議論を活発化させるとともに、戦略ロードマップの精度を上げ参加各機関の行動計画として共有し、かつ実行に移す体制を整えなければならない。

また文部科学省や中央教育審議会などの教育関係者だけでなく、政治家、有識者、産業界へのロビー活動のほか、海洋教育推進の気運を盛り上げるための国民運動展開など、広域的かつ重層的に条件整備を行う体制づくりを急がなければならない。

このほか各種メディアへの海洋の露出を増やすため、コンテンツ制作側に働きかけを行うとともにサイエンスコミュニケーター養成など、海洋を伝える人材の積極的な育成も行う必要がある。

(2) 海洋教育普及に必要な教育環境の研究


社会人文系分野については、わが国の史実、地域伝承、民俗、風土、文化、など、海洋国家としてのアイデンティティを育み、継承するためにも重要な領域である。全国調査の結果でも、海洋と生活との関連性への関心は高く、地域学習・郷土学習に対する実践も多いことから、当該分野のニーズは高いと考えられる。一方で地域性が強い内容ゆえ、全国網羅的な教材作成が作成しづらいなどの課題もある。今後は全国の学校における地域学習の事例調査や、海洋教育カリキュラム公募コンテストなど事例の収集蓄積を進めるとともに、それら事例の周知普及を行うことが必要である。

(3) 外部支援体制の組織化

外部支援体制の組織化については、全国調査で得られた学校のニーズや実態に即した支援のあり方を早急に検討する必要がある。特に3割以上が支援を受けている漁協など漁業関係機関の協力は不可欠である。またこれら以外についても、大学・研究機関、博物館・水族館、企業・団体、NPOや市民団体など、全国の海洋に関する教育支援を行っている機関のリストアップと支援内容の調査を行う必要がある。

(4) 教育研究の戦略的推進

アンケートの結果、全国の小中学校で海洋教育が多様に実践されていることがわかったが、今後はカリキュラムと教材の蓄積という観点から、これらの事例の詳細なフォローアップ調査と資料化が望まれる。特に次期学習指導要領に要求すべき海洋リテラシーを具体的に示すため、現在の教科書が海洋についてどの程度扱い、何が欠落し、また小中学校及び高校生がどの程度の海洋リテラシーを持っているのか、詳細な調査を行う必要がある。



參考資料

海洋基本計画改訂に向けた海洋教育に関する提言

平成 24 年 9 月
日本財団
海洋政策研究財団

今次の海洋基本計画改訂にあたり以下の 3 つを提言する。

1. 海洋立国を担う国民の基礎的な素養育成のため、小中学校並びに高等学校において教科横断的に海洋に関する学習を行えるよう、学習指導要領の総則及び総合的な学習の時間の「指導計画の作成と内容の取扱い」等に海洋の重要性を明確に位置付けるべきである。
2. 学校教育で海洋教育の実施を推進するため、文部科学省並びに国立教育政策研究所は海洋教育に関する事例集や手引きなど指導資料を作成するとともに、学校教員の指導力向上を図るため教員研修の充実などの措置を講じ、教育現場が主体的かつ継続的に取り組めるような条件整備を行うべきである。
3. 分野横断的に多様な事柄を扱う海洋教育を推進するにあたっては、教科書における海洋関連の記述の充実を図るとともに、それを補完する副教材の作成、水族館や博物館など社会教育施設あるいは水産業や海事産業など産業施設との有機的な連携を推進し、海洋教育の総合的な支援体制を整備すべきである。

海洋基本法第 28 条に「海洋に関する国民の理解の増進等」が謳われ、学校教育及び社会教育において海洋に関する教育の推進等のために必要な措置を講ずることが定められた。また、これを受けて 2008 年 3 月に策定された海洋基本計画では「第 2 部 海洋に関する施策に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策 12 海洋に関する国民の理解の増進と人材の育成（2）次世代を担う青少年等の海洋に関する理解の増進」の中に、高等学校の教科「水産」の学習指導要領の見直し等のほか、小学校、中学校及び高等学校の社会や理科等における海洋に関する教育の適切な実施、海洋に関する教育の実践事例の提供を図るなど海洋教育の普及促進に努めることが掲げられた。

これに対し、2008 年に公示された改訂後の学習指導要領では、海洋に関する記述は小学校については改訂前と表記内容に大きな変更は見られなかったが、中学校については、社会の地理的分野で「海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させる」、「我が国の海洋国家としての特色を取り上げる」の 2 点、理科では第 2 分野の気象の変化において、「大気の動きと海洋の影響」が新たに上げられた。また小学校の教科書中の海洋に関連する内容については、学習指導要領の改訂前後で比較すると学習項目数で 20.8%の増加が見られ、その詳細度は 38%の増加が見られた。¹⁾

全国の小中学校における海洋教育の状況については、2012年3月に日本財団、東京大学、海洋政策研究財団が共同で実施した全国アンケート調査²⁾に依れば、海洋教育の認知度は全体の29%にとどまり、70%の学校関係者は海洋教育を知らないと回答している。また海洋教育の実施状況は、全体の13.7%が未実施、62.8%が教科書の範囲内であり、総合的な学習の時間な課外活動などで主体的に取り組んでいる例は20%にとどまっている。このように全国の小中学校の半数以上が教科書の範囲内での実施という状況に鑑みれば、教科書中における海洋の取り上げ方が海洋教育普及のうえで重要な要素と言えるが、現在の教科書に掲載されている内容で十分と回答したのは全体の5.5%にすぎない。このことから教科書中の海に関する表記の拡充を早急に進める必要がある。また、海洋教育は教科横断的な総合的な学習体系であることから、子どもたちが海についての学びを深めることができるよう、総合的な学習の時間や課外活動などにおいて海洋に関する学習を積極的に推進する必要がある、これに必要な事例集や手引きを示すとともに外部の支援体制の拡充を併せて行わなければならない。

以上のように我が国の学校教育における海洋教育の推進は、海洋基本法制定によって前進が見られたものの、学校教育における位置付けが不明確な状況の中、未だ十分な取り組みが行われているとは言い難い。しかし一方で、海洋教育の重要性について全国の小中学校の83.2%が重要であると回答している。これは、2011年3月の東日本大震災による津波災害をきっかけに、教育現場における海洋教育に対する意識が高まっていることを示しており、有効な施策を早急に講じる必要がある。なお限られた授業時間数、教員の余力、増え続ける教育現場への社会ニーズなど、学校教育が直面する状況を考慮すると、政策的枠組みの整備だけでなく、教育現場への負担を軽減させるための支援体制の充実を併せて整備しなければならない。

- 1) 海洋政策研究財団「小学校検定教科書における海洋教育関連内容の抽出・分析」、2012
- 2) 日本財団、東京大学海洋教育促進研究センター、海洋政策研究財団「小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査」、2012

内閣総理大臣
総合海洋政策本部長 野田佳彦 殿

次期海洋基本計画に盛り込むべき施策の重要事項に関する提言

海洋基本法が、平成19年に制定・施行されてから5年、わが国の海洋に対する新たな取り組みは、徐々にではあるが動き出してきた。しかし、旧来の縦割りの取り組みを総合して、国際的協調の下に、海洋の平和的かつ積極的な開発及び利用と海洋環境の保全との調和を図る「新たな海洋立国の実現」のためには、海洋基本法制定の趣旨に立ち返って、さらに抜本的な取り組みを進める必要がある。

特に、現在各国は、新しい海洋秩序と国際的政策枠組みの下で、海洋の問題に積極的に取り組んでおり、わが国も、これらに伍して、わが国の管轄海域をはじめとする海洋の開発、利用、保全及び管理に積極的取り組んでいく必要がある。

したがって、目下、改訂作業が進められている次期海洋基本計画には、わが国がそれらを積極的に推進するために必要な諸施策を目標、ロードマップ等を極力明示して盛り込んでいくことが不可欠である。また、それを総合的に推進する司令塔である総合海洋政策本部の下におかれている参与会議及び事務局の必要な機能強化についても基本計画で明示する必要がある。

そこで海洋基本法制定を推進した国会議員・有識者等が集う「海洋基本法戦略研究会」は、来年春に改定予定の次期海洋基本計画に、これらの具体的施策をきちんと盛り込むべく、「次期海洋基本計画に盛り込むべき施策の重要事項に関する提言」を別添のおとり取りまとめた。

については、わが国の「新たな海洋立国の実現」のためにこれらの提言の実現をここに強く要望する。

平成24年8月31日

海洋基本法戦略研究会

代表世話人	高木 義明
世話人共同代表	中川 秀直
世話人座長	前原 誠司
世話人共同座長	大口 善徳
世話人共同座長	小野寺五典

次期海洋基本計画に盛り込むべき施策の重要事項に関する提言

海洋基本法戦略研究会

<未来につなぐ海の恵み>

1. 広大で豊かな我が国の海域を基盤とした新たな国づくり

国連海洋法条約により管轄することとなった排他的経済水域・大陸棚は、豊富な資源を含むとともに広大な海洋空間を提供するフロンティアであり、これらを最大限に活用することは、我が国の新たな国づくりを図る上で非常に重要な課題である。このため、以下のとおり広大な海域の計画的な開発、利用、保全等を推進しつつ、海域を基盤とした新たな国づくりを図る。

(1) 海域及びその資源の開発・利用・保全

我が国の広大な周辺海域における豊かな資源、空間を基盤とした国づくりを行うため、海洋資源・エネルギーの開発・利用を現実化するための新たな取組や海洋空間を利用した海上輸送等の新たな発展を促進するとともに、海洋環境の保全を図る。

①海洋資源・エネルギー

・海洋再生可能エネルギー

地球温暖化対策に加え、福島第一原発事故後のエネルギー対策のため、再生可能エネルギーの重要性が更に高まっていることに鑑み、洋上風力、波力、潮流、海流、海洋温度差発電等の海洋再生可能エネルギーについて「海洋再生可能エネルギー開発・利用計画」を策定し、エネルギーミックスの中での具体的導入目標、実現に向けたロードマップを明示した上で、開発・利用を強力的に推進する。特に、技術開発が進みつつある洋上風力発電については、浮体式及び着床式の開発事業を総合的に検証し、集中的に投資すべき事業の計画を明示する。その上で、「実証フィールド」での実証事業や「漁業協調型洋上風力発電」のパイロット・プロジェクト等を行い、系統接続促進策や海洋特有のコストを反映した固定価格買取制度適用等の政策支援措置を講じ、早期の本格的な事業化を図る。

・海洋エネルギー・鉱物資源

我が国のエネルギー・鉱物資源の安定的確保を図るため、広大な排他的経済水域・大陸棚等に賦存することが見込まれるメタンハイドレート、石油・天然ガス、海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト、レアアース資源泥等の海洋エネルギー・鉱物資源については、これまでの開発計画の工程に照らして進捗状況を評価・検証するとともにシェールガス革命等の環境変化を踏まえて、選択と集中により投資の優先順位を再検討し、実現に向けたロードマップを明示した上で、開発・利用を強力的に推進する。

・水産資源

リオ+20の成果等を踏まえて最大持続可能漁獲量の維持・回復を図り、適切な漁業資源管理を推進するとともに、海洋空間を活用した新たな海面養殖業の発展を

図る。

・海洋バイオ資源

海洋藻類等のバイオエネルギー資源における重要性に鑑み、これら海洋バイオエネルギー資源の研究開発を強力に推進し、早期の実用化を図る。また、海洋遺伝子資源の調査を進め、産業利用を促進する。

②海上輸送

・世界貿易におけるアジアの重要性の増大に伴い、寄港しないものも含めて重要な国際海上輸送ルートが我が国の周辺海域に形成されてきているので、それらの海上輸送ルート（特に国際海峡や輻輳海域）の管理を強化するとともに、これらのルート周辺における我が国の港湾の整備を促進する。

③海洋環境の保全

- ・我が国周辺海域における豊かな生物多様性保全等を図るため、海洋保護区の設定を推進する。
- ・海底鉱物資源開発について他国の追随を許さない精緻な環境影響評価の実施手法を確立し、国際標準化において主導権を握る。
- ・海上輸送ルートと海洋環境との調和を図るため、必要に応じて特別敏感海域（PSSA）の設定を検討する。
- ・気候変化・気候変動への対応への対応の一環として、関連する技術開発、環境影響評価手法の開発等を進め、CO₂の海底下貯留の実用化に向けた取組を推進する。

（2）海域の開発、利用、保全等に必要な基盤的施策の推進

（1）に掲げた施策を推進し、海域の豊かな資源・エネルギーの開発・利用を図るためには、海洋環境保全との調和や様々な海洋利用との調整をはじめとして、我が国の広大な海域の開発、利用、保全等を計画的に行っていく必要があり、そのため以下の基盤的な施策を積極的に推進する必要がある。

①排他的経済水域・大陸棚の総合的な管理

- ・広大な我が国の排他的経済水域・大陸棚の管理に関する基本方針を策定し、目標及び基本的な施策について定める。
- ・我が国の排他的経済水域等の海域をその特性に応じて区分し、それぞれの海域における開発・利用・保全等のための具体的施策の実施内容を盛り込んだ海域計画（海洋空間計画）を策定する。
- ・上記の取組を総合的に推進するため、排他的経済水域・大陸棚の総合的な管理に関する法制整備を行う（開発行為や環境保全等に関する法制整備を含む）。

②離島等の保全・管理・振興

- ・広大な排他的経済水域等の海洋の総合的な管理、国境域管理に離島が重要な役割を果たすことに鑑み、拠点となる離島を指定し、海域及びその資源の開発・利用・調査等の活動の拠点として整備・利用・保全を図る。

- ・隙のない排他的経済水域等の管理網を形成するため、離島が存在しない海域においては浮体式洋上基地（マリンフロート）を整備する。
- ・離島の住民の生活確保と定住環境の向上を図るため、離島の生活基盤整備への行財政上の支援措置を講じる。
- ・更に、国境域にある離島から成る市町村（国境離島市町村）については、その海域管理における重要性に見合った位置づけを行い、行財政上の更なる支援措置を講じる等の特別措置の制度の整備を行う。

③海洋調査の推進

- ・総合的な海洋調査戦略を策定し、それに基づき産学官が連携して、海洋調査を戦略的・計画的に行う。
- ・海洋調査により得られた情報を国が一元的に整備し、総合的な海洋管理に資する情報インフラとしての「海洋台帳」を整備する。
- ・海洋と宇宙の連携を推進し、統合観測システム、海洋予測システム等を整備する。

④海洋科学技術の研究開発の推進

- ・海洋の諸現象に対する基礎的な研究や気候変化・気候変動への対応等政策課題毎の研究開発を推進するとともに、海洋での位置保持・掘削に関する技術等将来の海洋産業分野を支える共通的な海洋基盤技術の研究開発を進める。
- ・海洋調査船、ROV（遠隔操作型無人探査機）、AUV（自律型無人探査機）、人工衛星等の研究調査インフラに関する技術開発、体系的整備を推進する。

<海と町・村のにぎわい>

2. 安全・安心で元気のある沿岸社会の形成

過疎化・高齢化の進展、平成の大合併による市町村の広域化に伴う自治共同体機能の低下や、東日本大震災のような海洋由来の大規模自然災害に対する対策として、安全・安心で元気ある沿岸社会を海洋を活かして形成するため必要な措置を講じ、自治体の地域活性化の取組を促すとともに、我が国の海域管理に重要な離島社会の住民の定住を促進するため、以下の取組を推進する。

①地方が主体となって取組む、陸域・海域を一体的にとらえた沿岸域総合管理の推進

- ・閉鎖性の高い内湾、島の間の内海など、住民にとって身近な海域の市町村の行政区画への編入を行う。
- ・国の指針と、技術的・財政的支援の下での地方公共団体による「沿岸域総合管理計画」の策定・実行を促進する等、沿岸域総合管理の制度の整備を行う。
- ・領海内の海域管理に関して、国と地方公共団体の役割分担を明確化する等の法制整備を行う。

②海洋由来の自然災害への対策強化

- ・今後大地震・津波による被害を受ける可能性のある沿岸域を有する各地域においては、海からの自然災害対策を含めて陸域・海域を一体的にとらえた沿岸域総合管理

を推進する。また、実際に地震や津波が発生した際に迅速な対応が可能となるよう、災害対応体制の強化を推進する。

- ・地震・津波を早期検知・予測するための広域的モニタリング網や津波警報等発出システムの全国的、計画的整備を行うとともに、津波防災対策の検討に資する各種海洋情報の整備を行う。
- ・緊急対応・復旧等に大きな役割を果たすことが期待される浮体式広域防災基地等を整備する。

③地方を活性化する沿岸域プロジェクト等の推進

- ・離島・半島地域における洋上風力発電の導入を推進するとともに、スマートグリッドの活用等により地産地消型のエネルギー体系を整備する。
- ・多様な生態系を育む干潟や浅場の造成等、沿岸域における環境改善・再生型プロジェクトを推進する。
- ・大規模な開発等によらず、人々が豊かな自然環境を楽しむことが出来る、エコツーリズム型の観光等海を活かした持続可能な海洋観光の振興を図る。

<海洋立国を支える産業と人>

3. 海洋産業の振興と人材の育成

海洋の開発・利用・保全等の担い手となり得る「新たな海洋産業」を創出するため、産学官の連携による取組を推進するとともに、我が国における既存の海洋産業の国際競争力・経営基盤を強化するための取組を推進する。また、海洋産業を担う人材をはじめ、新たな海洋立国を支える人材の育成を推進する。

①海洋の開発・利用・保全等を担う「新たな海洋産業」の創出

- ・産学官の連携による新たな海洋産業創出のための総合戦略を策定する。
- ・新たな海洋産業（海洋再生可能エネルギー、海洋エネルギー・鉱物資源開発、海洋バイオテクノロジー、海洋構造物・プラント、海洋調査・情報、海洋環境保全、海洋観光等）の創出を促すため、それぞれの産業の状況等に応じ、政策支援措置や事業創出の環境整備を検討・実施する。

②我が国海洋産業の国際競争力・経営基盤強化

- ・我が国経済を支える重要なインフラである外航海運の安定輸送等の確保を図るため、引き続き外航海運に係る税制等における国際競争条件の均衡化に向けた取組を行う。
- ・北極海航路啓開後の我が国及び北東アジアの物流ネットワークの変化に対応し、必要な対策を早急に講じる。
- ・水産業の6次産業化（水産業者による加工・販売、新商品開発等）等による経営基盤強化・高度化を図る。
- ・官民が一体となって、我が国海洋産業の海洋エネルギー・鉱物資源開発等の国際プロジェクトへの参画を推進する。

③新たな海洋立国を支える人材の育成

- ・大学等における総合的海洋教育のためのプログラム開発や教材開発に対する支援を強化すること等によりカリキュラムの充実を図る。
- ・大学を横断する総合的海洋教育プログラムを構築する等、大学間での海洋教育に係る連携を強化する。
- ・海洋産業を担う人材の確保と育成のため、柔軟なキャリアパスを描くとともに、産学官・国内外で人材の流動性を確保する。
- ・高度な海洋観測を行う人工衛星の開発等の実施を通じて、先進的な研究開発を行う人材を育成・確保する。

<世界につながり平和な海>

4. 海洋の安全の確保と海洋外交の推進

近年における海洋権益をめぐる国際情勢の緊迫化等の情勢を踏まえ、我が国周辺海域における海洋の安全を確保するとともに海上輸送の安全確保等を図り、これらの問題を含めて海洋に関する諸問題への国際社会の対応に主導的役割を果たすため、以下の取組を推進する。

①我が国周辺海域等における海洋の安全の確保

- ・我が国周辺海域の安全確保という視点から、関係省庁の連携の下、東シナ海等我が国周辺海域における海洋の安全確保のための行動計画を策定する。
- ・海上保安庁と海上自衛隊の船艇・航空機等の整備・能力向上により領海、排他的経済水域等の警戒・取締りを強化する。
- ・海上保安庁と海上自衛隊の情報共有等による連携強化を図る。

②海上輸送の安全確保

- ・我が国商船隊の海上輸送に重要な影響を及ぼすソマリア沖・アデン湾等の海賊に対し、国際社会と連携しつつ対策を強化する。
- ・我が国の海上輸送に重要な役割を果たすマラッカ海峡等の安全対策に引き続き貢献するとともに、通航量が増大しつつある我が国の国際海峡（津軽海峡、大隈海峡等）の安全・環境が確保されるよう必要な対策を講じる。
- ・船舶の安全性向上や、ヒューマン・エラー等による事故防止のための適切な運航管理体制の確保や船員の質の向上に向けた取組を引き続き推進する。

③海洋外交の推進

- ・海洋調査、海洋資源の開発・利用・保全、海賊対策、シーレーンの安全確保、環境保全等の海洋に関する国際秩序及び政策の形成について、我が国が主導的役割を果たすよう海洋外交を推進する。
- ・北極海での管理・国際秩序形成に関連する国際会議等に積極的に参画し、資源開発・輸送、環境保全、調査・研究等北極海に関する諸課題に対し、国際協力の下で総合的に取組む。

- ・太平洋島嶼国等との間で、島の保全・管理、周辺海域の管理、気候変化・気候変動への対応等我が国の島と共通の問題の解決に向けて連携・協力を推進する。

<海洋立国の基礎づくり>

5. 海洋に関する施策の総合的推進体制・法制度等の整備

海洋基本法附則における総合海洋政策本部の見直し規定を受け、これまで以上に我が国の海洋政策を強力に推進するため、海洋基本法推進体制の強化を図る。また、1.～4.に掲げられた施策の実施に必要な我が国海域の管理法制等の整備については、総合海洋政策本部を中心に検討を進め、次期海洋基本計画の計画期間内の実現を図る。更に、海洋立国を担う国民の基礎的な素養育成のため、国民一人一人が海洋立国に主体的に参加する海洋教育を推進する。

①総合海洋政策本部・参与会議等の機能強化

- ・海洋に関する施策を集中的かつ総合的に推進する司令塔である総合海洋政策本部の戦略立案機能及び予算を含めた企画調整機能の強化を図る。
- ・総合海洋政策本部令により総合海洋政策本部に置かれた参与会議について、海洋基本計画及び海洋に関する施策の策定・実施に係る重要事項の提案・評価を行い、総合海洋政策本部長に対して具体的提言を行う機能を強化することとし、必要な措置を講じる。
- ・総合海洋政策本部を支える総合海洋政策本部事務局の予算・人員等の強化・充実を図る。

②我が国海域の管理法制等の整備・制度化（再掲）

- ・排他的経済水域・大陸棚の総合的な管理に関する法制の整備を行う。
- ・領海内の海域管理に関する法制の整備を行う。
- ・沿岸域の総合的な管理に関する制度の整備を行う。
- ・国境離島市町村に対する特別の支援制度の整備を行う。

③海洋教育の推進

- ・小学中学校並びに高等学校において教科横断的に海洋に関する学習を行えるよう、学習指導要領の総則等において海洋の重要性を明確に位置付ける。
- ・海洋教育に関する事例集や手引きなど指導資料の作成、教員研修の充実等を通じ、教育現場が主体的かつ継続的に取組めるような条件整備を行う。
- ・教科書における海洋関連の記述の充実を図るとともに、それを補完する副教材の作成、水族館や博物館等の社会教育施設や水産業や海事産業等の産業施設との有機的な連携を推進し、海洋教育の総合的な支援体制を整備する。
- ・子どもが実際に海と触れ合う臨海学校や乗船体験その他の海に関する学習の場を充実させる。

海洋教育連絡会議 議事次第

日本財団
海洋政策研究財団

1. 日 時 : 平成25年1月22日(火) 10:00~12:00
2. 場 所 : 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル8階
海洋政策研究財団 第1会議室
3. 議事次第:
 - (1) 挨拶及び趣旨説明
海洋政策研究財団常務理事 寺島紘士
 - (2) 学習指導要領改訂に向けた戦略について
学習院大学教授 佐藤学
 - (3) 海洋教育連絡会議の進め方について
海洋政策研究財団事務局
 - (4) 参加機関紹介
各機関の参加者(各2分程度)
 - (5) ディスカッション
・各方面への働きかけ方
・活動事例の共有と、支援体制の強化・連携
・世論喚起
 - (6) 今後の活動について

配布資料

- ① 意見交換会の議事録
- ② 参加者名簿
- ③ 趣旨書
- ④ 産経新聞 正論
- ⑤ ロードマップ案
- ⑥ 海洋基本計画改訂に向けた提言(4種)
- ⑦ 小中学校の海洋教育実施状況に関する全国調査の結果

海洋教育連絡会議

2013(H25)年1月22日(火)10:00~12:00

海洋政策研究財団 第1会議室

青木 透 (公益財団法人 日本財団)
秋道 智彌 (総合地球環境学研究所)
市川 洋 (日本海洋学会 教育問題研究会)
今宮 則子 (NPO 法人 海の自然史研究所)
岩本 泉 (国土交通省総合政策局 海事局船舶産業課舟艇室)
菓子野 廣 (日本海岸域学会・一般財団法人 みなと総合研究財団)
北澤 大輔 (日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会)
木下 健 (日本海洋工学会)
窪川 かおる (東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター)
佐々木 剛 (公益社団法人 日本水産学会)
佐藤 学 (学習院大学・日本教育学会)
高田 浩二 ((株) 海の中道海洋生態科学館 マリンワールド海の中道)
竹縄 佳二 (総合海洋政策本部)
田村 哲之 (総合海洋政策本部)
寺島 紘士 (海洋政策研究財団)
富山 新一 (海上保安庁 海洋情報部企画課)
中村 憲吾 (一般社団法人 日本船主協会 海務部)
奈良 税 (気象庁 海洋気象課海洋環境解析センター)
春成 誠 (一般財団法人 運輸政策研究機構)
平井 和也 (NPO 法人 海の自然史研究所)
福島 朋彦 (東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター)
森高 龍平 (国土交通省 総合政策局海洋政策課)
山形 俊男 ((独)海洋研究開発機構・東京大学)
山口 領 (公益財団法人 日本財団)

事務局 酒井英次・釣田いずみ・赤見朋晃

■趣旨説明

- ・2014年度頃から改定準備が始まる次期学習指導要領に海を盛り込んでもらうために、すでに海洋教育に取り組んでいる海洋に関する様々な機関の方々が一つのテーブルを囲み議論し、それぞれがどういう役割を担えるかを検討したい。
- ・学習指導要領に海を盛り込むためのロードマップを作成する。
左列：現行の学習指導要領が制定された流れ。
中央列：次回の学習指導要領改定のスケジュール予想。2013年度から議論が始まるという予想だが、社会状況の大きな変化、学力の問題などから1年前倒しになるかもしれない。
右列：海洋教育を推進する団体を並べる。いかに列を増やして、同じプラットフォームで考えていけるかが重要。
- ・6回程度継続して開催したい。
初回：課題や将来の方向の共有を図る。
第2回：共通のプラットフォームとしてのロードマップのドラフト作成を開始。
第3回：3月に新しい海洋基本計画が固まった後、どう進めていくかを考えたい。

第4回：より多くの理解を得るためのオープンフォーラムとして開催したい。

第5回：11月の時点でほぼロードマップが埋まってくるであろう。

第6回：戦略の取りまとめとしてアピールを行いたい。

その後も継続やメンバーの増員にはフレキシブルに対応したい。

■海洋教育の現状

- ・2007年に制定された海洋基本法において、12の基本的施策の中に海洋教育が明記された。国民の海の理解の増進と人材育成。
- ・社会教育においては、様々な関係者の努力がなされている。しかし、学校教育では海について十分に教えられていない。
- ・現在は学習指導要領の中に海洋教育という概念は存在しない。各教科の中に海洋に関する内容は分散しているが、海洋教育としてではない。
- ・2009年頃は新聞などに海洋教育という言葉が出てくることはなかったが、翌年頃から増え始めた。
- ・資源開発において漁業者の社会受容性が課題。学校教育から社会教育までが繋がることで、社会受容性の基盤ができるだろう。
- ・海洋教育は海洋科学というイメージが強かったが、もっと総合的、学際的であるべき。
- ・大学には臨海実験所や水産研究所というインフラがある。
- ・海の記念日に行った海の意識調査。海が好きか嫌いかという質問をするとたいてい好きだと答えるが、10代は14～15%が嫌いだと答える。自由回答に、汚い、焼ける、ベタベタすると回答。環境悪化やすぐに親しめないことが原因か。海と聞いた時どういう人の名前を思い浮かべるかという質問では、6～7割が加山雄三、次に石原裕次郎。どうして若い方で海と聞いたらこの人だという人が出てこないのか。
- ・海洋教育に関する全国調査。これまでなかった。昨年3月に実施。32,000校へFAX調査、6,700校から回答。回答率21%。海洋教育の認知度は3割。以前は誰も知らなかったことを考えれば、広まってきたと言える。海洋教育をやっていないもしくは教科の範囲でという回答が8割り。今後どう拡充していくかの一つの基準となる。
- ・様々なところでいろんな機関が海洋教育を実施しているが、なぜ国民的な盛り上がりにならないのか？
- ・日本には水族館が70。他の国にはそんなにない。水族館大国。

■海洋教育の取り組み事例

- ・2008年に小学校の海洋教育に関する提言を行い、2009年から海洋教育のグランドデザインを作成。現行の学習指導要領にどのような形で盛り込むべきか、またどのような実践が可能かを記載。そのプロセスでは最初に海洋教育の定義を議論し、それに基づいたグランドデザインを作った。
- ・3月に改訂となる海洋基本計画の中に教育項目を盛り込んでもらうために、日本財団や海洋アライアンス、海洋政策研究財団から提言を出した。
- ・日本海洋学会教育問題研究会。初等中等および高等教育における海洋の教育の充実に向けて、大小多くの活動をしている（サイエンスアゴラ、海洋科学ワークショップなど）。
- ・日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会。小学生から高校生まで幅広く海に連れ出し、実際のものを見せることを中心にした取り組み。海洋教育フォーラム。教材開発。教材誌。
- ・日本海洋工学会。海の検定の企画や夢の島マリーナでオーナーの協力を頂き、まる1日ボートに乗ってもらうなどの活動をしている。
- ・水産学会水産教育推進委員会。被災した水産高等学校に小型船舶を提供する支援。水産学会の春季大会において、高等学校の教員と生徒を無料招待し発表してもらう。広報活動として、地域の水産関係の取り組みを紹介。水産高校の地域貢献を水産学会で広報している。
- ・日本沿岸域学会。過去に海洋教育特集の機関誌を出した。
- ・みなと総合研究財団。NPO法人CNACの支援。海での野外活動に関する安全活動の推進を行う。全国フォー

ラム「海と生きる」など。

- ・東京大学海洋アライアンス。海洋基本計画の見直しに向けて、人材育成プロジェクトチームで人材育成に関する提言を出した。
- ・東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター。連携大学と連携し、様々なワークショップなどを行える拠点ができ。連携大学は現在 5 大学だが、社会科学、人文系も海洋教育の中の一つであり、教育系とも広い認識で連携をするという目標でいる。初等中等教育の学習指導要領に海について入れてもらうことが目的で始まった。海洋教育促進政策学ユニット。いかにして海洋教育を促進するかを政策面から検討している。来年度から第 2 期が始まり正念場である。人材育成学ユニット。カリキュラム作成や実践、学習素材を作っている。
- ・海の自然史研究所。海洋に関する自然科学プログラムの普及。マーレをアメリカから輸入翻訳。小学校や社会教育施設などで、数年で 5 千名ほどの子どもたちに実践。地域の海に即したローカルなもの、海に行かなくても室内で理解できるようなものを検討中。リーダー養成。社会教育施設で教育プログラムを実施するリーダー養成講座を開催。地域セミナー。すでに活動している方々をローカルセミナーという場でつなげていく。函館、高知で開催。海洋学会との連携。
- ・海上保安庁。広報活動の一貫として宮崎で測量船を公開。日本周辺の海底地形図を 3D で作成し、教育委員会を通じて中学校に配布。海洋台帳（海の GIS）をネット経由でアクセスできるようにした。
- ・気象庁。船の一般公開や周知広報。酸性化のモニタリング情報など興味ある情報を出したい。
- ・国土交通省総合政策局海洋政策課。海洋政策懇談会を開催。各イベント（海フェスタ）やマリンレジャーにおける安全対策、海事産業における人材育成。
- ・総合海洋政策本部。海洋基本計画の見直しを進めている。基本計画を作っただけではただの計画なので、作った後の具体的な施策を関係省庁と連携して作りたい。
- ・Ship & Ocean Newsletter。海洋教育の特集号を出したい。
- ・日本船主協会。優秀な次世代の人材の確保が重要で、船員教育機関や一般の教育機関と連携して活動している。船員という仕事に関心も持ってもらうための資料作成。東京都の社会科の先生の集まりとの連携。船員教育機関との連携でイベントなどを展開。
- ・運輸政策研究機構。幼稚園・小学校・中学校で神戸大学と連携して海事教育をしている。海洋丸の乗船など。体験学習の効果は大きい。
- ・日本動物園水族館協会。命のミュージアム。
- ・マリンワールド海の中道。学校へのアウトリーチとして移動水族館教室や出張授業を行なっている。積極的に出て行く。外部組織との連携。シュノーケリング協会と連携し、指導者講習や、シュノーケリングに親しむ親子に海洋生物について学んでもらう。海岸の松を保存する団体と連携し（夢松原会）保全活動。サザエプロジェクト。外部との連携で海岸保全。大学との連携。小学校や義務教育で博物館をどう学びの場として使っていくかを教える。日本動物園水族館教育研究会の事務局。日本全体の園館の教育を取りまとめる役割もあり、中心的な存在として取り組んでいきたい。

■検討課題

□学習指導要領への盛り込む形

- ・「総則」に位置づける（＝各教科に位置づける）か、「総合的な学習の時間」に位置づける（＝プロジェクト的にテーマ学習の中で取り組む）の 2 パターンが考えられる。
- ・総合性や連携性（海の持ついろんな側面をいろんなファクターを結び合わせ関連付ける）、創造性（新しい発想）を醸成できるのは海しかないということを忘れずにやらないと全部で取り組む意味がない。
- ・海洋そのものが学ぶものとして一番大事だという視点がいいと思う
- ・命と水から、進化、溶解、波動、循環を経て災害へ行くなど、段階を経る必要がある。
- ・防災の中で海について教えるのは必要、領土についても同様、それらをまとめるには海洋教育という視点が必要というロジックが有効ではないかと考えている。

□盛り込んでもらうための課題

- ・学習指導要領に海を入れることは非常に難しい。
- ・海洋教育は総合性があるだけに働きかけにくい。海洋教育の重要性を説明するのが難しい。防災・産業・環境・領土等を含めて、プロポーザルをはっきりしないといけない。海洋教育の重点課題＝訴えるための軸が必要。
- ・学校に教材を持って行っても倉庫にたくさん積んであってライバルが多い。現場の先生は猛烈に忙しい。
- ・新たな項目を入れること自体が負担だという話がある。教科で時間の奪い合いがある。

□盛り込んでもらうために必要なこと

- ・海洋教育の重要性が国民に広く認知されていなければならない。
- ・ビジョンを共有し、海洋関係者、マスコミ、広く一般に海洋教育の重要性をアピールする必要がある。
- ・実施できる教員が数人だけでなく、各学校にいないてはならない。教員の研修体制が必要。
- ・最近学習指導要領に入った例として、環境教育、情報教育、食育がある。食育の場合は、ネーミングも良かったが、危機的な状況が共有されていたし、実際の基盤も整備されていた。
- ・学習指導要領の改訂は中央教育審議会で議論され、文科省に答申されるという形であるため、行政的な対応だけでは不十分。
- ・海洋基本法第 28 条が根拠規定。少なくとも省庁にはこの根拠に従って提案すれば対応してもらえるはず。
- ・実際の作業は中教審。そういう場で海洋についてこう書いて欲しいという中身を詰めて関係者に働きかけることが必要。海の世界で通用する言葉だけではなく、様々な分野で入れて欲しいことをわかりやすい言葉で記述し、教育の関係者にわかるようにしなくてはならない。
- ・社会実態としてこういう取組みが行われている実態がないと説得力が乏しい。
- ・マスメディアにどう働きかけるかが重要。
- ・海洋教育とは何なのかという質問に答えられなくてはいけない。
- ・博学連携において大事なのはコーディネーター。博物館と学校の間でたって動く人材。海洋教育においても間を取り持つ人材が必要になってくる。そのコーディネーターをどう育成するかが大事だと感じる。
- ・どこかに海のことならココというポータルサイトが必要。

小中学校の
海洋教育実施状況に関する
全国調査

報告書

日本財団
海洋政策研究財団

目次

1:	アブストラクト.....	1
2:	調査の目的.....	2
3:	調査の方法.....	3
1)	質問設計.....	3
2)	質問送付.....	3
(1)	教育委員会宛.....	3
(2)	学校宛.....	3
3)	回答受付.....	4
4)	回答の確認.....	4
5)	アンケート原文.....	4
4:	調査の結果.....	7
1)	回答の内訳.....	7
2)	集計結果（シングル）.....	8
(1)	学校のロケーション.....	8
(2)	海洋教育の認知度.....	10
(3)	海洋教育の実施状況.....	12
(4)	海洋教育内容の自由記述の有無.....	14
(5)	体験学習の有無.....	18
(6)	学校外機関・個人の協力.....	22
(7)	学校外機関・個人の役割.....	27
(8)	学校外機関に期待するサポート.....	31
(9)	海洋基本法の認知度.....	33
(10)	海に関して子どもたちが学ぶべきこと.....	35
(11)	震災による海の学習の重要化.....	37
(12)	震災によって教えるべきだと思ったこと.....	39
3)	集計結果（クロス）.....	41
(1)	学校のロケーションと海洋教育の認知度.....	41
(2)	学校のロケーションと海洋教育の実施状況.....	45
(3)	学校のロケーションと学校外機関に期待するサポート.....	50
(4)	海洋教育の実施状況と海洋教育内容の自由記述の有無.....	56
(5)	海洋教育の実施状況と体験学習の有無.....	57
(6)	海洋教育の実施状況と学校外機関・個人の協力.....	58
(7)	学校外機関・個人の協力と役割.....	59
(8)	学校外機関・個人の協力とニーズ.....	60
(9)	学校外機関・個人の役割とニーズ.....	63

4) 集計結果（各地域）	66
(1) 県別・学校種別回答率	66
(2) 県別の学校のロケーション	68
(3) 県別の海洋教育の認知度	69
(4) 県別の海洋教育の実施状況	70
5) 自由記述	71
(1) 対象学年	71
(2) 時数	72
(3) 海洋教育の形態	73
(4) 体験学習の重要性	74
(5) 宿泊を伴う学習活動の有無	75
(6) 短期集中型体験学習の種類	76
(7) 教育課程上の位置付け	77
(8) 学習の種類	78
(9) 学習の概要と12領域	79
(10) 体験学習の種類	80
(11) 体験学習の分類	83
(12) 東日本大震災の影響	84

1: アブストラクト

2013年3月の海洋基本計画の改訂において、「海洋に関する国民の理解の増進と人材育成」に関する記述内容をより具体的なものにすることが、我が国の海洋教育の普及を推進する上で不可欠な条件と考えられる。この実現には、単に見直しを訴えるだけでなく、客観的なデータの分析に基づく具体的かつ網羅的な提案を行うことが重要であるが、その核となる最も基礎的なデータである我が国の海洋教育実施状況については、まだ全く把握されていない。そこで本調査では、全国の国公立及び私立の小学校 21,371校、中学校 10,639校を対象にアンケート調査を行った。

アンケートでは主に、海洋教育の実施度とその内容、学校のロケーション・地域による海洋教育の実施度の偏り、海洋教育に対する期待やニーズ、海洋基本法の認知度、東日本大震災による海洋教育への影響等に関して質問をした。

小学校からは 21,371校中 4,203校(19.7%)、中学校からは 10,639校中 2,490校(23.4%)、合計で 32,010校中 6,706校(20.9%)の有効回答が得られた。県別では宮城県が最も回答率が高く 32.4%、大阪府が最も低く 10.6%であった。徒歩 15分程度で海に行ける学校が 13.0%、逆に電車やバスを使わないと行けない学校が 69.2%であった。県別では徒歩 15分程度で海に行けると学校の割合が最も高いのは長崎県の 52.1%、逆に電車やバスを使わないと行けない割合が最も高いのは東京都で 86.4%であった。

「海洋教育」という言葉の認知率は 29.2%であった。学校のロケーションによって有意な差があり、徒歩 15分程度で海に行ける学校の認知度が高かった。海洋教育の実施状況は、教科書の範囲で実施している学校が 62.8%と大部分を占め、総合的な学習の時間で取り組んでいるのは 16.7% (課外活動を含めると 20.0%)であったが、そのうちの半分以上である 10.4%はトピックスの 1つとしての扱いであった。

総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいる学校のうち、72.0%が体験学習を行い、83.1%が学校外機関・団体と連携していた。学校外機関・個人の役割として最も選択率が高かったのは体験学習用の施設の利用で 50.7%であったが、期待するサポートとして最も選択率が高かったのは外部講師で 49.5%であった。期待するサポートは、学校のロケーションにより有意な差があり、外部講師と共同開発は、徒歩 15分程度の場合には有用だと考えられ、体験学習プログラムは、電車やバスの場合に有用だと考えられる傾向にあった。また、期待するサポートは、学校外機関との連携状況によっても有意な差があった。

海洋基本法の認知度は 23.9%で、第 28 条について知っているのはわずか 4.3%であった。海に関して子どもたちが学ぶべきこととして選択率が高かったのは海の環境に関する内容で 60.9%であった。東日本大震災によって、海の学習が大切だと考えるようになったと回答したのは 83.2%であった。

2: 調査の目的

海洋基本法が制定されて5年、我が国の海洋政策は海洋基本計画が示した12の柱に沿って進められているが、その柱の一つである「12) 海洋に関する国民の理解の増進と人材育成」については、特に初等中等教育における海洋教育の現状を見る限り十分な実践が進んでいるとは言い難い状況にある。その理由の一つとして、海洋基本計画では「学校教育においては、海洋基本法等の趣旨を踏まえて早急に高等学校の教科「水産」の学習指導要領の見直しを行うとともに、現場実習等を通じた実践的な教育を推進するほか、高等学校の実習船等の整備を推進する。さらに、小学校、中学校及び高等学校の社会や理科等において海洋に関する教育が適切に行われるよう努めるほか、海洋に関する教育の実践事例の提供を図るなど海洋教育の普及促進に努める。」と記載されるのみで漠然としており、政策的指針として具体的な方法や内容が明示されていないことが挙げられる。

一方、海洋基本計画はその策定から5年が経過する2013年3月に改訂時期を迎え、その内容については見直しが予定されている。この機を捉え、「海洋に関する国民の理解の増進と人材育成」に関する記述内容をより具体化したものへと改めることは、我が国の海洋教育の普及を推進する上で不可欠な条件と位置づけられる。この実現には、単に見直しを訴えるだけでなく、客観的なデータの分析に基づく具体的かつ網羅的な提案を行うことが重要であり、特に民間の海洋専門研究機関にはその役割が求められよう。

しかしながら、提言の核となる最も基礎的なデータである我が国の海洋教育実施状況について、これまで全国規模で調査された例がなくその実態は全く把握されていない。海洋教育の普及推進を具体化させるためにはこの調査が不可欠であり、また海洋基本計画改訂までの時間を考えれば、早急な対応が必要となっている。

そこで本調査では、全国の小中学校を対象に、学校教育における海洋に関する教育活動の実施状況調査を行い、統計資料として有効と考えられる小中学校各1000校（計2000校程度）のサンプルデータを収集し、分析・取りまとめののち一般に公表するとともに、提言の基礎データとして活用することを目指す。

3: 調査の方法

我が国の海洋教育実施状況に関する基礎データを収集するため、全国の国公立及び私立の小学校 21,371 校、中学校 10,639 校を対象にアンケート調査を行った。

1) 質問設計

教員の回答にかけることができる時間やアンケートの送付・回収・入力のコストを考えると、アンケートの分量は A4 用紙 2 枚程度が適切であると考えられたため、まずはこのアンケートを通して知りたいことを以下のように絞り、それぞれについてなるべく分かりやすく簡潔な問いとなるよう配慮しながら設問を作成していった。

- ・海洋教育の実施度とその内容
- ・学校のロケーション、地域による海洋教育の実施度の偏り
- ・海洋教育に対する期待やニーズ
- ・海洋基本法の認知度
- ・東日本大震災による海洋教育への影響

海洋教育を実施しているかどうかは、教科書の範囲内で扱っているのか、総合的な学習の時間で扱っているのかによって大きな違いがあるため、単に実施しているかどうかだけを質問するのではなく、どのように実施しているかを質問した。また、その際に、学校外の支援機関の利用についても質問した。学校のロケーションは、海からの距離そのものよりも、どの程度海に行きやすいと考えているかどうかを質問した。子どもたちが海について学ぶべき内容を問う設問の選択肢として、「21 世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（高等学校編）～海洋教育におけるコンピテンシーと内容領域、及び学習事例～」(海洋政策研究財団、2011 年 7 月)における内容領域の学習課題を参考とした。

2) 質問送付

質問票と回答の送付に係る費用や、時間の制約などを考慮し、質問の送信、回答の受取ともに FAX で行うこととした。なお、小中学校へ質問票を送付する前に、各自治体の教育委員会宛にアンケートを行う旨の周知を、以下の様な内容で行った。

(1) 教育委員会宛

- 送付方法： 普通郵便
- 送付数：
- 封筒： 長 3 茶色クラフト封筒
- 差出人名： スタンプ押印
- 同封物： 挨拶状、アンケート用紙（2 枚 1 組）
- 発送日： 3 月 5 日 19 時頃に新宿郵便局に持ち込み

その後、全国の小中学校 31,165 校へ以下の様な内容でアンケートの FAX 送信を行った。

(2) 学校宛

- 送付方法： FAX（自動配信サービスを利用）
- 送付数： 31,165 校

送付書類：	挨拶状、アンケート用紙（2枚1組）		
送信日：	3月7日 07:30	首都圏	8,116件
	3月8日 10:00	東海地方	3,367件
	3月8日 12:00	信越・北陸地方	2,216件
	3月8日 14:00	近畿地方	4,116件
	3月8日 16:00	東北地方	3,189件
	3月9日 10:00	中国地方	2,401件
	3月9日 12:00	四国地方	1,349件
	3月9日 14:00	九州地方	4,184件
	3月9日 16:00	北海道・沖縄地方	2,227件

当初1日1回10,000件程度を送信予定であったが、直後に回答を頂けるケースが想定よりも多く、受信回線が混雑したため、翌日から2時間ごとの送信に変更した。

3) 回答受付

回答はNTTひかり電話のFAXサービスを利用して受信した（話し中や、通信規格の問題で受信できなかった場合は、通常のFAX機に誘導）。受診結果の概算（重複や白紙受信などがあるため概算値となっている）は以下の通りであった。

図表1：回答受付状況

3月07日(水)	544件	3月20日(祝)	55件
3月08日(木)	776件	3月21日(水)	464件
3月09日(金)	993件	3月22日(木)	146件
3月10日(土)	178件	3月23日(金)	90件
3月11日(日)	122件	3月24日(土)	17件
3月12日(月)	1,051件	3月25日(日)	6件
3月13日(火)	784件	3月26日(月)	35件
3月14日(水)	556件	3月27日(火)	17件
3月15日(木)	358件	3月28日(水)	13件
3月16日(金)	265件	3月29日(木)	11件
3月17日(土)	53件	3月30日(金)	11件
3月18日(日)	56件	3月31日(土)	4件
3月19日(月)	352件		
合計		6,957件	

4) 回答の確認

学校名や送信元FAX番号などから回答学校を特定し、重複して回答のあった学校については回答内容を照合し、日付の新しいものを採用した。また、白紙を受信した場合（裏返しでFAX送信）や、2枚中1枚のみ受信した場合などは、FAXにて再度の送信を依頼した。その結果、最終的な受付数は6,706校となった。

5) アンケート原文

送付したアンケートの原文を次ページに掲載する。

【海洋教育に関するアンケート】

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、10分ほどお時間を頂きまして、ご回答と、FAXでの返信にご協力下さい。

氏名		役職・担当学年		担当教科	
所属学校名		学校住所			

- 質問 1：児童生徒を連れて、あなたの勤務する学校から海まで行こうとすると、どの程度かかりますか？
以下より最も近い選択肢の番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 徒歩 15 分程度で、いつでも行くことができる。
2. 徒歩 30 分～1 時間程度で到着するので、半日～1 日程度の日程で行くことができる。
3. 電車やバスを使わないと行くことができない。 |
|---|

- 質問 2：あなたは、「海洋教育」という言葉を知っていましたか？
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

- 質問 3：あなたの勤務する学校は、以下のどれに最も近いですか？
最も近い選択肢の番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 海に関する教育や活動は行っていない。
2. 海に関しては教科書に載っている範囲の内容について教えている。
3. 総合的な学習の時間で、「海そのもの」あるいは「海に関わるもの(生物や仕事など)」をメインテーマとした学習を行なっている。
4. 総合的な学習の時間で、メインテーマとしてではないが、「海に関わるもの」を取り上げたり学習したりしている。
5. 教科と総合的な学習の時間を連携させるなどして、海洋教育を重視している。
6. 教育課程外で海に関する活動を行っている。 |
|---|

- 質問 3-2：質問 3 で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きします。
その海に関する学習や活動は、どのような内容の学習ですか？

対象学年：	年生	時数：	時間
概要：			

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

- 質問 3-3：質問 3 で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きします。
その海に関する学習において、体験学習(臨海学校、漁村体験、磯の調査等)を行なっていますか？
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。またそれはどのような体験学習ですか？

体験学習の有無：	1. 行なっている	2. 行なっていない
概要：		

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

■質問3-4：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きします。

その海に関する学習において、学校外の機関や個人の協力を得て実施していますか？
連携している学校外の機関をすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---------------|---------|
| 1. 大学や研究機関 | 4. 財団法人等の公益機関 | 6. その他⇒ |
| 2. 水族館等の博物館 | 5. 市民団体やNPO等 | |
| 3. 漁業協同組合等の漁業関連団体 | 7. 連携なし | |

■質問3-5：質問3-4でいずれかの学校外機関を選択した方にお聞きします。

その海に関する学習における学校外機関の役割に当てはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|---------|
| 1. 教材や副読本の提供 | 4. 体験学習用の機材の提供 | 6. その他⇒ |
| 2. 外部講師の派遣 | 5. 体験学習用の施設の利用 | |
| 3. 施設見学と解説の対応 | | |

■質問4：学校外機関からどのようなサポートを受けることができれば、あなたの学校の海に関する学習がさらに充実する、あるいは、あなたの学校でも海に関する学習に取り組めるようになると思いますか？ご自身のお考えに近い選択肢を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 教材の提供 | 6. 専用施設での体験学習プログラムの提供 |
| 2. 外部講師 | 7. 授業の共同開発 |
| 3. 施設での解説 | 8. その他⇒ |
| 4. 海の学習のトータルな提案 | |
| 5. 海に関する学習を集めた事例集やwebサイトでの情報発信 | 9. 特に無い |

■質問5：あなたは海洋基本法についてご存知ですか？

ご自身のお考えに近い選択肢を1つ選んで、番号に○をつけて下さい。

- | |
|---|
| 1. 海洋基本法において、「学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進」が掲げられていることを知っている。 |
| 2. 海洋基本法の存在を知っている。 |
| 3. 海洋基本法は知らない。 |

■質問6：小中学校において、子どもたちが海に関してどのようなことをもっと学ぶべきだと思いますか？

ご自身のお考えに近い選択肢を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1. 現在の教科書に掲載されている内容で充分 | 9. 海の環境に関する内容 |
| 2. 海と私たちの生活の関連性に関する内容 | 10. 海から得ることができる資源やエネルギーに関する内容 |
| 3. 海の災害や防災に関する内容 | 11. 海に関する産業など経済活動に関する内容 |
| 4. 海での観光やレジャー・スポーツに関する内容 | 12. 海の管理に関する内容 |
| 5. 海に関連した文化や芸術に関する内容 | 13. 海に関係した国際的な取り組みに関する内容 |
| 6. 海にまつわる歴史に関する内容 | 14. 海の体験学習(臨海学校、漁村体験、磯のフィールド調査)など |
| 7. 海や地球の仕組みに関する内容 | 15. その他⇒ |
| 8. 海に生きる生物に関する内容 | 16. 特に無い |

■質問7：あなたは、東日本大震災によって、「海」を知る事や学ぶ事がより大切だと考えるようになりましたか？当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

■質問7-2：質問7で「1.はい」を選択した方にお聞きします。

具体的にどのようなことを教えるべきだと思うようになりましたか？

--

以上、ご協力ありがとうございました。誠に恐れ入りますがこのアンケート用紙(2枚)を3月21日(水)までにFAXにてご返信下さい。

FAX:03-6276-4277

管理 No. FX

4: 調査の結果

1) 回答の内訳

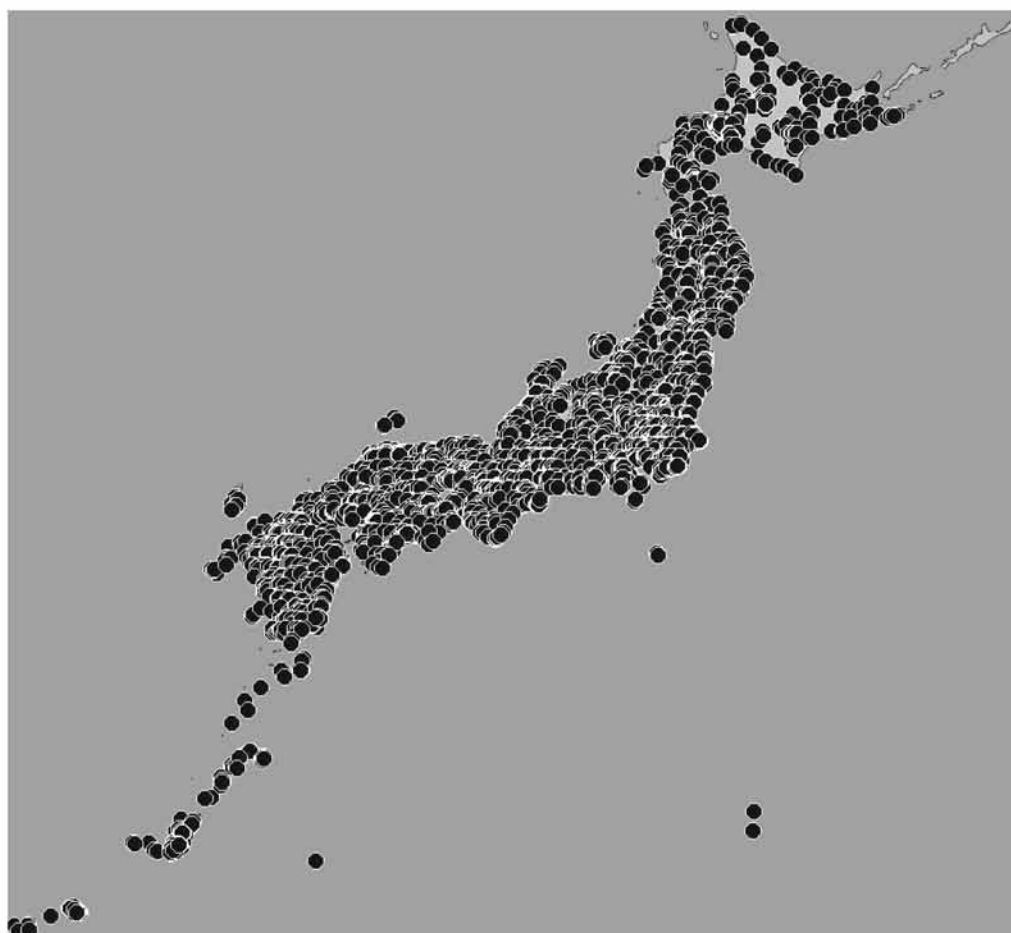
小学校からは 21,371 校中 4,203 校(19.7%)、中学校からは 10,639 校中 2,490 校(23.4%)、合計で 32,010 校中 6,706 校(20.9%)の回答が得られた。

図表 2 : 学校種別の回答校数

学校種別	回答数(校)	学校数(校)	回答率(%)
小学校	4,203	21,371	19.7
中学校	2,490	10,639	23.4
小中学校	13	-	-
計	6,706	32,010	20.9

回答が得られた学校を地図上にプロットすると、以下のようになり、概ね全国からバラつきなく回答を得られた。また、臨海部だけでなく、山間部の学校からも多くの回答が得られた。

図表 3 : 回答校の分布図



2) 集計結果 (シングル)

(1) 学校のロケーション

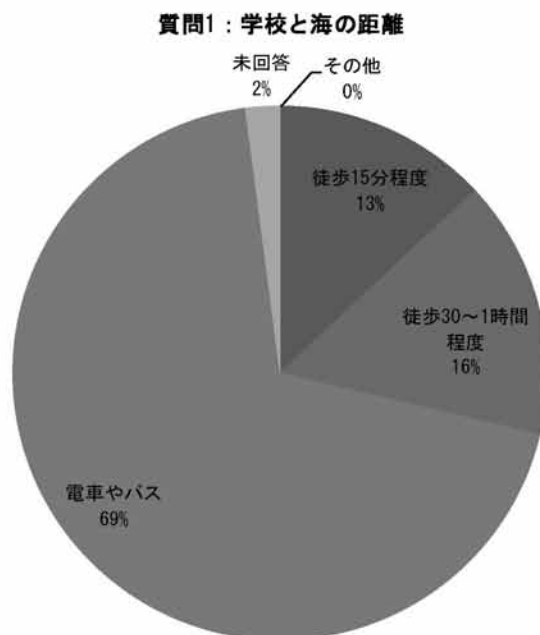
■質問 1：児童生徒を連れて、あなたの勤務する学校から海まで行こうとすると、どの程度かかりますか？
以下より最も近い選択肢の番号に○をつけてください。

1. 徒歩 15 分程度で、いつでも行くことができる。
2. 徒歩 30 分～1 時間程度で到着するので、半日～1 日程度の日程で行くことができる。
3. 電車やバスを使わないと行くことができない。

学校から海までどの程度で行けるかを質問したところ、徒歩 15 分程度で海に行ける学校は、全体の 13.0%であった。逆に電車やバスを使わないと行けない学校は 69.2%であった。このことから、臨海部だけでなく、山間部の学校からも回答を得たことが分かる。

図表 4：学校と海との距離

質問1：学校と海の距離	度数(校)	割合(%)
1 徒歩15分程度	872	13.0
2 徒歩30～1時間程度	1,053	15.7
3 電車やバス	4,642	69.2
未回答	139	2.1
その他	0	0.0
計	6,706	100.0



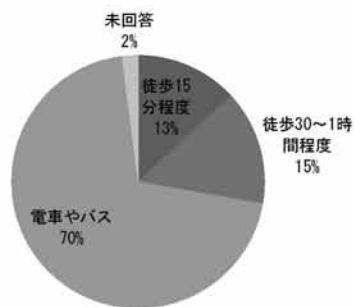
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 5：学校種別の学校と海との距離

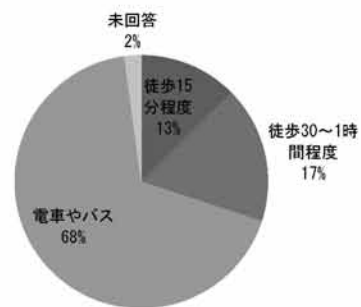
種別	質問1：学校と海の距離				計
	1 徒歩 分程度 15	2 徒歩 程1歩 度時間 30	3 電車 やバ ス	4 未回 答	
1 小学校	550 13.1	618 14.7	2,950 70.2	85 2.0	4,203
2 中学校	314 12.6	434 17.4	1,688 67.8	54 2.2	2,490
計	864 12.9	1,052 15.7	4,638 69.3	139 2.1	6,693

※下段の数字は%

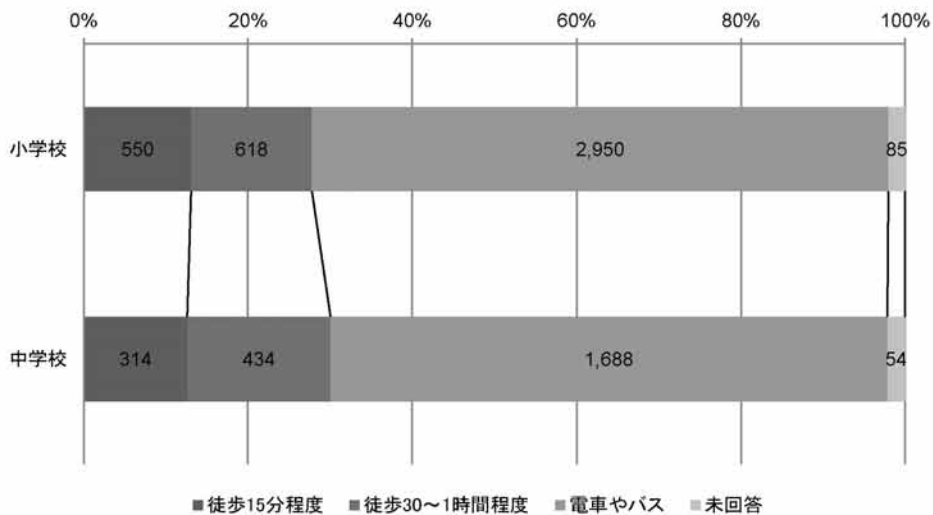
小学校(4,203校)から
海まで行くのに必要な時間



中学校(2,490校)から
海まで行くのに必要な時間



学校種別の海まで行くのに必要な時間



(2) 海洋教育の認知度

■質問2：あなたは、「海洋教育」という言葉を知っていましたか？
当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

1.はい

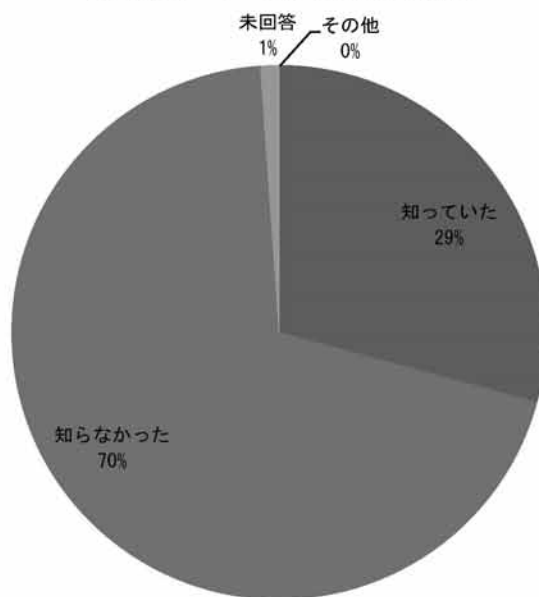
2.いいえ

海洋教育という言葉を知っているかどうかを質問したところ、知っていると回答したのは29.2%であった。この割合は、「2-1. 学校のロケーション」において、徒歩1時間以内で海に行けると回答した学校の割合とほぼ同じであった（詳しい相関は「3-1. 学校のロケーションと海洋教育の認知度」を参照）。

図表6：海洋教育という言葉の認知度

質問2：ワード「海洋教育」の認知度	度数(校)	割合(%)
1 知っていた	1,958	29.2
2 知らなかった	4,673	69.7
未回答	75	1.1
その他	0	0.0
計	6,706	100.0

質問2：ワード「海洋教育」の認知度



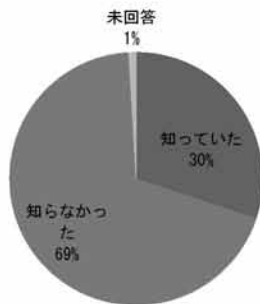
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 7：学校種別の海洋教育という言葉の認知度

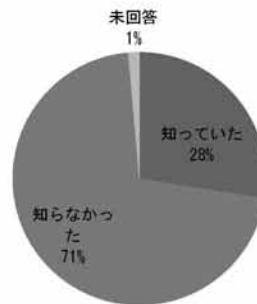
		質問2：海洋教育の認知度			計
		1 知 っ て い た	2 か 知 ら な か つ た	3 未 回 答	
種 別	1 小学校	1,266 30.1	2,897 68.9	40 1.0	4,203
	2 中学校	685 27.5	1,770 71.1	35 1.4	2,490
計		1,951 29.1	4,667 69.7	75 1.1	6,693

※下段の数字は%

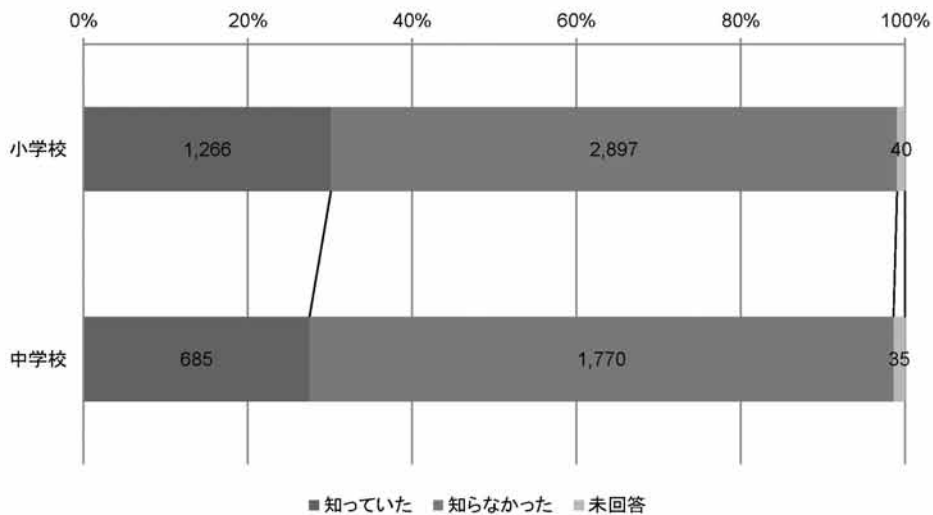
小学校(4,203校)の
海洋教育の認知度



中学校(2,490校)の
海洋教育の認知度



学校種別と海洋教育の認知度



(3) 海洋教育の実施状況

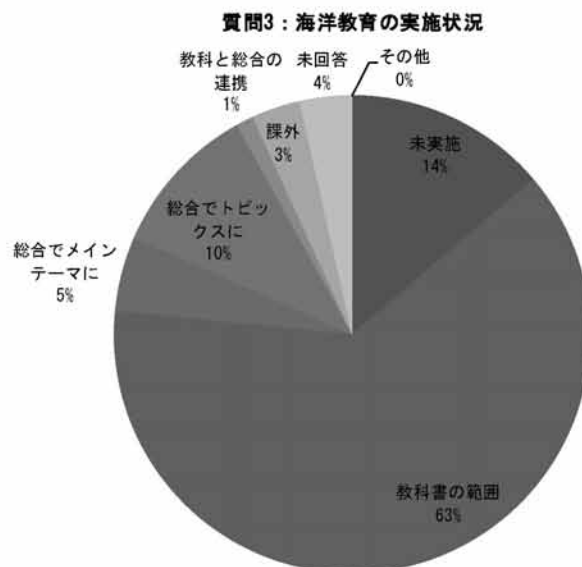
■質問3：あなたの勤務する学校は、以下のどれに最も近いですか？
最も近い選択肢の番号に○をつけてください。

1. 海に関する教育や活動は行っていない。
2. 海に関しては教科書に載っている範囲の内容について教えている。
3. 総合的な学習の時間で、「海そのもの」あるいは「海に関わるもの(生物や仕事など)」をメインテーマとした学習を行っている。
4. 総合的な学習の時間で、メインテーマとしてではないが、「海に関わるもの」を取り上げたり学習したりしている。
5. 教科と総合的な学習の時間を連携させるなどして、海洋教育を重視している。
6. 教育課程外で海に関する活動を行っている。

海洋教育の実践状況を質問したところ、教科書の範囲で実施している学校が 62.8%と大多数であった。未実施と合わせると約 8 割が教科以外の海洋教育には取り組んでいなかった。総合的な学習の時間で海洋教育に取り組んでいる学校は 16.7%（課外活動を合わせると 20.0%）であったが、そのうち 10.4%はトピックスの1つとしてのみの扱いであった。

図表 8：海洋教育の実践状況

質問3：海洋教育の実施状況	度数(校)	割合(%)
1 未実施	922	13.7
2 教科書の範囲	4,213	62.8
3 総合でメインテーマに	340	5.1
4 総合でトピックスに	695	10.4
5 教科と総合の連携	78	1.2
6 課外	221	3.3
未回答	237	3.5
その他	0	0.0
計	6,706	100.0



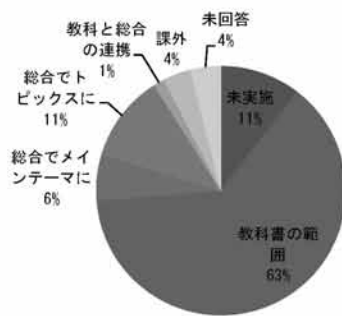
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 9 : 学校種別の海洋教育の実践状況

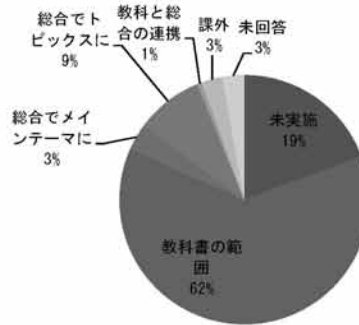
		質問3：海洋教育の実践状況							計
		1 未実施	2 教科書の 範囲	3 総合 メイン に	4 総合 ピク ク で ス ト に	5 教科 の 連 携 と 総 合	6 課 外	7 未 回 答	
種 別	1 小学校	439 10.4	2,660 63.3	251 6.0	475 11.3	60 1.4	152 3.6	166 3.9	4,203
	2 中学校	482 19.4	1,551 62.3	87 3.5	218 8.8	15 0.6	67 2.7	70 2.8	2,490
計		921 13.8	4,211 62.9	338 5.1	693 10.4	75 1.1	219 3.3	236 3.5	6,693

※下段の数字は%

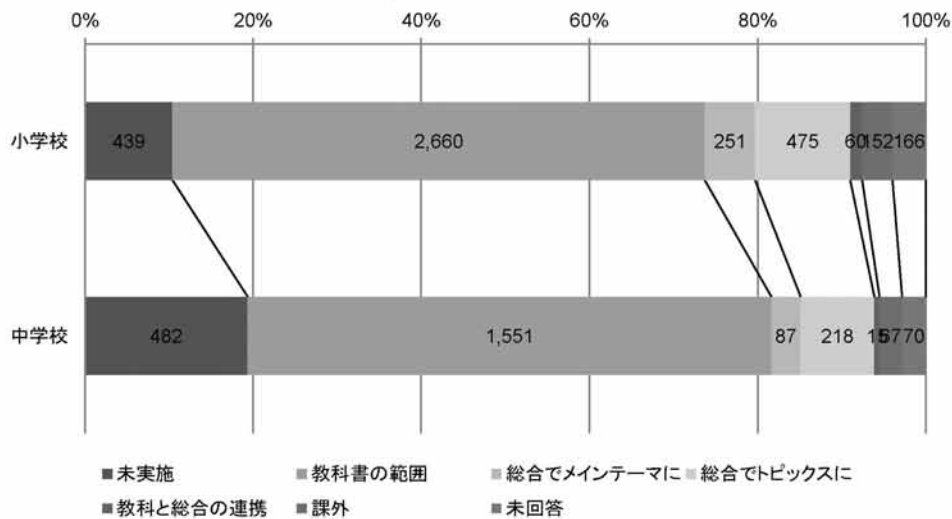
小学校 (4,203校) の海洋教育実施状況



中学校 (2,490校) の海洋教育実施状況



学校種別の海洋教育実施状況



(4) 海洋教育内容の自由記述の有無

■質問3-2：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きます。
その海に関する学習や活動は、どのような内容の学習ですか？

対象学年：	年生	時数：	時間
概要：			

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

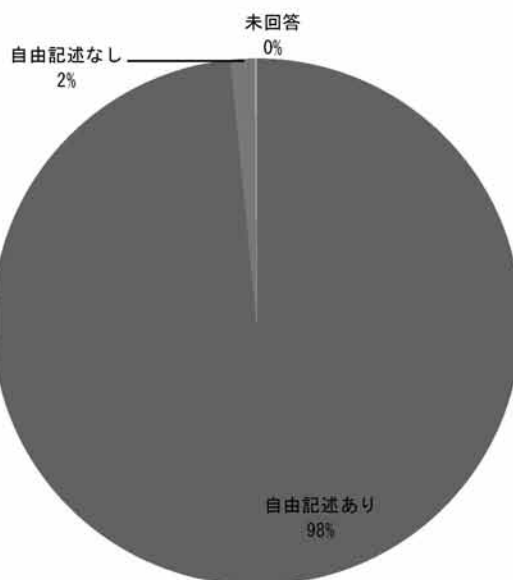
質問3において総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校（質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校）のみに関して、自由記述の有無を集計したところ、98%がその学習の概要を自由記述にて回答した。

図表 10：海洋教育内容の自由記述の有無

質問3-2：学習の概要	自由記述の有無	度数(校)	割合(%)
1	自由記述あり	1,313	98.4
0	自由記述なし	20	1.5
	未回答	1	0.1
計		1,334	100.0

※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計

質問3-2：学習の概要 自由記述の有無
※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計



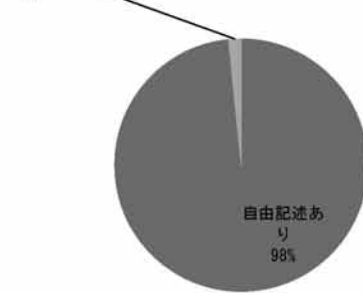
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 11：学校種別の海洋教育内容の自由記述の有無

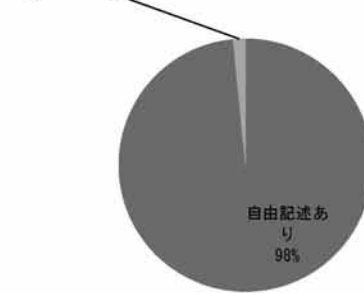
種別	質問3-2：海洋教育内容の自由記述の有無		計
	自由あり記述	自由なし記述	
小学校	923 98.4	15 1.6	938
中学校	381 98.4	6 1.6	387
計	1,304 98.4	21 1.6	1,325

※03で3～6と回答した学校のみ集計
※下段の数字は%

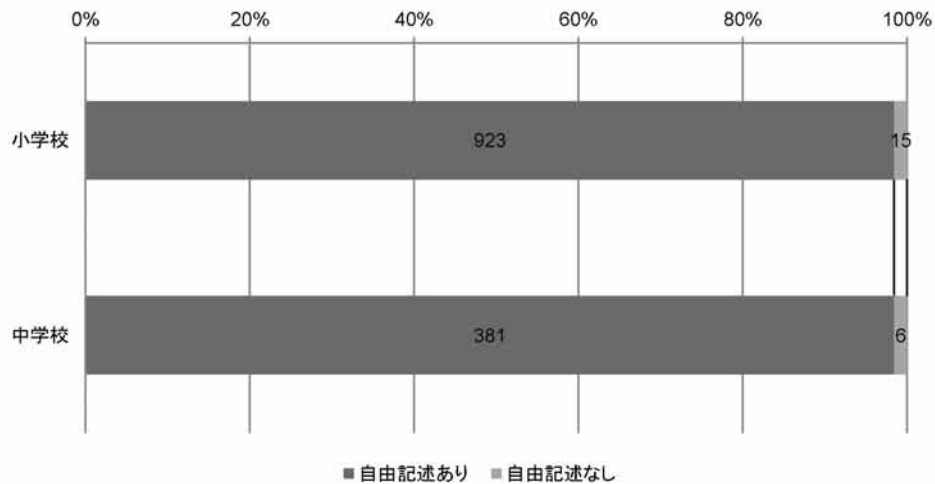
質問3で3～6と回答した小学校(938校)の海洋教育内容の自由記述の有無



質問3で3～6と回答した中学校(387校)の海洋教育内容の自由記述の有無



学校種別と海洋教育内容の自由記述の有無
(質問3で3～6と回答した学校のみ)

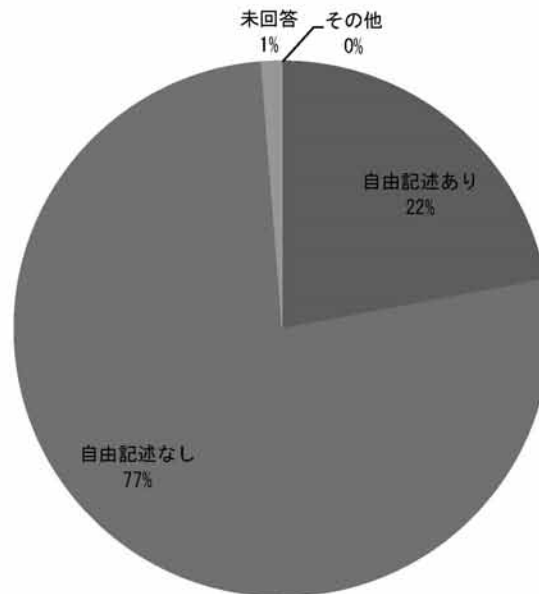


なお、質問3の回答にかかわらず、全サンプルを集計した結果は以下の通りであった。

図表 12：海洋教育内容の自由記述の有無（全サンプル）

質問3-2：学習の概要 自由記述の有無	度数(校)	割合(%)
1 自由記述あり	1,478	22.0
0 自由記述なし	5,144	76.7
未回答	84	1.3
その他	0	0.0
計	6,706	100.0

質問3-2：学習の概要 自由記述の有無

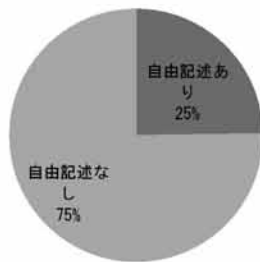


学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 13：学校種別の海洋教育内容の自由記述の有無

種別	質問3-2：海洋教育内容の自由記述の有無		計
	自由記述あり	自由記述なし	
小学校	1,041 24.8	3,162 75.2	4,203
中学校	427 17.1	2,063 82.9	2,490
計	1,468 21.9	5,225 78.1	6,693

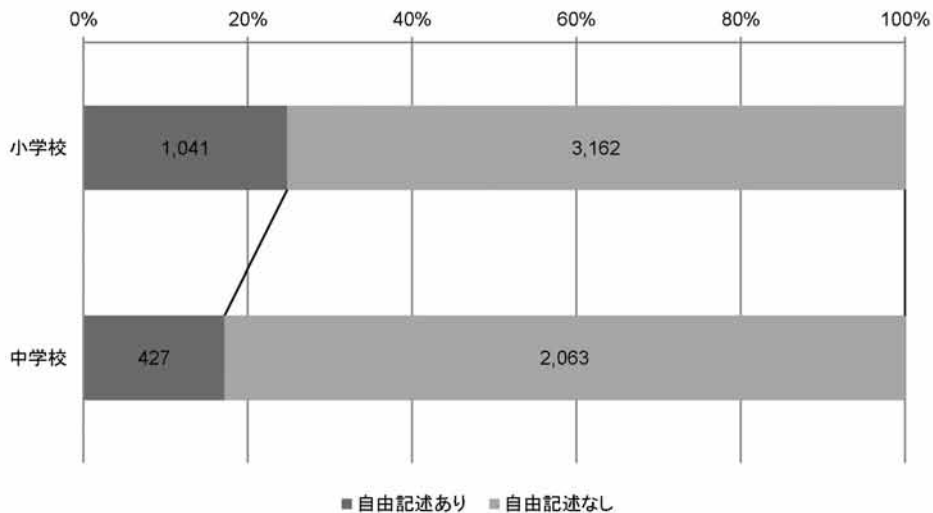
小学校(4,203校)の海洋教育内容の自由記述の有無



中学校(2,490校)の海洋教育内容の自由記述の有無



学校種別と海洋教育内容の自由記述の有無



(5) 体験学習の有無

■質問3-3：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きます。
 その海に関する学習において、体験学習(臨海学校、漁村体験、磯の調査等)を行なっていますか？
 当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。またそれはどのような体験学習ですか？

体験学習の有無：	1.行なっている	2.行なっていない
概要：		

※複数ある場合は、別紙にお書きください。

質問3において総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校(質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校)のみに関して、体験学習の有無を集計したところ、72.0%が体験学習を行なっていると回答した。

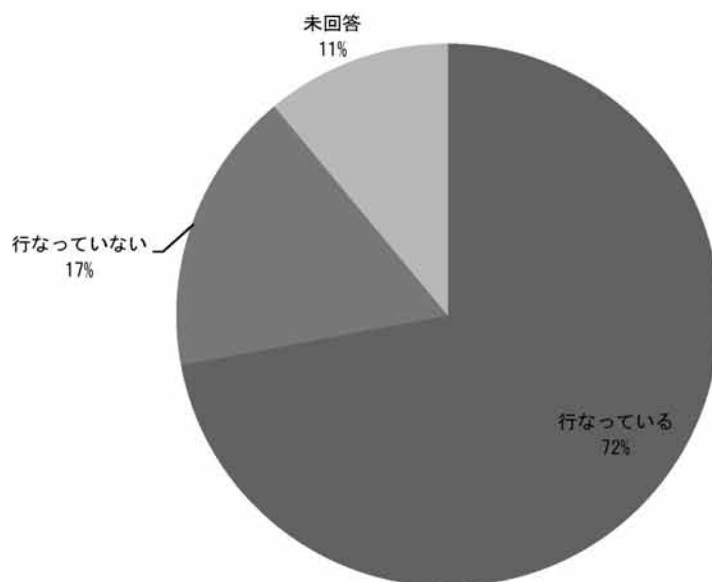
図表 14：海洋教育における体験学習の有無

質問3-3：体験学習の有無	度数(校)	割合(%)
1 行なっている	961	72.0
2 行なっていない	226	16.9
未回答	147	11.0
計	1,334	100.0

※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計

質問3-3：体験学習の有無

※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計



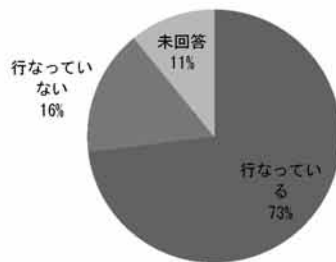
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 15：学校種別の海洋教育における体験学習の有無

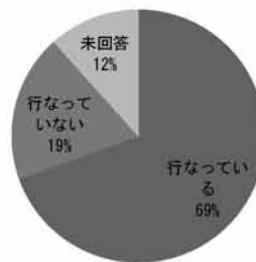
種別	質問3-3：体験学習の有無			計
	行なっている	行なっていない	未回答	
小学校	685 73.0	151 16.1	102 10.9	938
中学校	269 69.5	73 18.9	45 11.6	387
計	954 72.0	224 16.9	147 11.1	1,325

※03で3～6と回答した学校のみ集計
※下段の数字は%

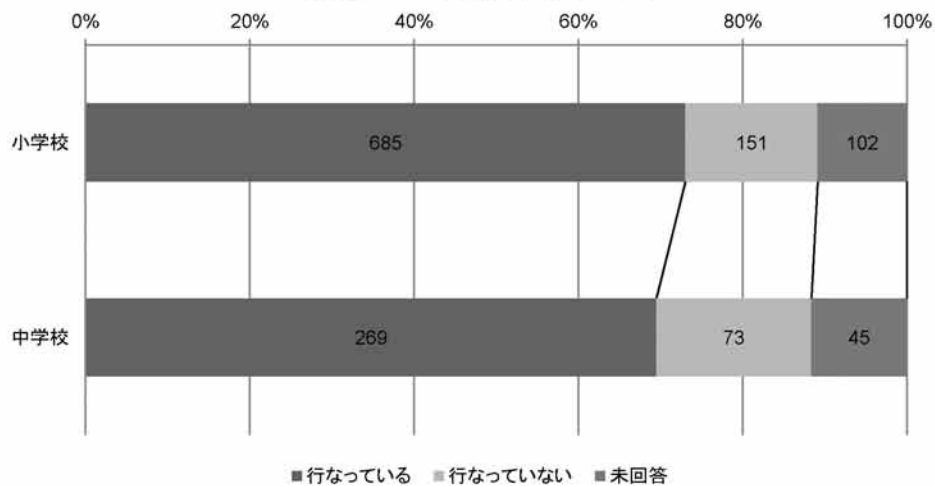
質問3で3～6と回答した小学校(938校)の
体験学習の有無



質問3で3～6と回答した中学校(387校)の
体験学習の有無



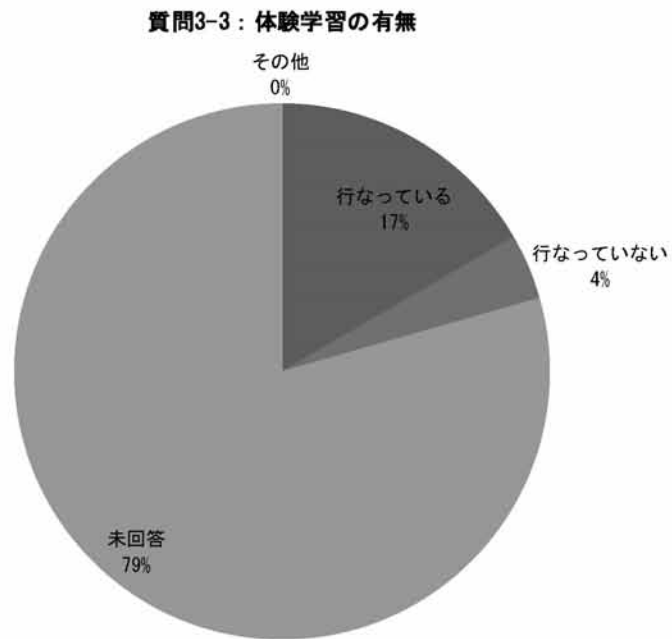
学校種別と体験学習の有無
(質問3で3～6と回答した学校のみ)



なお、質問3の回答にかかわらず、全サンプルを集計した結果は以下の通りであった。

図表 16：海洋教育における体験学習の有無（全サンプル）

質問3-3：体験学習の有無	度数(校)	割合(%)
1 行なっている	1,115	16.6
2 行なっていない	265	4.0
未回答	5,326	79.4
その他	0	0.0
計	6,706	100.0



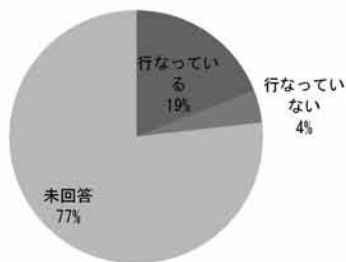
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 17：学校種別の海洋教育における体験学習の有無（全サンプル）

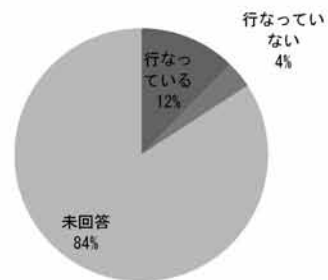
種別	質問3-3：体験学習の有無			計
	行なっている	行なっていない	未回答	
小学校	800 19.0	176 4.2	3,227 76.8	4,203
中学校	307 12.3	87 3.5	2,096 84.2	2,490
計	1,107 16.5	263 3.9	5,323 79.5	6,693

※下段の数字は%

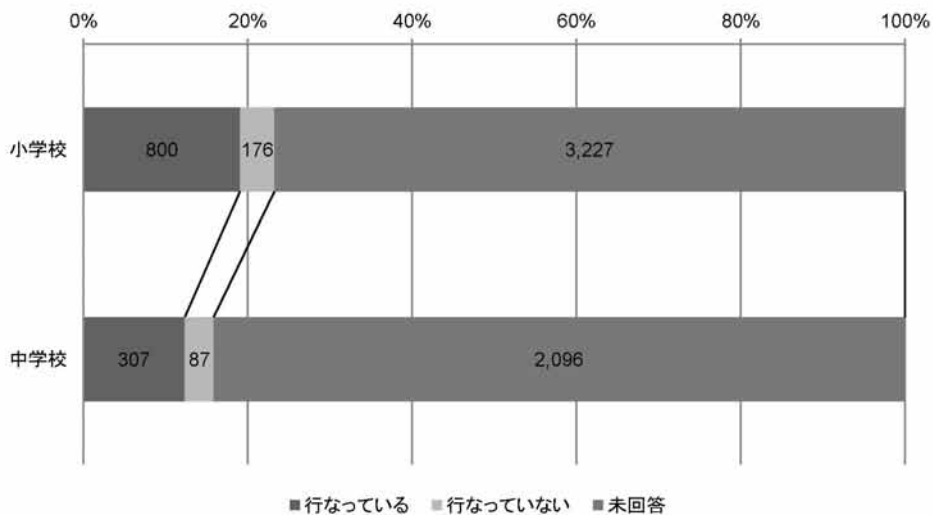
小学校(4,203校)の
体験学習の有無



中学校(2,490校)の
体験学習の有無



学校種別と体験学習の有無



(6) 学校外機関・個人の協力

■質問3-4：質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方にお聞きします。
 その海に関する学習において、学校外の機関や個人の協力を得て実施していますか？
 連携している学校外の機関をすべて選んで、番号に○をつけてください。

1. 大学や研究機関	4. 財団法人等の公益機関	6. その他⇒
2. 水族館等の博物館	5. 市民団体やNPO等	
3. 漁業協同組合等の漁業関連団体	7. 連携なし	

質問3において総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校（質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校）のみに関して、学校外機関・個人の協力の有無を集計したところ、83.1%がいずれかの学校外機関・個人と連携があると回答した。特に、漁業協同組合等の漁業関連団体と連携したと回答した学校は34.9%と最も多く、水族館等の博物館、公益機関に比べ2倍以上であった。（複数回答可であるため、回答率の合計は100%とはならない）。

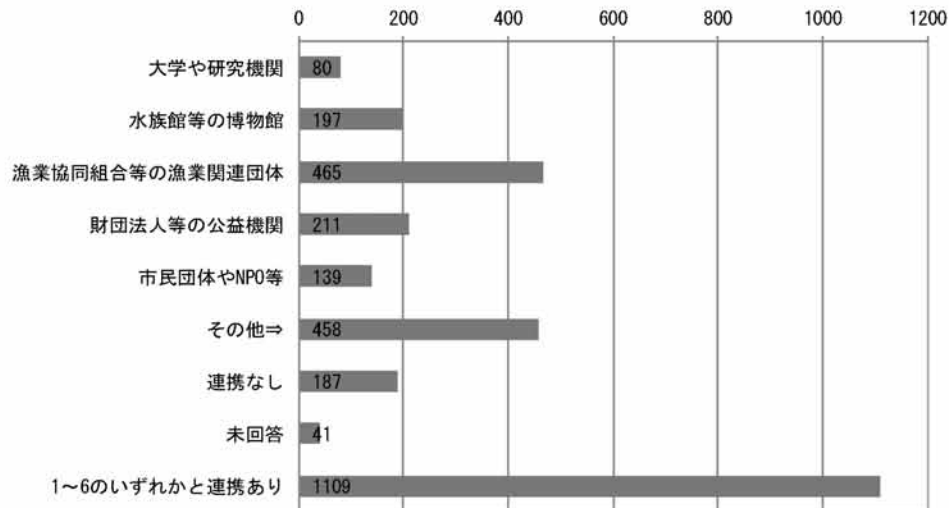
図表18：海洋教育における学校外機関・個人の協力状況

質問3-4：学校外機関・個人の協力	度数(校)	割合(%) n=1,334
1 大学や研究機関	80	6.0
2 水族館等の博物館	197	14.8
3 漁業協同組合等の漁業関連団体	465	34.9
4 財団法人等の公益機関	211	15.8
5 市民団体やNPO等	139	10.4
6 その他⇒	458	34.3
7 連携なし	187	14.0
未回答	41	3.1
1～6のいずれかと連携あり	1,109	83.1

※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計

質問3-4：学校外機関・個人の協力 (n=1,334)

※質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計

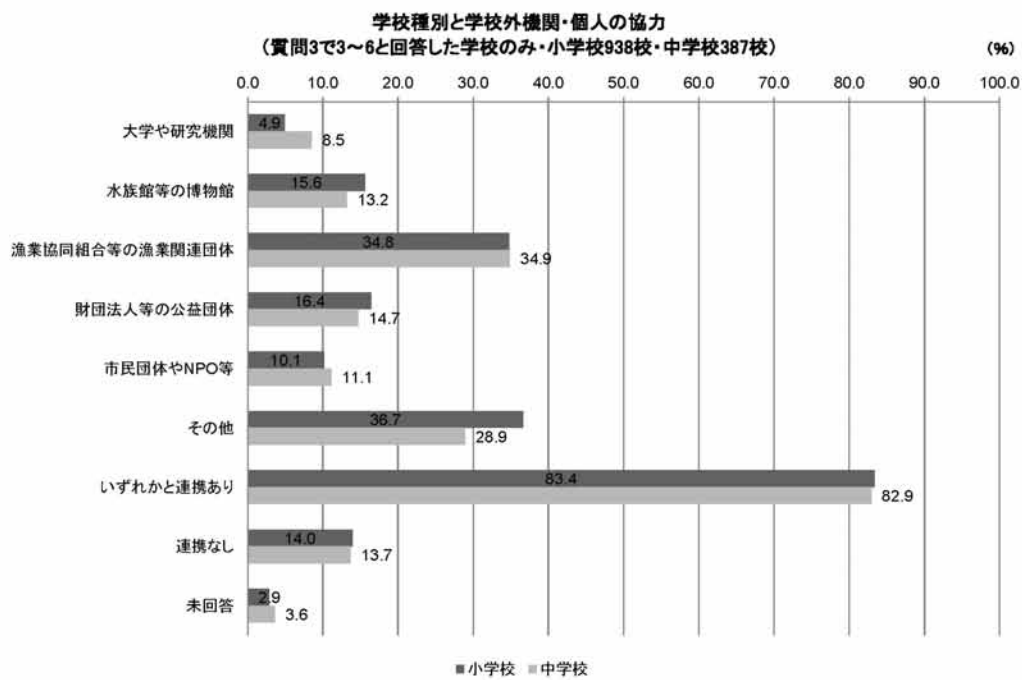


学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 19：学校種別の海洋教育における学校外機関・個人の協力状況

学校種別	質問3-4：学校外機関・個人の協力									学校数
	大学や研究機関	の水族館等の博物館等	漁業協同組合等の漁業関連団体	財団法人等の公益法人	やNPO等市民団体	その他	いずれかと連携あり	連携なし	未回答	
小学校	46 4.9	146 15.6	326 34.8	154 16.4	95 10.1	344 36.7	782 83.4	131 14.0	27 2.9	938
中学校	33 8.5	51 13.2	135 34.9	57 14.7	43 11.1	112 28.9	321 82.9	53 13.7	14 3.6	387
計	79 6.0	197 14.9	461 34.8	211 15.9	138 10.4	456 34.4	1,103 83.9	184 13.9	41 3.1	1,325

※03で3～6と回答した学校のみ集計
※下段の数字は%

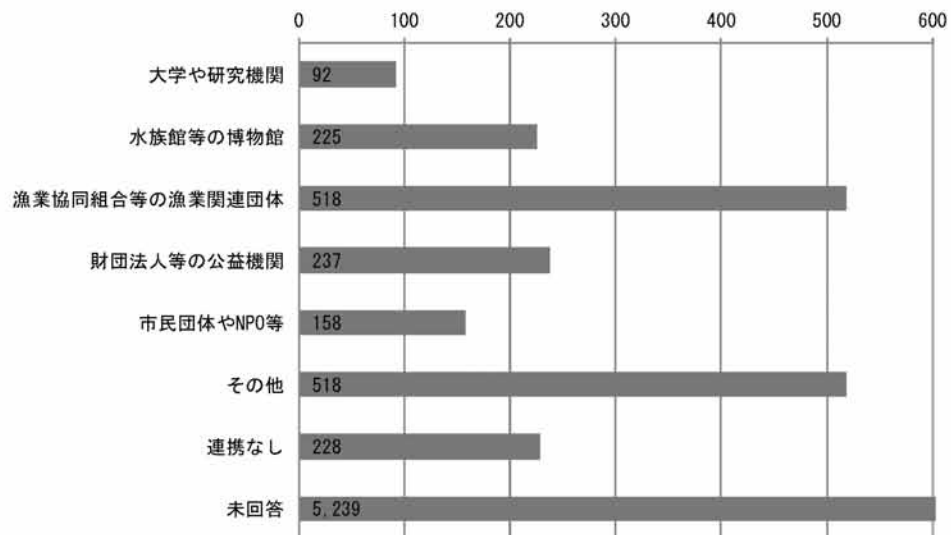


なお、質問3の回答にかかわらず、全サンプルを集計した結果は以下の通りであった。

図表 20：海洋教育における学校外機関・個人の協力状況（全サンプル）

質問3-4：学校外機関・個人の協力	度数(校)	割合(%) n= 6,706
1 大学や研究機関	92	1.4
2 水族館等の博物館	225	3.4
3 漁業協同組合等の漁業関連団体	518	7.7
4 財団法人等の公益機関	237	3.5
5 市民団体やNPO等	158	2.4
6 その他	518	7.7
7 連携なし	228	3.4
未回答	5,239	78.1

質問3-4：学校外機関・個人の協力 (n=6,706)



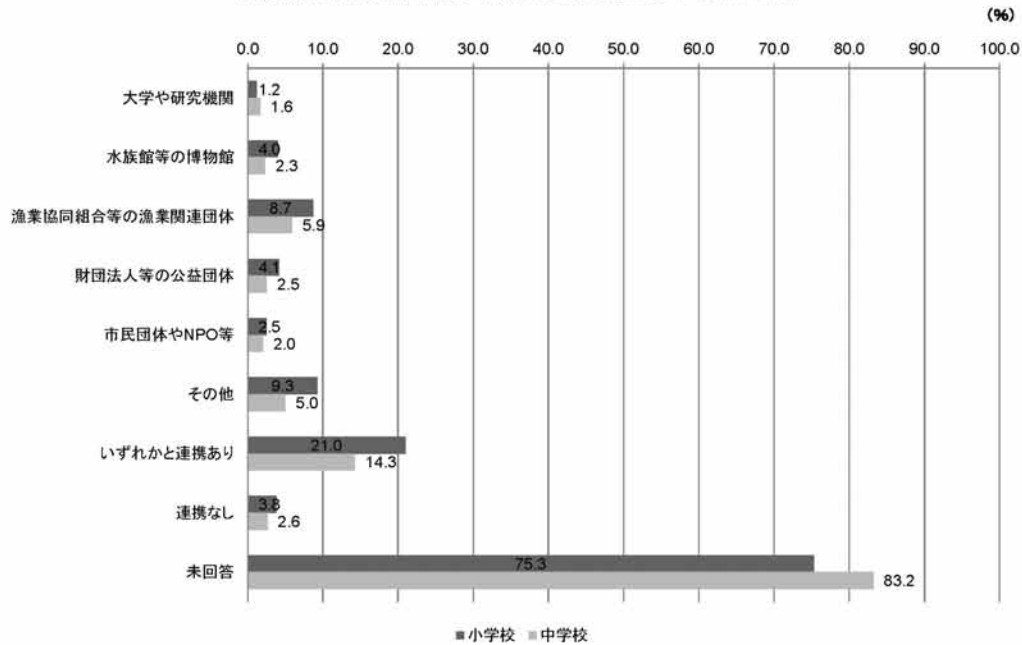
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 21：学校種別の海洋教育における学校外機関・個人の協力状況（全サンプル）

学校種別	質問3-4：学校外機関・個人の協力									学校数
	大学や研究機関	水族館等の博物館等	漁業協同組合等の漁業関連団体	財団法人等の公益法人	市民団体やNPO等	その他	いずれかと連携あり	連携なし	未回答	
小学校	50 1.2	168 4.0	366 8.7	174 4.1	106 2.5	391 9.3	883 21.0	160 3.8	3,164 75.3	4,203
中学校	41 1.6	57 2.3	147 5.9	63 2.5	50 2.0	125 5.0	355 14.3	65 2.6	2,072 81.2	2,490
計	91 1.4	225 3.4	513 7.7	237 3.5	156 2.3	516 7.7	1,238 18.5	225 3.4	5,236 78.2	6,693

※下段の数字は%

学校種別と学校外機関・個人の協力（小学校4,203校・中学校2,490校）



学校種・ロケーション・質問3の回答別に集計したところ、以下のようになった。

図表 22：学校種・ロケーション・海洋教育実施状況別の海洋教育における学校外機関・個人の協力状況

種別	ロケーション	01：海洋教育実施状況	該当学校数	質問3-4：学校外機関・個人の協力											
				大学や研究機関	水産庁や水産大学校等	漁業関係団体等漁業関係の団体	漁業関係団体等漁業関係の団体	等財団の団体公益法人	や市民団体等市民団体	その他	いずれも関係ない	その他	不明	未回答	
小学校	徒歩15分	総合でメインテーマ	120	7	11	64	15	14	52	110	16	27	8	3	
		総合でトピックス	159	8	10	80	20	18	133	16	36	24	2		
		教科と総合の連携	21	3	4	17	4	1	10	20	7	5	1	0	
		課外	1	3	11	5	2	7	18	4	7	2	2	2	
		未実施・教科書以外	328	19	28	167	44	25	126	292	43	75	40	7	
		総合	279	15	21	144	35	22	106	243	32	63	32	5	
		総合トピックスor教科総合連携	180	11	14	92	24	19	67	153	23	41	25	2	
		総合でメインテーマ	44	3	5	15	3	10	18	40	8	13	4	0	
		総合でトピックス	95	3	11	35	12	9	37	60	13	21	12	3	
		教科と総合の連携	7	3	3	3	4	2	0	7	4	4	0	0	
		課外	19	0	1	1	6	2	5	14	1	8	5	0	
		未実施・教科書以外	165	9	20	54	25	23	60	141	26	46	21	3	
	総合	139	6	16	50	15	19	55	120	21	34	16	3		
	総合トピックスor教科総合連携	102	6	14	38	16	11	37	67	17	25	12	3		
	総合でメインテーマ	83	4	26	26	21	12	25	69	28	28	6	8		
	総合でトピックス	215	9	44	40	44	16	73	172	51	59	35	8		
	教科と総合の連携	32	2	12	11	6	4	16	31	14	9	2	0		
	課外	102	3	15	24	14	2	41	77	18	16	24	1		
	未実施・教科書以外	432	18	97	101	85	34	155	349	111	112	67	17		
	総合	298	13	70	66	65	28	98	241	39	67	41	16		
	総合トピックスor教科総合連携	247	11	56	51	50	20	89	203	65	68	37	8		
	電車やバス	総合でメインテーマ	35	6	4	19	3	4	12	33	9	6	1	1	
		総合でトピックス	77	2	5	36	6	7	26	65	7	11	12	0	
		教科と総合の連携	4	1	1	0	0	2	1	4	2	2	0	0	
課外		20	1	2	7	2	4	3	13	3	6	6	1		
未実施・教科書以外		136	10	12	62	11	17	42	115	21	25	19	2		
総合		112	8	8	55	9	11	38	96	16	17	13	1		
総合トピックスor教科総合連携		81	3	6	36	6	9	27	69	9	13	12	0		
総合でメインテーマ		11	0	0	3	1	1	5	9	0	2	2	0		
総合でトピックス		49	1	9	13	6	7	13	35	10	12	9	5		
教科と総合の連携		1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0		
課外		10	1	1	2	1	1	1	7	2	2	2	1		
未実施・教科書以外		71	2	11	10	8	9	19	52	13	16	12	6		
総合	60	1	9	16	7	8	18	44	10	14	11	5			
総合トピックスor教科総合連携	50	2	10	12	6	7	13	26	11	12	9	5			
電車やバス	総合でメインテーマ	40	4	9	20	7	6	10	26	12	13	2	2		
	総合でトピックス	88	8	12	26	19	5	23	76	18	24	10	2		
	教科と総合の連携	10	2	3	3	3	2	8	4	5	2	0			
	課外	37	6	4	5	9	2	12	29	9	11	7	2		
	未実施・教科書以外	175	20	28	54	38	16	47	148	43	52	21	6		
	総合	128	12	21	46	26	11	33	112	20	37	12	4		
	総合トピックスor教科総合連携	98	10	15	29	22	8	25	84	22	29	12	2		

(7) 学校外機関・個人の役割

■質問 3-5：質問 3-4 でいずれかの学校外機関を選択した方にお聞きします。
その海に関する学習における学校外機関の役割に当てはまるものをすべて選び、
番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|---------|
| 1. 教材や副読本の提供 | 4. 体験学習用の機材の提供 | 6. その他⇒ |
| 2. 外部講師の派遣 | 5. 体験学習用の施設の利用 | |
| 3. 施設見学と解説の対応 | | |

質問 3 において総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答し（質問 3 で「3」「4」「5」「6」を選択）、かつ、質問 3-4 において学校外機関・個人の協力を得ていると回答した（質問 3-4 で「1」～「6」を選択）学校（1,109 校）に関して、学校外機関の役割を集計したところ、体験学習用の施設の利用が 50.7%と最も多かった。教材や副読本の提供と回答した学校が 14.4%と最も少なかった（複数回答可であるため、回答率の合計は 100%とはならない）。

図表 23：海洋教育における学校外機関・個人の役割

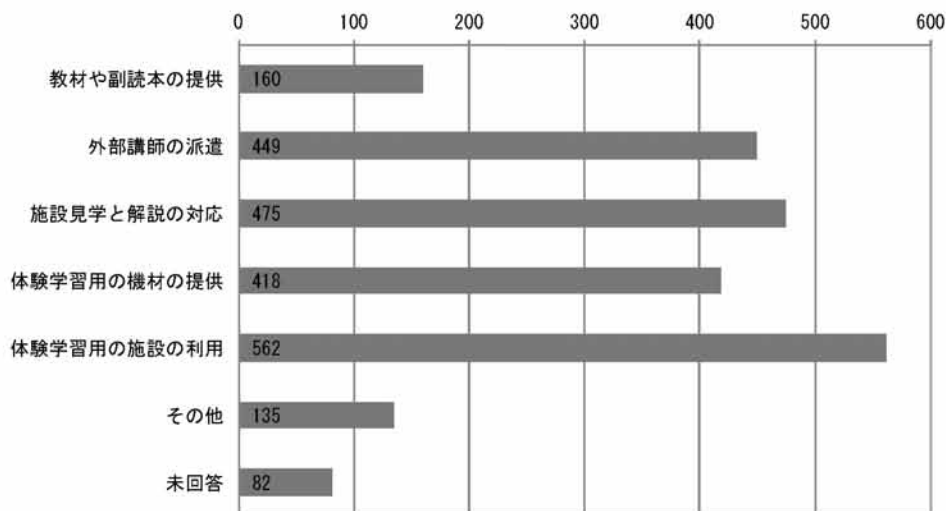
質問3-5：学校外機関・個人の役割	度数(校)	割合(%) n= 1,109
1 教材や副読本の提供	160	14.4
2 外部講師の派遣	449	40.5
3 施設見学と解説の対応	475	42.8
4 体験学習用の機材の提供	418	37.7
5 体験学習用の施設の利用	562	50.7
6 その他	135	12.2
未回答	82	7.4

※質問3で「3」～「6」を選択し、

かつ、質問3-4で「1」～「6」を選択した方のみ集計

質問3-5：学校外機関・個人の役割 (n=1,109)

質問3で「3」～「6」を選択し、かつ、質問3-4で「1」～「6」を選択した方のみ集計



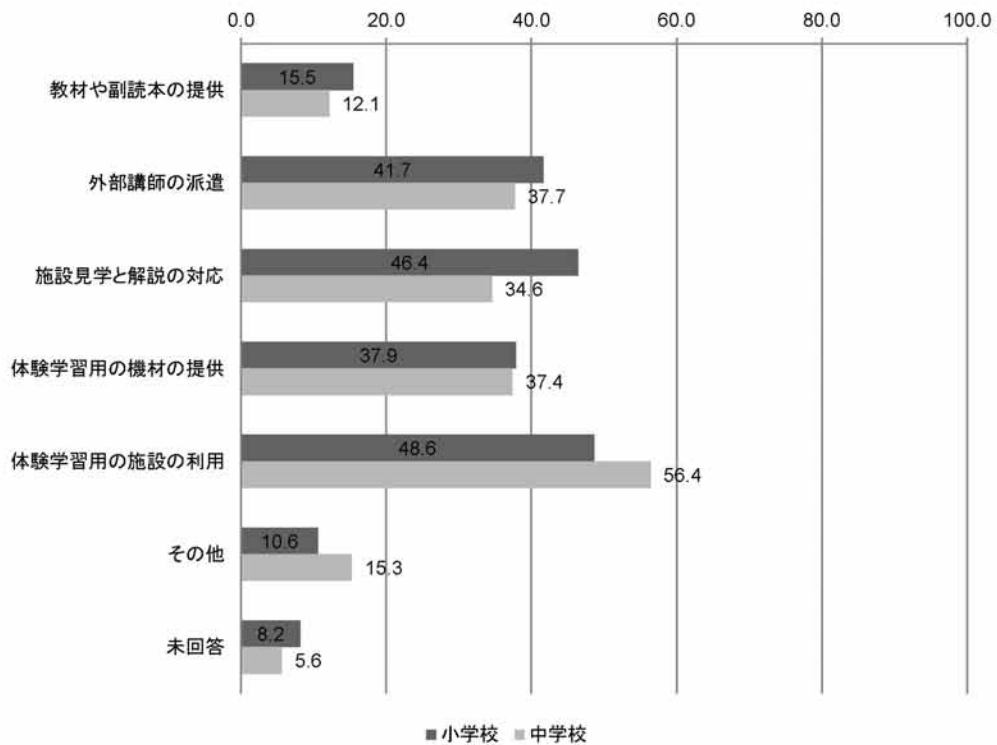
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 24：学校種別の海洋教育における学校外機関・個人の役割

種別	質問3-5：学校外機関・個人の役割							学校数
	読教材 本の 提供 や 副 読 本	外 部 講 師 の 派 遣	と 施 設 見 学 の 対 応	用 体 験 学 習 の 機 材 の 提 供	用 体 験 学 習 の 施 設 の 利 用	そ の 他	未 回 答	
小学校	121 15.5	326 41.7	363 46.4	296 37.9	380 48.6	83 10.6	64 8.2	782
中学校	39 12.1	121 37.7	111 34.6	120 37.4	181 56.4	49 15.3	18 5.6	321
計	160 14.5	447 40.5	474 43.0	416 37.7	561 50.9	132 12.0	82 7.4	1,103

※Q3で3～6、Q3-4で1～6と回答した学校のみ集計
※下段の数字は%

学校種別と学校外機関・個人の協力
(質問3で3～6、質問3-4で1～6と回答した学校・小学校782校・中学校321校) (%)

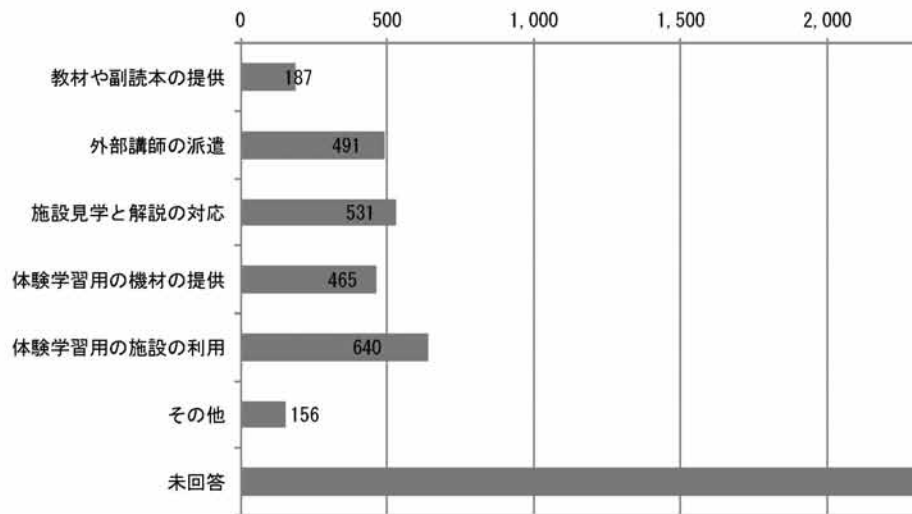


なお、質問3、回答3-4の回答にかかわらず、全サンプルを集計した結果は以下の通りであった。

図表 25：海洋教育における学校外機関・個人の役割（全サンプル）

質問3-5：学校外機関・個人の役割	度数(校)	割合(%) n= 6,706
1 教材や副読本の提供	187	2.8
2 外部講師の派遣	491	7.3
3 施設見学と解説の対応	531	7.9
4 体験学習用の機材の提供	465	6.9
5 体験学習用の施設の利用	640	9.5
6 その他	156	2.3
未回答	5,535	82.5

質問3-5：学校外機関・個人の役割（n=6,706）



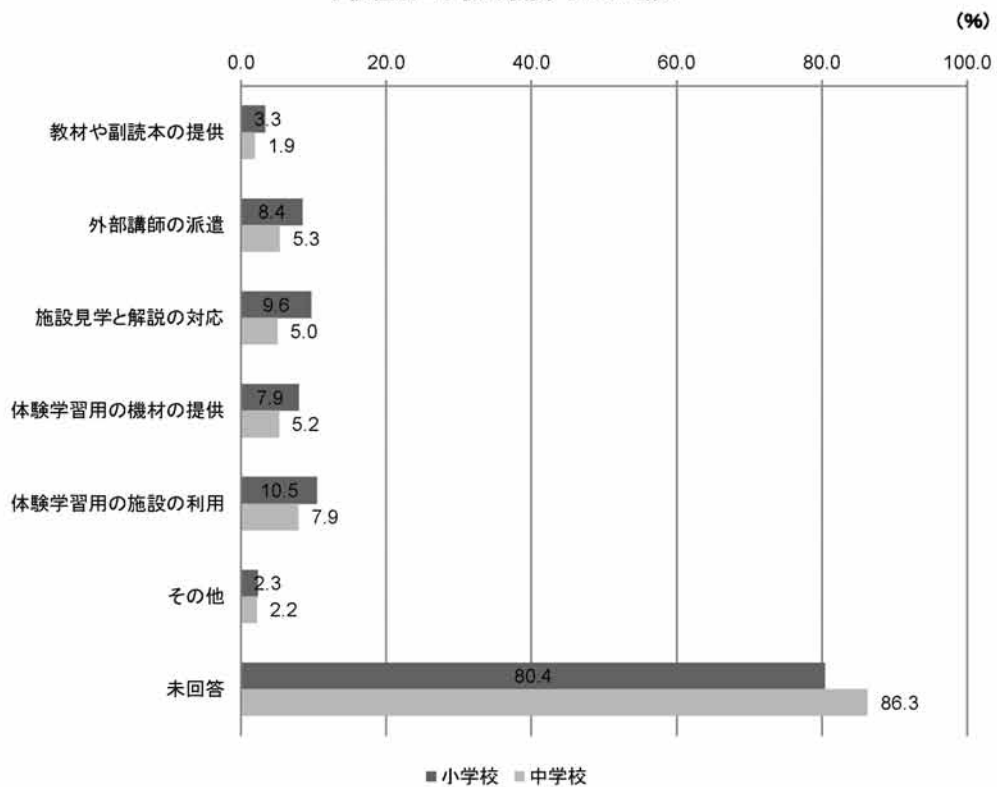
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 26：学校種別の海洋教育における学校外機関・個人の役割（全サンプル）

種別	質問3-5：学校外機関・個人の役割							学校数
	読本や副読本の提供	外部講師の派遣	施設見学と解説の対応	体験学習用の機材の提供	体験学習用の施設の利用	その他	未回答	
小学校	140 3.3	355 8.4	405 9.6	333 7.9	441 10.5	98 2.3	3,380 80.4	4,203
中学校	47 1.9	133 5.3	125 5.0	130 5.2	197 7.9	55 2.2	2,149 86.3	2,490
計	187 2.8	488 7.3	530 7.9	463 6.9	638 9.5	153 2.3	5,529 82.6	6,693

※下段の数字は%

学校種別と学校外機関・個人の協力



(8) 学校外機関に期待するサポート

■質問4：学校外機関からどのようなサポートを受けることができれば、あなたの学校の海に関する学習がさらに充実する、あるいは、あなたの学校でも海に関する学習に取り組めるようになると思いますか？ご自身のお考えに近い選択肢を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

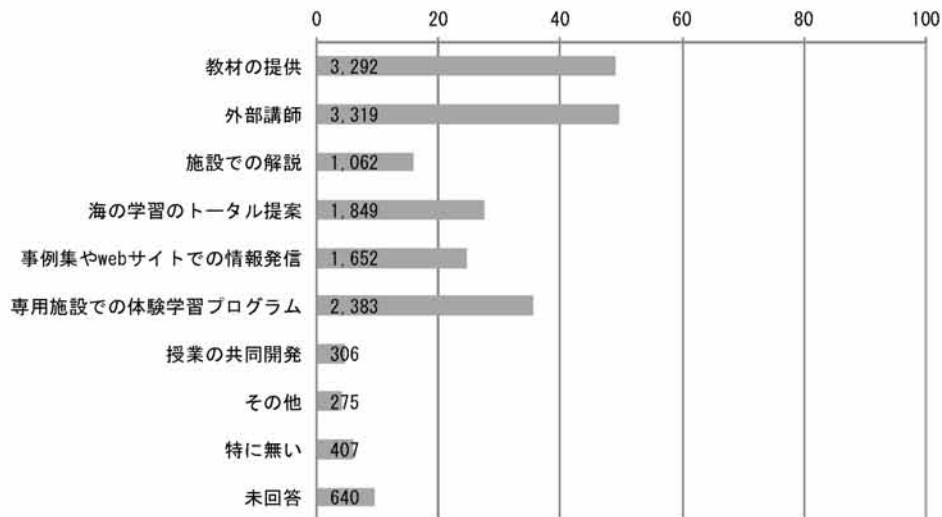
- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 教材の提供 | 6. 専用施設での体験学習プログラムの提供 |
| 2. 外部講師 | 7. 授業の共同開発 |
| 3. 施設での解説 | 8. その他→ |
| 4. 海の学習のトータルな提案 | 9. 特に無い |
| 5. 海に関する学習を集めた事例集やwebサイトでの情報発信 | |

学校外機関に期待するサポートを質問したところ、外部講師と回答した学校が49.5%で最も多く、次いで教材の提供が49.1%であった。授業の共同開発が4.6%で最も低かった。(複数回答可であるため、回答率の合計は100%とはならない)。

図表 27：学校外機関に期待するサポート

質問4：学校外機関に必要なサポート	度数(校)	割合(%) n=6,706
1 教材の提供	3,292	49.1
2 外部講師	3,319	49.5
3 施設での解説	1,062	15.8
4 海の学習のトータル提案	1,849	27.6
5 事例集やwebサイトでの情報発信	1,652	24.6
6 専用施設での体験学習プログラム	2,383	35.5
7 授業の共同開発	306	4.6
8 その他	275	4.1
9 特に無い	407	6.1
未回答	640	9.5

質問4：海の学習を広めるために学校外機関に必要なサポート (n=6,706) (%)



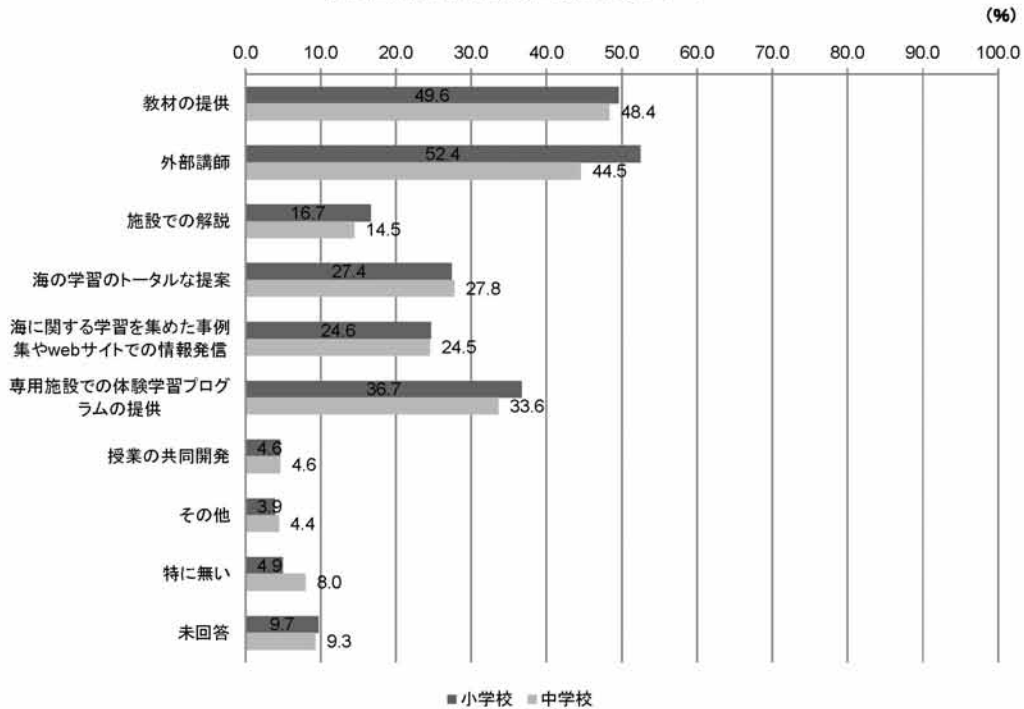
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 28：学校種別の学校外機関に期待するサポート

種別	質問4：学校外機関に期待するサポート										学校数
	教材の提供	外部講師	施設での解説	海の学習のトータルな提案	海に関する学習を集めた事例集やwebサイトでの情報発信	専用施設での体験学習プログラムの提供	授業の共同開発	その他	特に無い	未回答	
小学校	2,083 49.6	2,204 52.4	700 16.7	1,153 27.4	1,035 24.6	1,543 36.7	192 4.6	165 3.9	208 4.9	409 9.7	4,203
中学校	1,204 48.4	1,109 44.5	360 14.5	691 27.8	611 24.5	836 33.6	114 4.6	110 4.4	198 8.0	231 9.3	2,490
計	3,287 49.1	3,313 49.5	1,060 15.8	1,844 27.6	1,646 24.6	2,379 35.5	306 4.6	275 4.1	406 6.1	640 9.6	6,693

※下段の数字は%

学校種別と学校外機関に期待するサポート



(9) 海洋基本法の認知度

■質問5：あなたは海洋基本法についてご存知ですか？
ご自身のお考えに近い選択肢を1つ選んで、番号に○をつけて下さい。

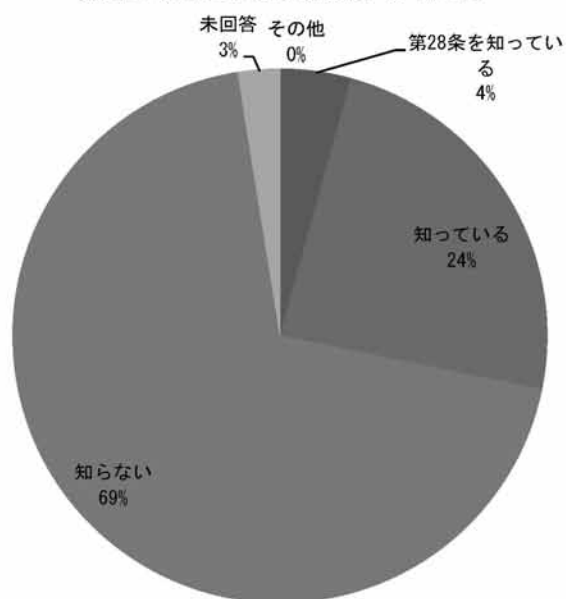
1. 海洋基本法において、「学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進」が掲げられていることを知っている。
2. 海洋基本法の存在を知っている。
3. 海洋基本法は知らない。

海洋基本法の認知度について質問したところ、69.2%が知らないと回答した。知っているのは23.9%で、第28条について知っているのは4.3%であった。

図表 29：海洋基本法の認知度

質問5：海洋基本法の認知度	度数(校)	割合(%)
1 第28条を知っている	288	4.3
2 知っている	1,605	23.9
3 知らない	4,643	69.2
未回答	170	2.5
その他	0	0.0
計	6,706	100.0

質問5：海洋基本法の認知度 (n=6,706)



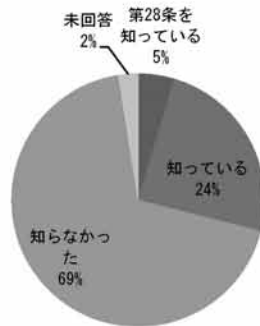
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 30：学校種別の海洋基本法の認知度

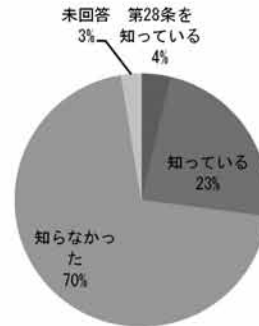
種別	質問5：海洋基本法の認知度				計
	を第 いい知 るつ 8 て条	知 つ て い	か つ ら な	未 回 答	
小学校	194 4.6	1,022 24.3	2,882 68.6	105 2.5	4,203
中学校	93 3.7	581 23.3	1,752 70.4	64 2.6	2,490
計	287 4.3	1,603 24.0	4,634 69.2	169 2.5	6,693

※下段の数字は%

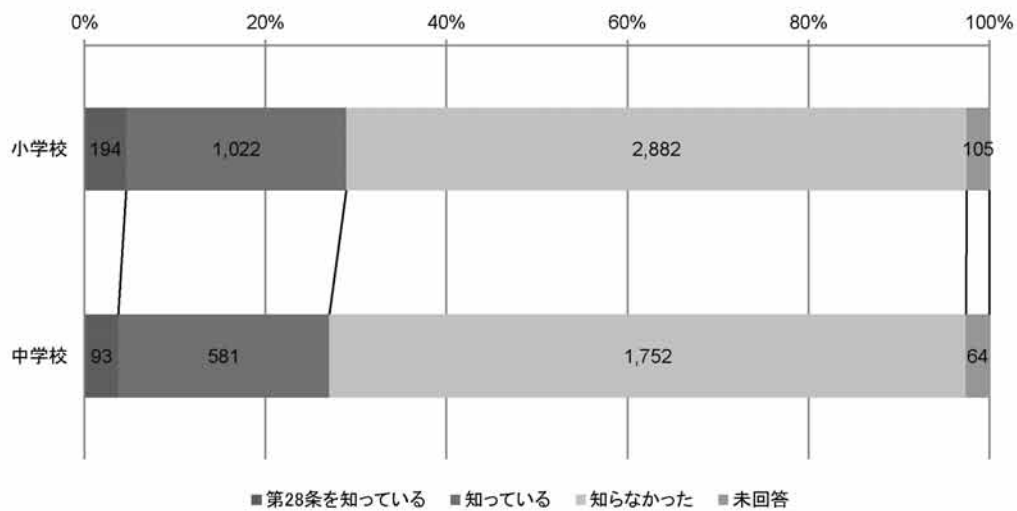
小学校(4,203校)の海洋基本法の認知度



中学校(2,490校)の海洋基本法の認知度



学校種別と海洋基本法の認知度



(10) 海に関して子どもたちが学ぶべきこと

■質問6：小中学校において、子どもたちが海に関してどのようなことをもっと学ぶべきだと思いますか？
ご自身のお考えに近い選択肢を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

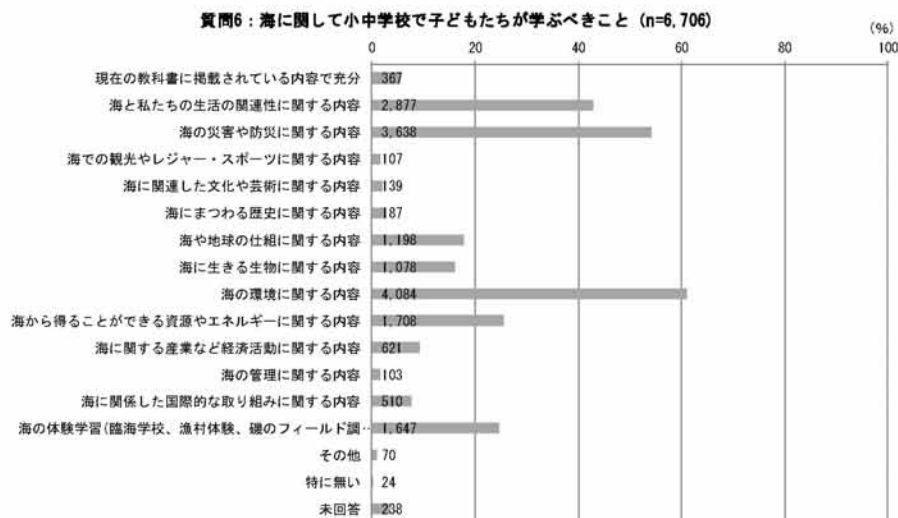
- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1. 現在の教科書に掲載されている内容で充分 | 9. 海に関する環境に関する内容 |
| 2. 海と私たちの生活の関連性に関する内容 | 10. 海から得ることができる資源やエネルギーに関する内容 |
| 3. 海の災害や防災に関する内容 | 11. 海に関する産業など経済活動に関する内容 |
| 4. 海での観光やレジャー・スポーツに関する内容 | 12. 海の管理に関する内容 |
| 5. 海に関連した文化や芸術に関する内容 | 13. 海に関連した国際的な取り組みに関する内容 |
| 6. 海にまつわる歴史に関する内容 | 14. 海の体験学習(臨海学校、漁村体験、磯のフィールド調査)など |
| 7. 海や地球の仕組みに関する内容 | 15. その他⇒ |
| 8. 海に生きる生物に関する内容 | 16. 特に無い |

海に関して子どもたちが学ぶべきことを質問したところ、60.9%が海の環境に関する内容と回答し最も多かった。次いで海の災害や防災に関する内容が54.2%、海と私たちの生活の関連性に関する内容が42.9%であった。(複数回答可であるため、回答率の合計は100%とはならない)。

図表31：海に関して子どもたちが学ぶべきこと

質問6：海に関して小中学校で子どもたちが学ぶべきこと	度数(校)	割合(%) n=6,706
1 現在の教科書に掲載されている内容で充分	367	5.5
2 海と私たちの生活の関連性に関する内容	2,877	42.9
3 海の災害や防災に関する内容	3,638	54.2
4 海での観光やレジャー・スポーツに関する内容	107	1.6
5 海に関連した文化や芸術に関する内容	139	2.1
6 海にまつわる歴史に関する内容	187	2.8
7 海や地球の仕組みに関する内容	1,198	17.9
8 海に生きる生物に関する内容	1,078	16.1
9 海に関する環境に関する内容	4,084	60.9
10 海から得ることができる資源やエネルギーに関する内容	1,708	25.5
11 海に関する産業など経済活動に関する内容	621	9.3
12 海の管理に関する内容	103	1.5
13 海に関連した国際的な取り組みに関する内容	510	7.6
14 海の体験学習(臨海学校、漁村体験、磯のフィールド調査)など	1,647	24.6
15 その他	70	1.0
16 特に無い	24	0.4
未回答	238	3.5

質問6：海に関して小中学校で子どもたちが学ぶべきこと (n=6,706)



学校種別に集計したところ、以下のようになった。

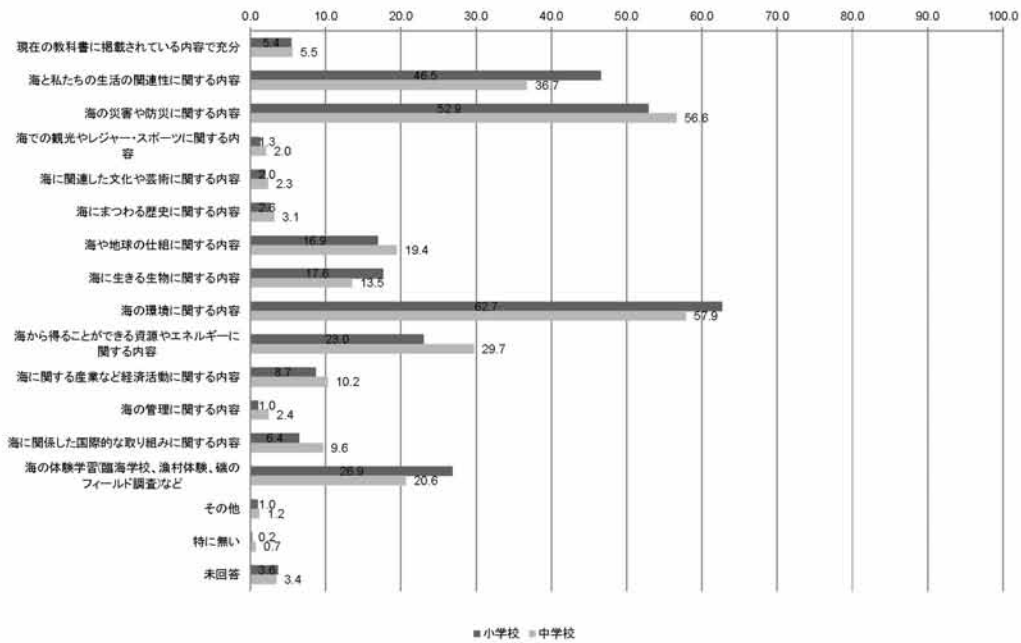
図表 32：学校種別の海に関して子どもたちが学ぶべきこと

種類	質問：海に関して学ぶべきこと																学校数	
	現在の教科書に掲載されている内容で充分	海と私たちの生活の関連性に関する内容	海の災害や防災に関する内容	海での観光やレジャー・スポーツに関する内容	海に関連した文化や芸術に関する内容	海にまつわる歴史に関する内容	海や地球の仕組みに関する内容	海に生きる生物に関する内容	海の環境に関する内容	海から得ることができる資源やエネルギーに関する内容	海に関する産業など経済活動に関する内容	海の管理に関する内容	海に関連した国際的な取り組みに関する内容	海の体験学習(海学校、漁村体験、緑のフィールド調査など)	その他	特に無い		未回答
小学校	228	1,956	2,222	65	82	109	712	740	2,634	966	305	42	270	1,129	41	7	153	4,203
中学校	138	915	1,409	51	57	78	484	336	1,441	739	255	60	240	514	29	17	85	2,490
計	366	2,871	3,631	106	139	187	1,196	1,076	4,075	1,705	620	102	510	1,643	70	24	238	6,693

※下段の数字は%

学校種別と海に関して学ぶべきこと

(%)



(11) 震災による海の学習の重要化

■質問7：あなたは、東日本大震災によって、「海」を知る事や学ぶ事がより大切だと考えるようになりましたか？当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

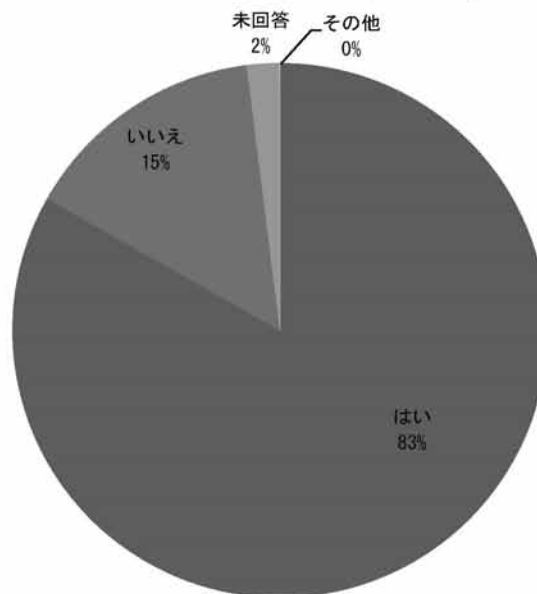
1.はい 2.いいえ

東日本大震災によって、海の学習が大切だと考えるようになったと回答したのは83.2%であった。

図表33：震災によって海の学習が大切だと考えるようになったかどうか

質問7：震災による海の学習の重要化	度数(人)	割合(%)
1 はい	5,579	83.2
2 いいえ	994	14.8
未回答	132	2.0
その他	1	0.0
計	6,706	100.0

質問7：震災による海の学習の重要化 (n=6,706)



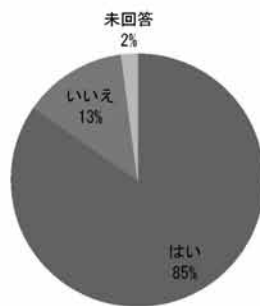
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 34：学校種別の震災によって海の学習が大切だと考えるようになったかどうか

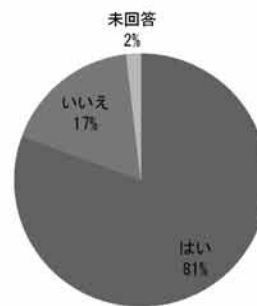
		質問7：震災による海の学習の重要化			
		はい	いいえ	未回答	計
種別	小学校	3,558 84.7	558 13.3	87 2.1	4,203
	中学校	2,008 80.6	436 17.5	46 1.8	2,490
計		5,566 83.2	994 14.9	133 2.0	6,693

※下段の数字は%

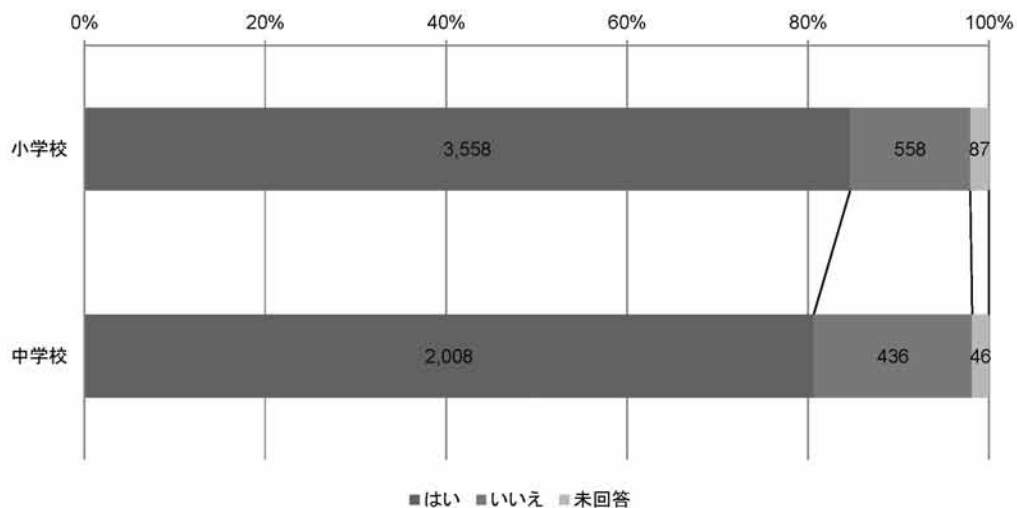
小学校(4,203校)の震災による海の学習の重要化



中学校(2,490校)の震災による海の学習の重要化



学校種別と震災による海の学習の重要化



(12) 震災によって教えるべきだと思ったこと

■質問7-2: 質問7で「1.はい」を選択した方にお聞きします。
具体的にどのようなことを教えるべきだと思ようになりましたか？

東日本大震災によって、海の学習が大切だと考えるようになったと回答した学校（質問7において「1」を選択した学校5,579校）に、具体的にどのような内容を教えるべきか質問したところ、97.1%が自由記述にて回答した。

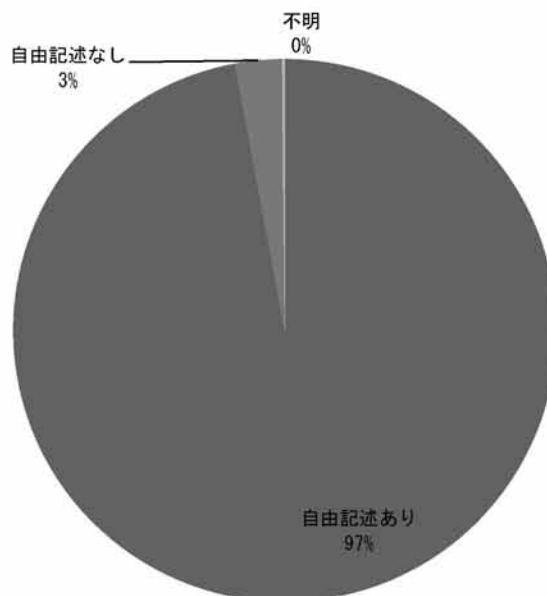
図表 35：震災によって大切だと考えるようになった学習内容の自由記述の有無

質問7-2：学習の内容	自由記述の有無	度数(人)	割合(%)
1	自由記述あり	5,415	97.1
2	自由記述なし	156	2.8
0	不明	8	0.1
計		5,579	100.0

※質問7で「1. はい」を選択した方のみ集計

質問7-2：学習の内容 自由記述の有無(n=5,579)

※質問7で「1. はい」を選択した方のみ集計



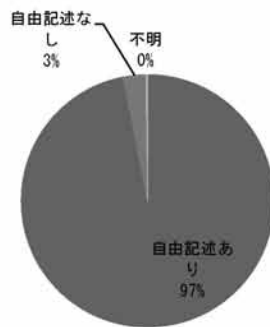
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 36：学校種別の震災によって大切だと考えるようになった学習内容の自由記述の有無

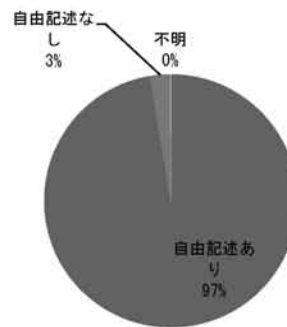
種別	質問7-2：学習の内容 自由記述の有無			計
	自由記述あり	自由記述なし	不明	
小学校	3,447 96.9	104 2.9	7 0.2	3,558
中学校	1,955 97.4	52 2.6	1 0.0	2,008
計	5,402 97.1	156 2.8	8 0.1	5,566

※質問7で1と回答した学校のみ集計
※下段の数字は%

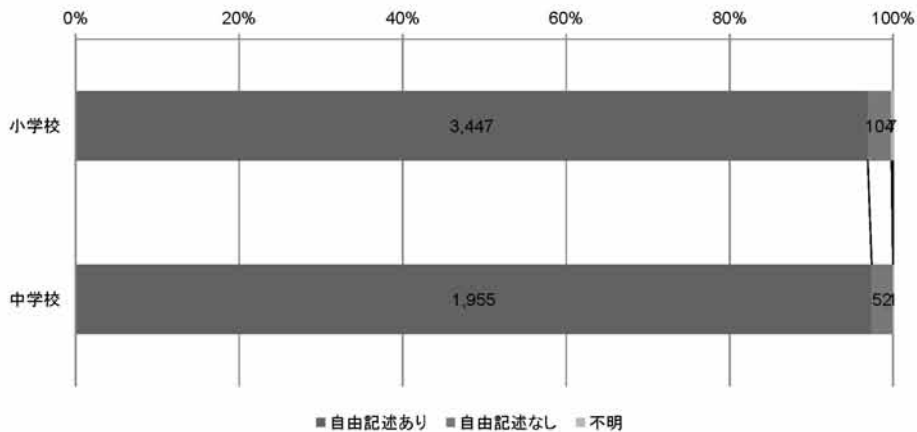
質問7で1と回答した小学校(3,558校)の学習の内容の自由記述の有無



質問7で1と回答した中学校(2,008校)の学習の内容の自由記述の有無



学校種別と学習の内容の自由記述の有無
(質問7で1と回答した小学校3,558校・中学校2,008校)



3) 集計結果 (クロス)

(1) 学校のロケーションと海洋教育の認知度

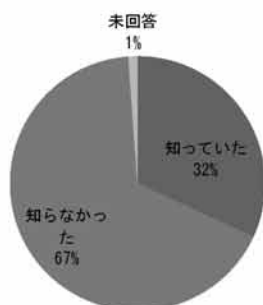
学校のロケーションと海洋教育の認知度の関係を見るため、質問1と質問2のクロス集計を行ったところ、以下の通りであった。認知度は、徒歩 15 分程度の場合の 31.9%、徒歩 30～1 時間程度の場合 30.3%、電車やバスの場合 28.2%であった。

図表 37：ロケーション別の海洋教育の認知度

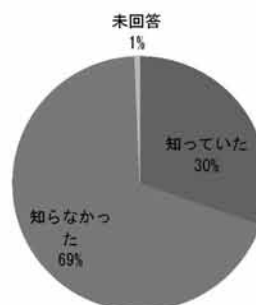
	質問2：海洋教育の認知度			計
	1 知っていた	2 知らなかった	0 未回答	
質問1 1 徒歩15分程度	278 31.9	584 67.0	10 1.1	872
2 徒歩30～1時間程度	319 30.3	727 69.0	7 0.7	1,053
3 電車やバス	1,310 28.2	3,306 71.2	26 0.6	4,642
0 未回答	51 36.7	56 40.3	32 23.0	139
計	1,958 29.2	4,673 69.7	75 1.1	6,706

※下段の数字は%

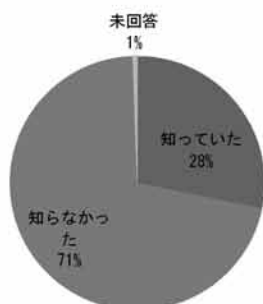
徒歩15分程度で海に行ける学校の回答者(872人)の「海洋教育」認知度



徒歩30分～1時間程度で海に行ける学校の回答者(1,053人)の「海洋教育」認知度



電車やバスを使わないと海に行けない学校の回答者(4,642人)の「海洋教育」認知度



学校から海に行くのに必要な時間と、海洋教育という言葉を知っているかどうかの関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、有意水準 5%において、学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差があった。徒歩 15 分程度で行ける場合、認知度が高く、電車やバスを使わないと行けない場合、認知度が低かった。

図表 38 : ロケーション別の海洋教育の認知度の χ^2 乗検定

χ^2 乗検定		χ^2 乗検定																																				
帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない	帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない																																			
対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある	対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある																																			
有意水準:	5 %	有意水準:	5 %																																			
実測値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>278</td> <td>584</td> <td>862</td> </tr> <tr> <td>徒歩30～1時間程度</td> <td>319</td> <td>72</td> <td>1,046</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>1,310</td> <td>3,206</td> <td>4,616</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,907</td> <td>4,012</td> <td>6,524</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	計	徒歩15分程度	278	584	862	徒歩30～1時間程度	319	72	1,046	電車やバス	1,310	3,206	4,616	計	1,907	4,012	6,524	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>278</td> <td>584</td> <td>862</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>1,310</td> <td>3,206</td> <td>4,616</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,588</td> <td>3,890</td> <td>5,478</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	計	徒歩15分程度	278	584	862	電車やバス	1,310	3,206	4,616	計	1,588	3,890	5,478
	知っていた	知らなかった	計																																			
徒歩15分程度	278	584	862																																			
徒歩30～1時間程度	319	72	1,046																																			
電車やバス	1,310	3,206	4,616																																			
計	1,907	4,012	6,524																																			
	知っていた	知らなかった	計																																			
徒歩15分程度	278	584	862																																			
電車やバス	1,310	3,206	4,616																																			
計	1,588	3,890	5,478																																			
期待値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>252.0</td> <td>610.0</td> </tr> <tr> <td>徒歩30～1時間程度</td> <td>305.8</td> <td>740.2</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>1349.3</td> <td>3266.7</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	252.0	610.0	徒歩30～1時間程度	305.8	740.2	電車やバス	1349.3	3266.7	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>249.9</td> <td>612.1</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>1338.1</td> <td>3277.9</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	249.9	612.1	電車やバス	1338.1	3277.9															
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	252.0	610.0																																				
徒歩30～1時間程度	305.8	740.2																																				
電車やバス	1349.3	3266.7																																				
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	249.9	612.1																																				
電車やバス	1338.1	3277.9																																				
統計量:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>2.689662715</td> <td>1.119934979</td> </tr> <tr> <td>徒歩30～1時間程度</td> <td>0.57408063</td> <td>0.237117597</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>1.143594007</td> <td>0.473489923</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	2.689662715	1.119934979	徒歩30～1時間程度	0.57408063	0.237117597	電車やバス	1.143594007	0.473489923	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>3.163876777</td> <td>1.291577461</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>0.590827942</td> <td>0.241191453</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	3.163876777	1.291577461	電車やバス	0.590827942	0.241191453															
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	2.689662715	1.119934979																																				
徒歩30～1時間程度	0.57408063	0.237117597																																				
電車やバス	1.143594007	0.473489923																																				
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	3.163876777	1.291577461																																				
電車やバス	0.590827942	0.241191453																																				
χ^2 乗:	6.22773855	5.287473638																																				
自由度:	2	1																																				
p値:	0.044428715	0.021479361																																				
結果:	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却																																				
標準化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.6</td> <td>-1.1</td> </tr> <tr> <td>徒歩30～1時間程度</td> <td>0.8</td> <td>-0.5</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-1.1</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.6	-1.1	徒歩30～1時間程度	0.8	-0.5	電車やバス	-1.1	0.7	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.8</td> <td>-1.1</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-0.8</td> <td>0.5</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.8	-1.1	電車やバス	-0.8	0.5															
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	1.6	-1.1																																				
徒歩30～1時間程度	0.8	-0.5																																				
電車やバス	-1.1	0.7																																				
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	1.8	-1.1																																				
電車やバス	-0.8	0.5																																				
調整化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>2.1</td> <td>-2.1</td> </tr> <tr> <td>徒歩30～1時間程度</td> <td>1.0</td> <td>-1.0</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-2.4</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	2.1	-2.1	徒歩30～1時間程度	1.0	-1.0	電車やバス	-2.4	2.4	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>2.2</td> <td>-1.9</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-2.2</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>		知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	2.2	-1.9	電車やバス	-2.2	1.9															
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	2.1	-2.1																																				
徒歩30～1時間程度	1.0	-1.0																																				
電車やバス	-2.4	2.4																																				
	知っていた	知らなかった																																				
徒歩15分程度	2.2	-1.9																																				
電車やバス	-2.2	1.9																																				

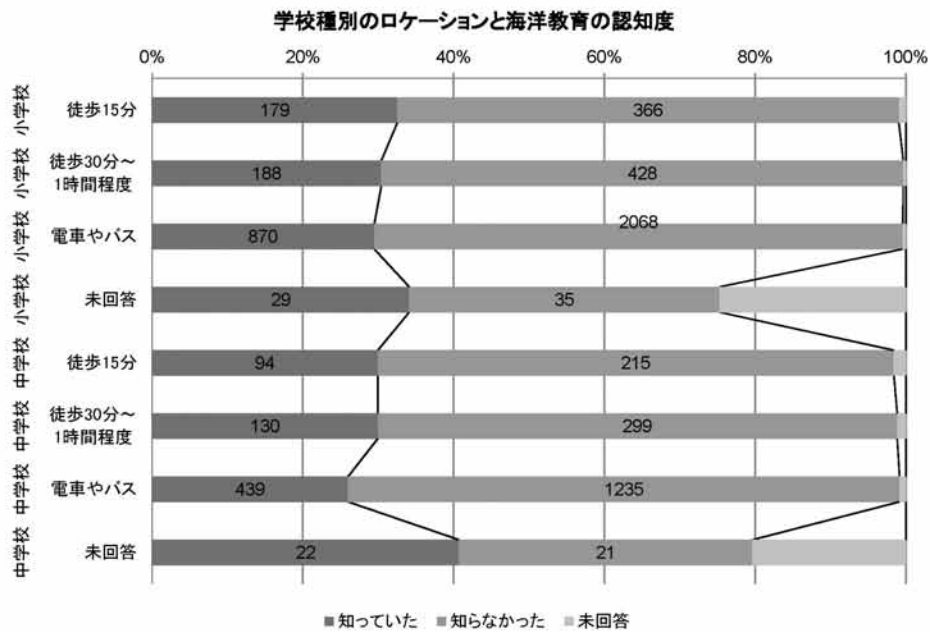
※2以上もしくは-2以下は特効的

学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 39：学校種別のロケーション別の海洋教育の認知度

		質問2：海洋教育の認知度			計
		知っていた	知らなかった	未回答	
質問1：ロケーション 小学校	徒歩15分	179 32.5	366 66.5	5 0.9	550
	徒歩30分～1時間程度	188 30.4	428 69.3	2 0.3	618
	電車やバス	870 29.5	2,068 70.1	12 0.4	2,950
	未回答	29 34.1	35 41.2	21 24.7	85
	小計	1,266 30.1	2,897 68.9	40 1.0	4,203
中学校	徒歩15分	94 29.9	215 68.5	5 1.6	314
	徒歩30分～1時間程度	130 30.0	299 68.9	5 1.2	434
	電車やバス	439 26.0	1,235 73.2	14 0.8	1,688
	未回答	22 40.7	21 38.9	11 20.4	54
	小計	685 27.5	1,770 71.1	35 1.4	2,490
合計		1,951 29.1	4,667 69.7	75 1.1	6,693

※下段の数字は%



学校から海に行くのに必要な時間と、海洋教育という言葉を知っているかどうかの関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、小学校の場合も中学校の場合も、有意水準5%において、学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がなかった。

図表 40 : 小学校のロケーション別の海洋教育の認知度

χ^2 乗検定				χ^2 乗検定																																							
帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない			帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない																																						
対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある			対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある																																						
有意水準:	5 %			有意水準:	5 %																																						
実測値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>179</td> <td>369</td> <td>548</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>188</td> <td>428</td> <td>616</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>870</td> <td>2,068</td> <td>2,938</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,237</td> <td>2,865</td> <td>4,099</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	計	徒歩15分程度	179	369	548	徒歩30分～1時間程度	188	428	616	電車やバス	870	2,068	2,938	計	1,237	2,865	4,099	実測値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>179</td> <td>369</td> <td>548</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>870</td> <td>2,068</td> <td>2,938</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,049</td> <td>2,434</td> <td>3,483</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	計	徒歩15分程度	179	369	548	徒歩30分～1時間程度	870	2,068	2,938	計	1,049	2,434	3,483
	知っていた	知らなかった	計																																								
徒歩15分程度	179	369	548																																								
徒歩30分～1時間程度	188	428	616																																								
電車やバス	870	2,068	2,938																																								
計	1,237	2,865	4,099																																								
	知っていた	知らなかった	計																																								
徒歩15分程度	179	369	548																																								
徒歩30分～1時間程度	870	2,068	2,938																																								
計	1,049	2,434	3,483																																								
期待値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>164.6</td> <td>390.5</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>185.9</td> <td>430.1</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>886.6</td> <td>2051.4</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	164.6	390.5	徒歩30分～1時間程度	185.9	430.1	電車やバス	886.6	2051.4	期待値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>164.1</td> <td>380.9</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>884.9</td> <td>2053.1</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	164.1	380.9	電車やバス	884.9	2053.1															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	164.6	390.5																																									
徒歩30分～1時間程度	185.9	430.1																																									
電車やバス	886.6	2051.4																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	164.1	380.9																																									
電車やバス	884.9	2053.1																																									
統計量:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.283532655</td> <td>0.554762307</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>0.023789549</td> <td>0.010282205</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>0.312006487</td> <td>0.124853957</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.283532655	0.554762307	徒歩30分～1時間程度	0.023789549	0.010282205	電車やバス	0.312006487	0.124853957	統計量:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.345020214</td> <td>0.579673872</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>0.249591708</td> <td>0.107629701</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.345020214	0.579673872	電車やバス	0.249591708	0.107629701															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.283532655	0.554762307																																									
徒歩30分～1時間程度	0.023789549	0.010282205																																									
電車やバス	0.312006487	0.124853957																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.345020214	0.579673872																																									
電車やバス	0.249591708	0.107629701																																									
χ^2 乗:	2.31922722			χ^2 乗:	2.281725494																																						
自由度:	2			自由度:	1																																						
p値:	0.313897332			p値:	0.130906163																																						
結果:	帰無仮説を棄却できない			結果:	帰無仮説を棄却できない																																						
標準化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.1</td> <td>-0.7</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>0.2</td> <td>-0.1</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-0.6</td> <td>0.4</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.1	-0.7	徒歩30分～1時間程度	0.2	-0.1	電車やバス	-0.6	0.4	標準化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.2</td> <td>-0.8</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-0.5</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.2	-0.8	電車やバス	-0.5	0.3															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.1	-0.7																																									
徒歩30分～1時間程度	0.2	-0.1																																									
電車やバス	-0.6	0.4																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.2	-0.8																																									
電車やバス	-0.5	0.3																																									
調整化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.6</td> <td>-1.5</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>0.2</td> <td>-0.2</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-1.3</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.6	-1.5	徒歩30分～1時間程度	0.2	-0.2	電車やバス	-1.3	1.9	調整化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分程度</td> <td>1.5</td> <td>-1.3</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-1.5</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分程度	1.5	-1.3	電車やバス	-1.5	1.3															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.6	-1.5																																									
徒歩30分～1時間程度	0.2	-0.2																																									
電車やバス	-1.3	1.9																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分程度	1.5	-1.3																																									
電車やバス	-1.5	1.3																																									
※2以上もしくは-2以下は特徴的				※2以上もしくは-2以下は特徴的																																							

図表 41 : 中学校のロケーション別の海洋教育の認知度

χ^2 乗検定				χ^2 乗検定																																							
帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない			帰無仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差はない																																						
対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある			対立仮説:	学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育という言葉の認知度に差がある																																						
有意水準:	5 %			有意水準:	5 %																																						
実測値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>94</td> <td>215</td> <td>309</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>120</td> <td>299</td> <td>419</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>479</td> <td>1,235</td> <td>1,674</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>693</td> <td>1,749</td> <td>2,417</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	計	徒歩15分	94	215	309	徒歩30分～1時間程度	120	299	419	電車やバス	479	1,235	1,674	計	693	1,749	2,417	実測値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>94</td> <td>215</td> <td>309</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>439</td> <td>1,235</td> <td>1,674</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>533</td> <td>1,450</td> <td>1,983</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	計	徒歩15分	94	215	309	徒歩30分～1時間程度	439	1,235	1,674	計	533	1,450	1,983
	知っていた	知らなかった	計																																								
徒歩15分	94	215	309																																								
徒歩30分～1時間程度	120	299	419																																								
電車やバス	479	1,235	1,674																																								
計	693	1,749	2,417																																								
	知っていた	知らなかった	計																																								
徒歩15分	94	215	309																																								
徒歩30分～1時間程度	439	1,235	1,674																																								
計	533	1,450	1,983																																								
期待値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>84.9</td> <td>224.1</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>117.9</td> <td>311.1</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>460.1</td> <td>1213.9</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	84.9	224.1	徒歩30分～1時間程度	117.9	311.1	電車やバス	460.1	1213.9	期待値:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>83.1</td> <td>225.9</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>449.9</td> <td>1224.1</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	83.1	225.9	徒歩30分～1時間程度	449.9	1224.1															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	84.9	224.1																																									
徒歩30分～1時間程度	117.9	311.1																																									
電車やバス	460.1	1213.9																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	83.1	225.9																																									
徒歩30分～1時間程度	449.9	1224.1																																									
統計量:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>0.997143099</td> <td>0.369618597</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>1.237149812</td> <td>0.468971027</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>0.971386076</td> <td>0.360226969</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	0.997143099	0.369618597	徒歩30分～1時間程度	1.237149812	0.468971027	電車やバス	0.971386076	0.360226969	統計量:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>1.442484675</td> <td>0.530237433</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>0.266265074</td> <td>0.097876369</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	1.442484675	0.530237433	徒歩30分～1時間程度	0.266265074	0.097876369															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	0.997143099	0.369618597																																									
徒歩30分～1時間程度	1.237149812	0.468971027																																									
電車やバス	0.971386076	0.360226969																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	1.442484675	0.530237433																																									
徒歩30分～1時間程度	0.266265074	0.097876369																																									
χ^2 乗:	4.379495949			χ^2 乗:	2.33686245																																						
自由度:	2			自由度:	1																																						
p値:	0.11194498			p値:	0.1263438																																						
結果:	帰無仮説を棄却できない			結果:	帰無仮説を棄却できない																																						
標準化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>1.0</td> <td>-0.6</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>1.1</td> <td>-0.7</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	1.0	-0.6	徒歩30分～1時間程度	1.1	-0.7	電車やバス	-1.0	0.6	標準化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>1.2</td> <td>-0.7</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>-0.5</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	1.2	-0.7	徒歩30分～1時間程度	-0.5	0.3															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	1.0	-0.6																																									
徒歩30分～1時間程度	1.1	-0.7																																									
電車やバス	-1.0	0.6																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	1.2	-0.7																																									
徒歩30分～1時間程度	-0.5	0.3																																									
調整化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>1.2</td> <td>-1.2</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>1.4</td> <td>-1.4</td> </tr> <tr> <td>電車やバス</td> <td>-2.1</td> <td>2.1</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	1.2	-1.2	徒歩30分～1時間程度	1.4	-1.4	電車やバス	-2.1	2.1	調整化残差:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知っていた</th> <th>知らなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩15分</td> <td>1.5</td> <td>-1.3</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分～1時間程度</td> <td>-1.5</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>				知っていた	知らなかった	徒歩15分	1.5	-1.3	徒歩30分～1時間程度	-1.5	1.3															
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	1.2	-1.2																																									
徒歩30分～1時間程度	1.4	-1.4																																									
電車やバス	-2.1	2.1																																									
	知っていた	知らなかった																																									
徒歩15分	1.5	-1.3																																									
徒歩30分～1時間程度	-1.5	1.3																																									
※2以上もしくは-2以下は特徴的				※2以上もしくは-2以下は特徴的																																							

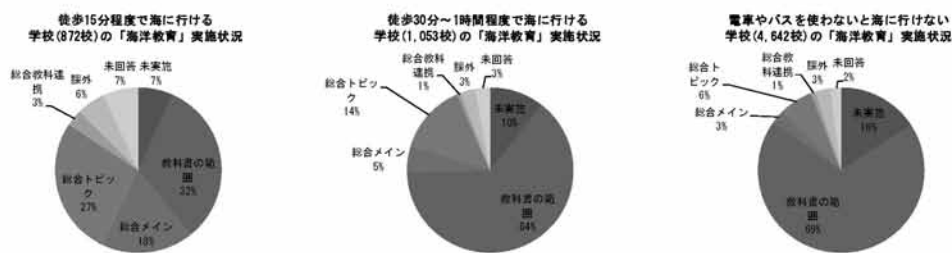
(2) 学校のロケーションと海洋教育の実施状況

学校のロケーションと海洋教育の実施状況の関係を見るため、質問1と質問3のクロス集計を行ったところ、以下の通りであった。未実施と回答した学校は、徒歩15分程度の場合6.8%、電車やバスの場合16.8%であった。教科書以外で海洋教育を実施していると回答（「3」～「6」と回答）した学校は、徒歩15分程度の場合54%、電車やバスの場合13.1%であった。

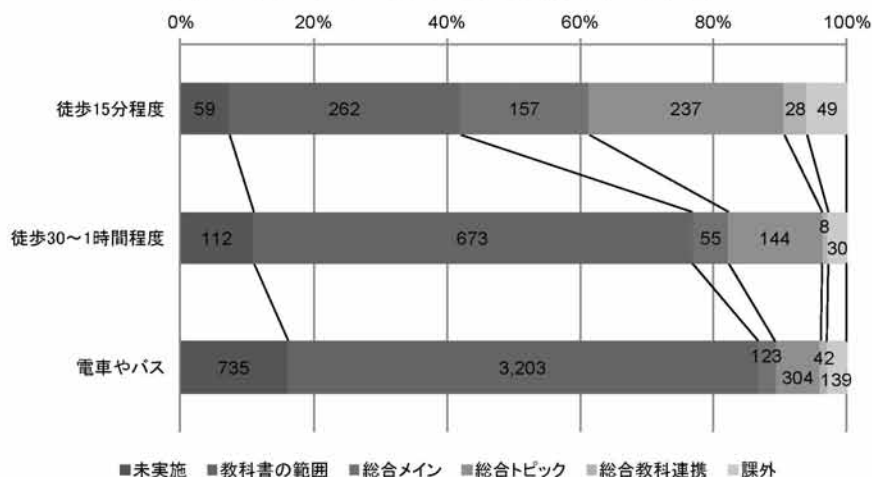
図表42：ロケーション別の海洋教育の実施状況

	質問3：海洋教育の実施状況							3～6 教科書以外 で実施	計	
	1 未実施	2 教科書 の範囲	3 総合 メイン	4 総合ト ピック	5 総合教科 連携	6 課外	0 未回答			
質問1	1 徒歩15分程度	59 6.8	282 32.3	157 18.0	237 27.2	28 3.2	49 5.6	60 6.9	471 54.0	872
	2 徒歩30～ 1時間程度	112 10.6	673 63.0	55 5.2	144 13.7	8 0.8	30 2.8	31 2.9	237 22.6	1,053
	3 電車やバス	735 15.8	3,203 69.0	123 2.6	304 6.5	42 0.9	139 3.0	96 2.1	608 13.1	4,642
	0 未回答	16 11.5	55 39.6	5 3.6	10 7.2	0 0.0	3 2.2	50 36.0	18 12.9	139
計	922 13.7	4,213 62.8	340 5.1	695 10.4	78 1.2	221 3.3	237 3.5	1,334 19.9	6,706	

※下段の数字は%



学校から海まで行くのに必要な時間と、海洋教育の実施状況



学校から海に行くのに必要な時間と、海洋教育の実施状況の関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、有意水準 5%において、学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差があった。

徒歩 15 分程度の場合は、「未実施」が少なく、「教科書の範囲」が非常に少なかった。また、「総合教科連携」「課外」が多く、「総合メイン」「総合トピック」が多かった。

徒歩 30 分～1 時間の場合は、「未実施」が少なく、「総合トピック」が多かった。

電車やバスでないと行けない場合は、「総合教科連携」「課外」が少なく、「総合メイン」「総合トピック」が非常に少なかった。また、「未実施」が多く、「教科書の範囲」が非常に多かった。

図表 43：ロケーション別の海洋教育の実施状況の χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差はない

対立仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差がある

有意水準： 5 %

実測値：	未実施	教科書の範囲	総合メイン	総合トピック	総合教科連携	課外	計
徒歩15分程度	59	282	157	237	28	49	812
徒歩30～1時間程度	112	673	55	144	8	30	1,022
電車やバス	735	3,203	123	304	42	139	4,546
計	906	4,158	335	685	78	218	6,380

期待値：	未実施	教科書の範囲	総合メイン	総合トピック	総合教科連携	課外
徒歩15分程度	115.3	529.2	42.6	87.2	9.9	27.7
徒歩30～1時間程度	145.1	666.1	53.7	109.7	12.5	34.9
電車やバス	645.6	2962.7	238.7	488.1	55.6	155.3

統計量：	未実施	教科書の範囲	総合メイン	総合トピック	総合教科連携	課外
徒歩15分程度	27.49751727	115.4721088	306.7578988	257.4560622	32.9016317	16.28215179
徒歩30～1時間程度	7.563018126	0.07226787	0.033310541	10.7037712	1.616854599	0.693458655
電車やバス	12.39143947	19.48395812	56.08127322	69.43172659	3.317201575	1.717495144

χ^2 乗： 939.4731457

自由度： 10

p値： 2.0273E-195

結果： 帰無仮説を棄却

標準化残差：	未実施	教科書の範囲	総合メイン	総合トピック	総合教科連携	課外
徒歩15分程度	-5.2	-10.7	17.5	16.0	5.7	4.0
徒歩30～1時間程度	-2.8	0.3	0.2	3.3	-1.3	-0.8
電車やバス	3.5	4.4	-7.5	-8.3	-1.8	-1.3

調整化残差：	未実施	教科書の範囲	総合メイン	総合トピック	総合教科連携	課外
徒歩15分程度	-6.1	-19.5	19.3	18.2	6.2	4.4
徒歩30～1時間程度	-3.2	0.5	0.2	3.8	-1.4	-0.9
電車やバス	7.1	14.0	-14.3	-16.4	-3.4	-2.5

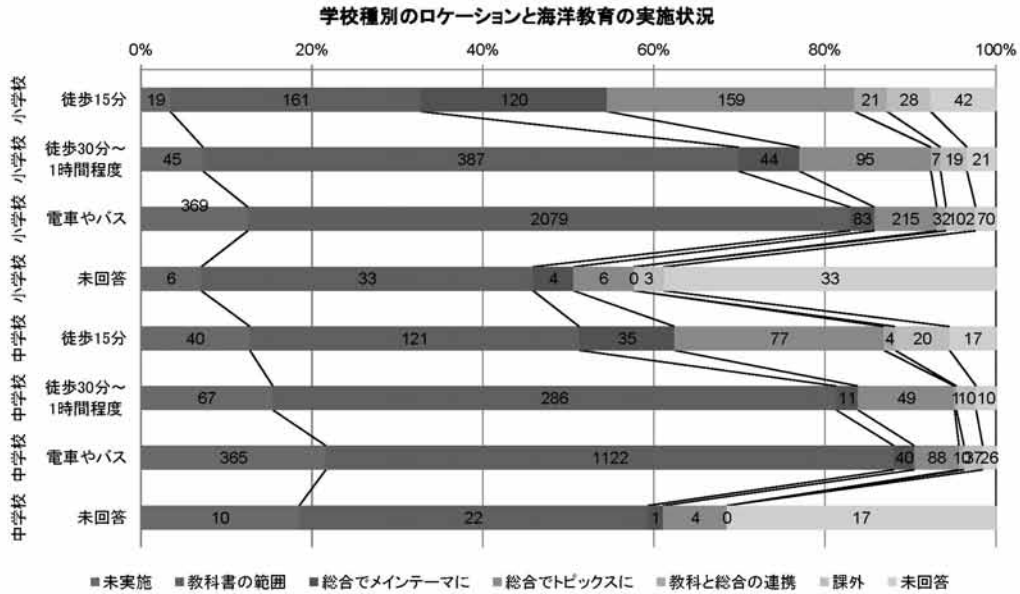
※2以上もしくは-2以下は特徴的

学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 44：学校種別のロケーション別の海洋教育の実施状況

		質問3：海洋教育の実施状況							未回答	計
		未実施	教科書の範囲	総合でメインテーマに	総合でトピックスに	教科と総合の連携	計5の総合の合計	課外		
小学校	徒歩15分	19	161	120	159	21	300	28	42	550
	徒歩30分～1時間程度	45	387	44	95	7	146	19	21	618
	電車やバス	369	2,079	83	215	32	330	102	70	2,950
	未回答	6	33	4	6	0	10	3	33	85
	小計	439	2,660	251	475	60	786	152	166	4,203
中学校	徒歩15分	40	121	35	77	4	116	20	17	314
	徒歩30分～1時間程度	67	286	11	49	1	61	10	10	434
	電車やバス	365	1,122	40	88	10	138	37	26	1,688
	未回答	10	22	1	4	0	5	0	17	54
	小計	482	1,551	87	218	15	320	67	70	2,490
合計		921	4,211	338	693	75	1,106	219	236	6,693

※下段の数字は%



学校から海に行くのに必要な時間と、海洋教育の実施状況の関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、小学校の場合、有意水準 5%において、学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差があった。

徒歩 15 分程度の場合は、「未実施」が少なく、「教科書の範囲」が非常に少なかった。また、「総合教科連携」「課外」が多く、「総合メイン」「総合トピック」が非常に多かった。

徒歩 30 分～1 時間の場合は、「未実施」が少なく、「総合トピック」が多かった。

電車やバスでないと行けない場合は、「総合教科連携」が少なく、「総合メイン」「総合トピック」が非常に少なかった。また、「未実施」が多く、「教科書の範囲」が非常に多かった。

図表 45：小学校のロケーション別の海洋教育の実施状況の χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差はない

対立仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差がある

有意水準： 5 %

実測値：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連携	課外	計
徒歩15分	19	161	120	159	21	28	508
徒歩30分～1時間程度	45	387	44	95	7	19	597
電車やバス	369	2,079	83	215	32	102	2,880
計	433	2,627	247	469	60	149	3,985

期待値：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連携	課外
徒歩15分	55.2	334.9	31.5	59.8	7.6	19.0
徒歩30分～1時間程度	64.9	393.6	37.0	70.3	9.0	22.3
電車やバス	312.9	1898.6	178.5	339.0	43.4	107.7

統計量：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連携	課外
徒歩15分	23.7380854	90.28755059	248.817562	164.6368948	23.30567075	4.269924599
徒歩30分～1時間程度	6.085504127	0.109198487	1.322869741	8.710031986	0.439991852	0.494374234
電車やバス	10.04511293	17.14917905	51.10121331	45.32768416	2.977424602	0.300005579

χ^2 乗： 699.1182782

自由度： 10

p値： 9.7107E-144

結果： 帰無仮説を棄却

標準化残差：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連携	課外
徒歩15分	-4.9	-9.5	15.8	12.8	4.8	2.1
徒歩30分～1時間程度	-2.5	-0.3	1.2	3.0	-0.7	-0.7
電車やバス	3.2	4.1	-7.1	-6.7	-1.7	-0.5

調整化残差：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連携	課外
徒歩15分	-5.5	-17.4	17.4	14.6	5.2	2.3
徒歩30分～1時間程度	-2.8	-0.6	1.3	3.4	-0.7	-0.8
電車やバス	6.4	13.5	-14.0	-13.6	-3.3	-1.1

学校から海に行くのに必要な時間と、海洋教育の実施状況の関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、中学校の場合も、有意水準 5%において、学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差があった。

徒歩 15 分程度の場合は、「未実施」が少なく、「教科書の範囲」が非常に少なかった。また、「課外」が多く、「総合メイン」「総合トピック」が非常に多かった。

徒歩 30 分～1 時間の場合は、「未実施」が少なく、「総合トピック」が多かった。

電車やバスでないと行けない場合は、「総合でメイン」「課外」が少なく、「総合トピック」が非常に少なかった。また、「未実施」「教科書の範囲」が多かった。

図表 46：中学校のロケーション別の海洋教育の実施状況の χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差はない
対立仮説： 学校から海まで行くのに必要な時間によって、海洋教育の実施状況に差がある

有意水準： 5 %

実測値：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連	課外	計
徒歩15分	40	121	35	77	4	20	297
徒歩30分～1時間程度	67	286	11	49	1	10	424
電車やバス	365	1,122	40	88	10	37	1,662
計	472	1,529	86	214	15	67	2,383

期待値：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連	課外
徒歩15分	58.8	190.6	10.7	26.7	1.9	8.4
徒歩30分～1時間程度	84.0	272.1	15.3	38.1	2.7	11.9
電車やバス	329.2	1066.4	60.0	149.3	10.5	46.7

統計量：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連	課外
徒歩15分	6.02522811	25.39357799	55.00763209	94.96927651	2.427965862	16.25230328
徒歩30分～1時間程度	3.433761455	0.715281357	1.209328024	3.133848749	1.043590277	0.309589965
電車やバス	3.895082045	2.900365569	6.655479297	25.13753437	0.020367562	2.025393472

χ^2 乗： 250.555606

自由度： 10

p値： 4.14766E-48

結果： 帰無仮説を棄却

標準化残差：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連	課外
徒歩15分	-2.5	-5.0	7.4	9.7	1.6	4.0
徒歩30分～1時間程度	-1.9	0.8	-1.1	1.8	-1.0	-0.6
電車やバス	2.0	1.7	-2.6	-5.0	-0.1	-1.4

調整化残差：	未実施	教科書の範囲	総合でメイン	総合でトピック	教科と総合の連	課外
徒歩15分	-2.9	-9.0	8.1	10.9	1.7	4.4
徒歩30分～1時間程度	-2.3	1.6	-1.2	2.0	-1.1	-0.6
電車やバス	4.0	5.2	-4.8	-9.6	-0.3	-2.6

※2以上もしくは-2以下は特徴的

(3) 学校のロケーションと学校外機関に期待するサポート

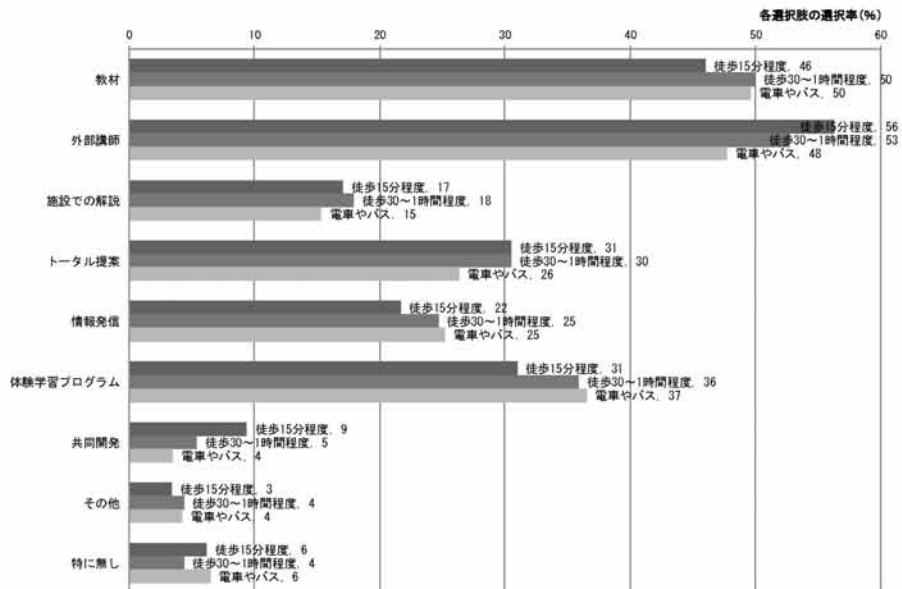
学校のロケーションと学校外機関に期待するサポートの関係を見るため、質問1と質問4のクロス集計を行った。外部講師や共同開発が有効と回答した学校は、徒歩15分程度の場合それぞれ58.3%、9.4%であったが、電車やバスの場合、それぞれ47.7%、3.5%と少なかった。逆に教材や情報発信、体験学習プログラムが有効と回答した学校は、徒歩15分の場合それぞれ46.0%、21.7%、31.0%であったが、電車やバスの場合、それぞれ49.6%、25.2%、36.5%と多かった。

図表 47：ロケーション別の学校外機関に期待するサポート

	質問4：有用な学校外機関サポート															
	1 教材			2 外部講師			3 施設での開催			4 トータル提案			5 情報発信			
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	
質問1	1 徒歩15分程度	401	471	872	491	381	872	149	723	872	266	606	872	189	683	872
	2 徒歩30~1時間程度	526	527	1,053	556	498	1,053	189	864	1,053	321	732	1,053	260	793	1,053
	3 電車やバス	2,304	2,338	4,642	2,215	2,427	4,642	713	3,929	4,642	1,223	3,419	4,642	1,171	3,471	4,642
	0 未回答	61	78	139	58	81	139	11	128	139	39	100	139	32	107	139
	計	3,292	3,414	6,706	3,319	3,387	6,706	1,062	5,644	6,706	1,849	4,857	6,706	1,652	5,054	6,706
	46.0%	21.7%	100.0%	58.3%	31.0%	100.0%	15.9%	31.0%	100.0%	27.6%	25.2%	100.0%	24.4%	29.3%	100.0%	
	質問4：有用な学校外機関サポート															
	6 体験学習プログラム			7 共同開発			8 その他			9 特に無し			0 未回答			
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	
質問1	1 徒歩15分程度	270	602	872	82	790	872	30	842	872	54	818	872	65	807	872
	2 徒歩30~1時間程度	378	675	1,053	57	996	1,053	46	1,007	1,053	46	1,007	1,053	90	963	1,053
	3 電車やバス	1,695	2,947	4,642	163	4,479	4,642	197	4,445	4,642	301	4,341	4,642	451	4,191	4,642
	0 未回答	40	99	139	4	135	139	2	137	139	6	133	139	34	105	139
	計	2,383	4,323	6,706	306	6,400	6,706	275	6,431	6,706	407	6,299	6,706	640	6,066	6,706
	35.5%	24.5%	100.0%	4.6%	31.0%	100.0%	4.1%	31.0%	100.0%	6.1%	29.7%	100.0%	9.5%	29.3%	100.0%	

※下段の数字は%

学校から海まで行くのに必要な時間と、有用だと考える学校外機関のサポート



学校から海に行くのに必要な時間と、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの関係、 χ^2 乗検定により分析したところ、有意水準5%において、以下のような結果になった。

「教材」「施設での解説」「情報発信」に関しては差が見られなかった。

「外部講師」と「共同開発」は、徒歩15分程度の場合には有用だと考えられ、電車やバスの場合には有用だと考えられない傾向にあった。「トータル提案」は、徒歩15分及び徒歩30～1時間の場合には有用だと考えられ、電車やバスの場合には有用だと考えられない傾向にあった。「体験学習プログラム」は、電車やバスの場合には有用だと考えられ、徒歩15分程度の場合には有用だと考えられない傾向にあった。

図表 48：ロケーション別の学校外機関に期待するサポートの χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説: 学校から海まで行くのに必要な時間によって、学校外機関の各サポートが有用かどうかの差はない
 対立仮説: 学校から海まで行くのに必要な時間によって、学校外機関の各サポートが有用かどうかの差がある

有意水準: 5%

実測値:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	401	471	872	491	381	872	149	723	872	266	606	872	189	683	872
徒歩30～1時間程度	526	527	1,053	559	498	1,053	189	864	1,053	321	732	1,053	269	783	1,053
電車やバス	2,304	2,338	4,642	2,215	2,427	4,642	713	3,929	4,642	1,223	3,419	4,642	1,171	3,471	4,642
計	3,231	3,336	6,567	3,261	3,306	6,567	1,051	5,516	6,567	1,810	4,757	6,567	1,620	4,947	6,567

期待値:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	270	602	872	82	790	872	30	842	872	54	818	872	95	807	872
徒歩30～1時間程度	378	675	1,053	67	986	1,053	46	1,007	1,053	46	1,007	1,053	90	963	1,053
電車やバス	1,695	2,947	4,642	163	4,479	4,642	197	4,445	4,642	301	4,341	4,642	451	4,191	4,642
計	2,343	4,224	6,567	302	6,265	6,567	273	6,294	6,567	401	6,166	6,567	600	5,961	6,567

項目別:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	429.0	441.0	870.0	433.0	439.0	872.0	139.0	723.0	862.0	240.0	631.0	871.0	215.0	656.0	867.0
徒歩30～1時間程度	518.0	524.0	1,042.0	522.0	530.0	1,052.0	168.0	864.0	1,032.0	290.0	762.0	1,052.0	259.0	783.0	1,042.0
電車やバス	2283.0	2365.0	4648.0	2305.0	2336.0	4641.0	742.0	3899.0	4641.0	1279.0	3362.0	4641.0	1145.0	3494.0	4641.0

統計量:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	1.83114	1.77351	1.80232	7.76553	7.65980	7.71267	0.63893	0.12174	0.38034	2.73935	1.04223	1.89079	3.16960	1.00797	2.08878
徒歩30～1時間程度	0.12102	0.11721	0.11912	1.97156	1.94472	1.95814	2.46784	0.47399	1.47092	3.26257	1.24130	2.25193	0.00022	7.1E-05	0.00012
電車やバス	0.17708	0.17151	0.17429	3.52141	3.47348	3.49745	1.20482	0.22950	0.71716	2.48892	0.94701	1.71797	0.58464	0.18145	0.38304

χ^2 乗:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	4.19148297	26.32852716	30.52001013	5.156878376	11.72153969	16.87941787	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000
徒歩30～1時間程度	9.883465806	59.8886269	69.77209271	1.330059084	6.714650379	8.045709463	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000
電車やバス	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000

自由度:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4
徒歩30～1時間程度	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4
電車やバス	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4

p値:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	0.122978877	1.91027E-06	0.075899554	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905	0.00284905
徒歩30～1時間程度	0.007142211	9.41099E-14	0.514258338	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294	0.024820294
電車やバス	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000

結果:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000
徒歩30～1時間程度	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000
電車やバス	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000	0.00000000

標準化残差:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	-1.4	1.3	0.1	2.8	-2.8	0.0	0.0	-0.3	1.7	-1.0	0.7	-1.0	-1.0	1.0	0.0
徒歩30～1時間程度	0.3	-0.3	0.0	1.4	-1.4	0.0	1.6	-0.7	1.8	-1.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
電車やバス	0.4	-0.4	0.0	-1.9	1.9	0.0	-1.1	0.5	-1.0	1.0	0.0	0.0	-0.4	0.4	0.0

標準化残差:

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
徒歩15分程度	-2.0	2.0	0.0	4.2	-4.2	0.0	0.9	-0.9	2.1	-2.1	0.0	-2.2	2.2	0.0	0.0
徒歩30～1時間程度	0.5	-0.5	0.0	2.2	-2.2	0.0	1.9	-1.9	2.3	-2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
電車やバス	1.1	-1.1	0.0	-4.9	4.9	0.0	-2.2	2.2	-3.4	3.4	0.0	1.6	-1.6	0.0	0.0

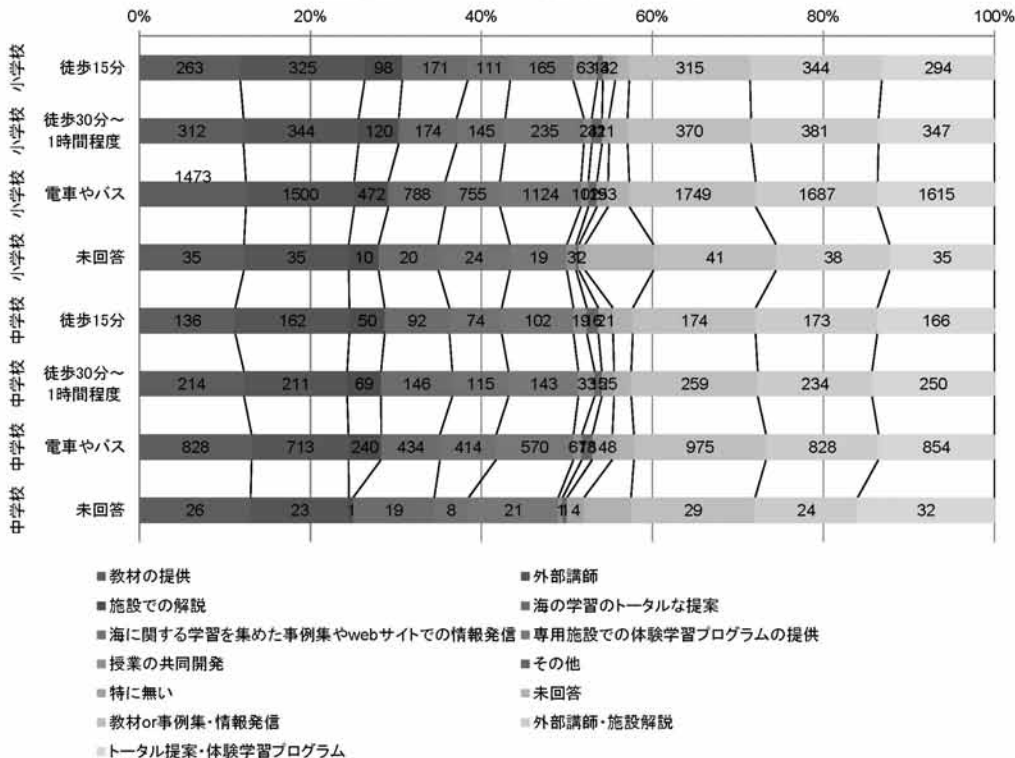
学校種別に集計したところ、以下のようになった。

図表 49：学校種別のロケーション別の学校外機関に期待するサポート

ロケーション	該当学校数	質問3：海洋教育の実施状況													
		教材の提供	外部講師	施設での解説	海の学習のトータルな提案	海に関する学習を集めた事例集やwebサイトでの情報発信	専用施設での体験学習プログラムの提供	授業の共同開発	その他	特に無い	未回答	教材or事例集・情報発信	外部講師・施設解説	トータル提案・体験学習プログラム	
小学校	徒歩15分	550	263	325	98	171	111	165	63	14	32	37	315	344	294
	徒歩30分～1時間程度	618	312	344	120	174	145	235	24	31	21	55	370	381	347
	電車やバス	2,950	1,473	1,500	472	788	755	1,124	102	119	153	294	1,749	1,687	1,615
	未回答	85	35	35	10	20	24	19	3	1	2	23	41	38	35
	小計	4,203	2,083	2,204	700	1,153	1,035	1,543	192	165	208	409	2,475	2,450	2,291
中学校	徒歩15分	314	136	162	50	92	74	102	19	16	21	28	174	173	166
	徒歩30分～1時間程度	434	214	211	69	146	115	143	33	15	25	35	259	234	250
	電車やバス	1,688	828	713	240	434	414	570	61	78	148	157	975	828	854
	未回答	54	26	23	1	19	8	21	1	1	4	11	29	24	32
	小計	2,490	1,204	1,109	360	691	611	836	114	110	198	231	1,437	1,259	1,302
合計	6,693	3,287	3,313	1,060	1,844	1,646	2,379	306	275	406	640	3,912	3,709	3,593	

※下段の数字は%

学校種別のロケーションと海洋教育の実施状況



学校から海に行くのに必要な時間と、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、中学校の場合、有意水準 5%において、以下のような結果になった。

「教材」「施設での解説」「情報発信」「体験学習プログラム」「その他」「特に無し」「教材 or 情報発信」に関しては差が見られなかった。

「外部講師」は、徒歩 15 分程度の場合には有用だと考えられ、電車やバスの場合には有用だと考えられない傾向にあった。「トータル提案」「共同開発」「トータル提案 or 体験学習プログラム」は、徒歩 30 分～1 時間程度の場合に有用だと考えられ、電車やバスの場合には有用だと考えられない傾向にあった。「外部講師 or 施設での解説」は、電車やバスの場合に有用だと考えられる傾向にあった。

図表 51：中学校のロケーション別の学校外機関に期待するサポート

χ²乗検定

帰無仮説 学校から海まで行くのに必要な時間によって、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの差はない

対立仮説 学校から海まで行くのに必要な時間によって、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの差がある

有意水準 5%

期待するサポート	徒歩 15分程度		徒歩 30分程度		徒歩 45分程度		徒歩 1時間程度		電車		バス	
	期待する	期待しない	期待する	期待しない	期待する	期待しない	期待する	期待しない	期待する	期待しない	期待する	期待しない
教材	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
施設での解説	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
情報発信	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
体験学習プログラム	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
その他	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
特に無し	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
教材 or 情報発信	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
外部講師	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
トータル提案	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
共同開発	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
トータル提案 or 体験学習プログラム	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117
外部講師 or 施設での解説	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117	113	117

(4) 海洋教育の実施状況と海洋教育内容の自由記述の有無

設問3と設問3-2の自由記述の有無のクロス集計を行ったところ、総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校（質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校）はいずれも96%以上が自由記述に回答した。

図表52：海洋教育の実施状況と海洋教育内容の自由記述の有無

	質問3-2			計
	有り	無し	未回答	
1 未実施	6 0.7	914 99.1	2 0.2	922
2 教科書の範囲	33 0.8	4,172 99.0	8 0.2	4,213
3 総合でメインテーマに	333 97.9	6 1.8	1 0.3	340
4 総合でトピックスに	689 99.1	6 0.9	0 0.0	695
5 教科と総合の連携	78 100.0	0 0.0	0 0.0	78
6 課外	213 96.4	8 3.6	0 0.0	221
0 未回答	126 53.2	38 16.0	73 30.8	237
計	1,478 22.0	5,144 76.7	84 1.3	6,706

※下段の数字は%

(5) 海洋教育の実施状況と体験学習の有無

海洋教育の実施状況と体験学習の有無の関係を見るため、設問3と設問3-3の体験学習の有無のクロス集計を行った。総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校(質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校)は、いずれも67%以上が体験学習に取り組んでいた。

図表53：海洋教育の実施状況と体験学習の有無

	質問3-3			計
	有り	無し	未回答	
1 未実施	4 0.4	0 0.0	918 99.6	922
2 教科書の範囲	37 0.9	14 0.3	4,162 98.8	4,213
3 総合でメインテーマに	263 77.4	44 12.9	33 9.7	340
4 総合でトピックスに	466 67.1	143 20.6	86 12.4	695
5 教科と総合の連携	63 80.8	10 12.8	5 6.4	78
6 課外	169 76.5	29 13.1	23 10.4	221
0 未回答	113 47.7	25 10.5	99 41.8	237
計	1,115 16.6	265 4.0	5,326 79.4	6,706

※下段の数字は%

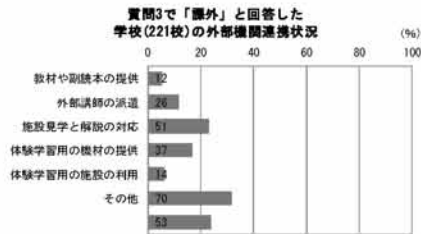
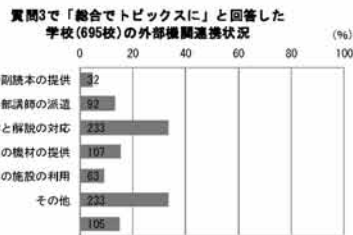
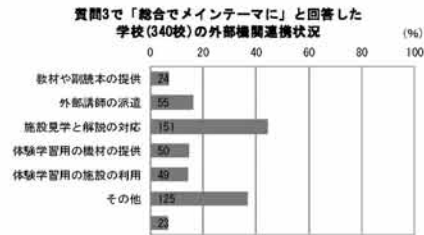
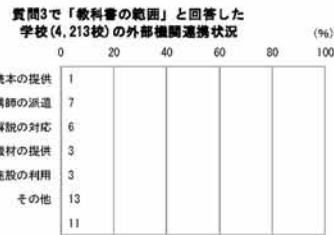
(6) 海洋教育の実施状況と学校外機関・個人の協力

海洋教育の実施状況と学校外機関・個人の協力の関係を見るため、設問3と設問3-4のクロス集計を行った。総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校(質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校)は、83.1%が学校外機関・団体と連携を行っていた。

図表 54：海洋教育の実施状況と学校外機関・個人の協力状況

	質問3-4								n	
	1 大学や研究機関	2 水族館等の博物館	3 漁業協同組合等の漁業関連団体	4 財団法人等の公益機関	5 市民団体やNPO等	6 その他	7 連携なし	8 未回答		
1 未実施	0	0	0	0	0	1	1	920	1	922
2 教科書の範囲	1	7	6	3	3	13	11	4,179	23	4,213
3 総合でメインテーマに	24	55	151	50	49	125	23	14	304	340
4 総合でトピックスに	32	92	233	107	63	233	105	20	570	695
5 教科と総合の連携	12	24	30	17	13	30	6	0	73	78
6 課外	12	26	51	37	14	70	53	7	162	221
0 未回答	11	21	47	23	16	46	29	99	112	237
3~6の合計	80	197	465	211	139	458	187	41	1,109	1,334
総計	92	225	518	237	158	518	228	5,239	1,245	6,706

※下段の数字は%



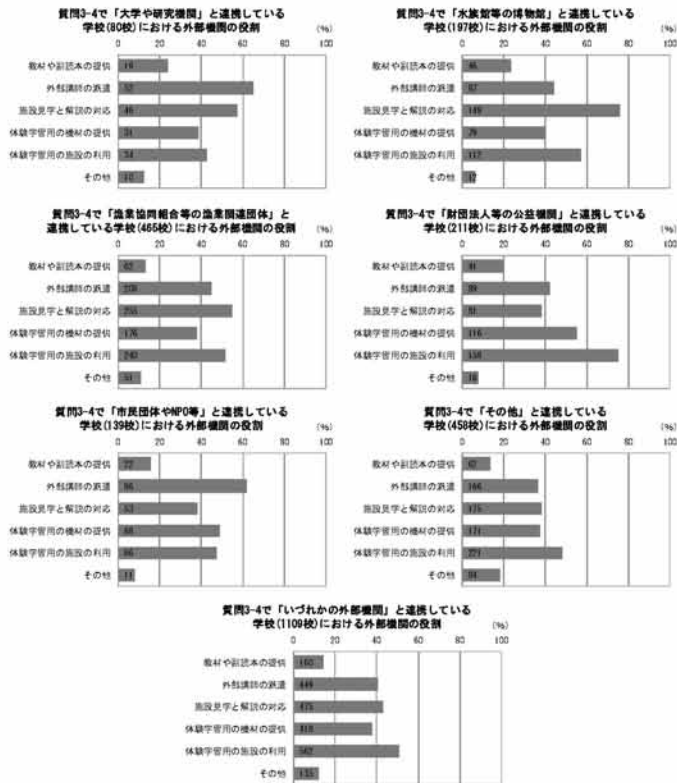
(7) 学校外機関・個人の協力と役割

学校外機関・個人の協力と役割の関係を見るため、設問3-4と設問3-5のクロス集計を行った。大学や研究機関、市民団体やNPOと連携している場合は、外部講師の派遣と回答した学校がそれぞれ65.0%、61.9%と最も多かった。水族館等の博物館、漁業協同組合等の漁業関連団体と連携している場合は、施設見学と解説の対応と回答した学校がそれぞれ75.6%、54.8%と最も多かった。財団法人等の公益機関と連携している場合は、体験学習用の施設の利用と回答した学校が74.9%で最も多かった。

図表 55：海洋教育の実施状況と学校外機関・個人の役割

	質問3-5							n
	1 教材や副読本の提供	2 外部講師の派遣	3 施設見学と解説の対応	4 体験学習用の機材の提供	5 体験学習用の施設の利用	6 その他	0 未回答	
1 大学や研究機関	19 23.8	52 65.0	46 57.5	31 38.8	34 42.5	10 12.5	2 2.5	80
2 水族館等の博物館	46 57.5	87 107.5	149 186.3	79 98.8	112 140.1	12 15.0	6 7.5	197
3 漁業協同組合等の漁業関連団体	62 77.5	208 262.5	255 318.8	176 220.1	240 300.1	51 63.8	13 16.3	465
4 財団法人等の公益機関	41 51.3	89 111.3	81 101.3	116 145.1	158 197.5	16 20.0	8 10.0	211
5 市民団体やNPO等	22 27.5	66 82.5	53 66.3	68 85.1	66 82.5	11 13.8	9 11.3	139
6 その他	62 77.5	166 207.5	175 218.8	171 213.8	221 276.3	84 105.0	51 63.8	458
7 選択なし	3 3.8	1 1.3	3 3.8	1 1.3	4 5.0	0	180 225.0	187
0 未回答	2 2.5	1 1.3	1 1.3	2 2.5	3 3.8	0	36 45.0	41
1~6のいずれかと選択	160 200.0	449 561.3	475 593.8	418 522.5	562 702.5	125 156.3	82 102.5	1,109

※各質問で「3」「4」「5」「6」を選択した方のみ集計。下段の数字は%。



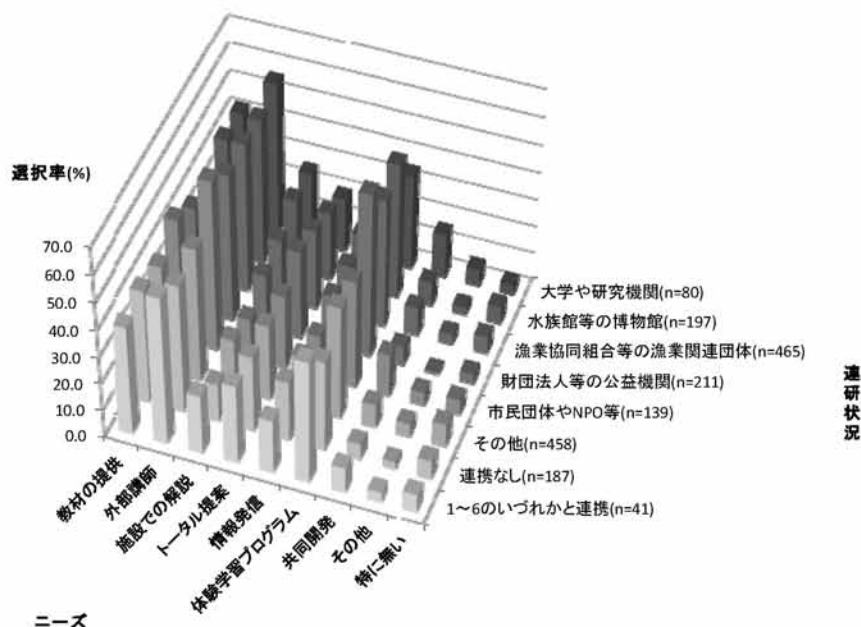
(8) 学校外機関・個人の協力とニーズ

学校外機関・個人の協力を得ているかどうかと学校外機関に期待するサポートの関係を見るため、質問 3-4 と質問 4 のクロス集計を行った。財団法人等の公益機関と連携している場合、体験学習プログラムの選択率が 60.2% と最も高かったが、それ以外の学校外機関と連携している場合は、外部講師の選択率が最も高かった。いずれとも連携していない場合も、外部講師の選択率が 47.1% と最も高かった。なお、集計は質問 3 で「3」「4」「5」「6」を選択した学校 1,334 校についてのみ行った。

図表 56：学校外機関・個人との連携状況と学校外機関に期待するサポート

	質問4 学校外機関のサポートニーズ										n
	1 教材の提供	2 外部講師	3 施設での 施設での	4 トータル 提案	5 情報発信	6 体験学習 プログラム	7 共同開発	8 その他	9 特に無い	0 未回答	
1 大学や研究機関	34 42.5	45 56.3	21 26.3	16 20.0	19 23.8	28 35.0	13 16.3	5 6.3	3 3.8	4 5.0	80
2 水族館等の博物館	85 43.1	105 53.3	53 26.9	50 25.4	40 20.3	98 49.7	18 9.1	6 3.0	13 6.6	6 3.0	197
3 漁業協同組合等の 漁業関連団体	170 36.6	255 54.8	105 22.6	137 29.5	91 19.6	219 47.1	49 10.6	18 3.9	30 6.5	14 3.0	465
4 財団法人等の 公益機関	82 38.9	114 54.0	43 20.4	69 32.7	41 19.4	127 60.2	15 7.1	2 0.9	8 3.8	8 3.8	211
5 市民団体やNPO等	63 35.3	87 47.6	21 15.1	38 27.3	22 15.6	55 39.6	7 5.0	7 5.0	8 5.8	5 3.6	139
6 その他	180 39.3	225 49.1	86 18.8	127 27.7	89 19.4	190 41.5	40 8.7	23 5.0	39 8.5	18 3.9	458
7 連携なし	78 41.7	88 47.1	26 13.9	52 27.8	41 21.9	62 32.2	11 5.9	5 2.7	13 7.0	25 13.4	187
0 未回答	8 19.5	13 31.7	5 12.2	7 17.1	7 17.1	4 9.8	1 2.4	2 4.9	1 2.4	19 46.3	41
1~6のいずれかと連携	442 39.9	599 54.0	238 21.5	320 28.9	217 19.6	499 45.0	101 9.1	39 3.5	73 6.6	37 3.3	1,109

学校外機関・個人との連携状況とニーズ



学校外機関との連携状況と、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、有意水準 5%において、以下のような結果になった。

「その他」を有用だと考えるかどうかには差が見られなかった。

「大学や研究機関」と連携している場合は、「体験学習プログラム」の選択率が低い傾向にあった。「水族館等の博物館」と連携している場合は、「施設での解説」の選択率が高い傾向にあった。「漁業協同組合等の漁業関連団体」と連携している場合は、「教材」の選択率がやや低い傾向にあった。「財団法人等の公益機関」と連携している場合は、「体験学習プログラム」の選択率が高い傾向にあった。「市民団体やNPO等」と連携している場合は、「外部講師」「共同開発」の選択率が低い傾向にあった。

図表 57：学校外機関・個人との連携状況と学校外機関に期待するサポートの χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説： 学校外機関との連携状況によって、学校外機関の各サポートが有用だと思うかどうかには差はない
 対立仮説： 学校外機関との連携状況によって、学校外機関の各サポートが有用だと思うかどうかには差がある

有意水準： 5%

実測値：

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	34	46	80	45	35	80	21	59	80	16	64	80	19	61	80
水族館等の博物館	85	112	197	105	92	197	53	144	197	50	147	197	40	157	197
漁業協同組合等の漁業	170	295	465	255	210	465	105	360	465	137	328	465	91	374	465
財団法人等の公益機関	82	129	211	114	97	211	43	168	211	69	142	211	41	170	211
市民団体やNPO等	63	76	139	87	52	139	21	118	139	38	101	139	22	117	139
その他	180	278	458	225	233	458	86	372	458	127	331	458	89	369	458
計	614	936	1,550	831	719	1,550	329	1,221	1,550	437	1,113	1,550	302	1,248	1,550

	体験学習プログラム			共同開発			その他			特に無し			未回答		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	28	52	80	13	67	80	5	75	80	3	77	80	4	76	80
水族館等の博物館	98	99	197	18	179	197	6	191	197	13	184	197	6	191	197
漁業協同組合等の漁業	219	246	465	49	416	465	18	447	465	30	435	465	14	451	465
財団法人等の公益機関	127	84	211	15	196	211	2	209	211	8	203	211	8	203	211
市民団体やNPO等	55	84	139	22	117	139	7	132	139	8	131	139	5	134	139
その他	190	268	458	40	418	458	23	435	458	39	419	458	18	440	458
計	717	833	1,550	157	1,393	1,550	61	1,489	1,550	101	1,449	1,550	55	1,495	1,550

期待値：

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	31.7	48.3	80	42.9	37.1	80	17.0	63.0	80	22.6	57.4	80	15.6	64.4	80
水族館等の博物館	78.0	119.0	197	105.6	91.4	197	41.8	155.2	197	55.5	141.5	197	38.4	158.6	197
漁業協同組合等の漁業	184.2	280.8	465	249.3	215.7	465	98.7	366.3	465	131.1	333.9	465	90.6	374.4	465
財団法人等の公益機関	83.6	127.4	211	113.1	97.9	211	44.8	166.2	211	59.5	151.5	211	41.1	169.9	211
市民団体やNPO等	55.1	83.9	139	74.5	64.5	139	29.5	109.5	139	39.2	99.8	139	27.1	111.9	139
その他	181.4	276.6	458	245.5	212.5	458	97.2	360.8	458	129.1	328.9	458	89.2	368.8	458

	体験学習プログラム			共同開発			その他			特に無し		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	37.0	43.0	80	8.1	71.9	80	3.1	76.9	80	5.2	74.8	80
水族館等の博物館	91.1	105.9	197	20.0	177.0	197	7.8	189.2	197	12.8	184.2	197
漁業協同組合等の漁業	215.1	249.9	465	47.1	417.9	465	18.3	446.7	465	30.3	434.7	465
財団法人等の公益機関	97.6	113.4	211	21.4	189.6	211	8.3	202.7	211	13.7	197.3	211
市民団体やNPO等	64.3	74.7	139	14.1	124.9	139	5.5	133.5	139	9.1	129.9	139
その他	211.9	246.1	458	46.4	411.6	458	18.0	440.0	458	29.8	428.2	458

統計量：

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	0.16834	0.22674	0.19904	0.10377	0.99337	0.19904	0.95139	0.350816	0.19904	0.90495	0.257294	0.19904	0.74728	0.644129	0.19904
水族館等の博物館	0.62121	1.63878	0.23099	0.00361	16.1215	0.23099	2.99195	71.2949	0.23099	0.55285	72.7694	0.23099	0.0681	158.617	0.23099
漁業協同組合等の漁業	1.09468	2.37051	0.23099	0.13032	56.8127	0.23099	0.40213	143.539	0.23099	0.26552	176.701	0.23099	0.00177	374.4	0.23099
財団法人等の公益機関	0.02999	1.41276	0.02999	0.0068	30.7679	0.02999	0.07126	56.8574	0.02999	1.52081	80.6065	0.02999	0.0003	169.889	0.02999
市民団体やNPO等	1.1444	0.11169	0.02999	2.08935	29.3176	0.02999	2.45106	46.6838	0.02999	0.03608	60.6601	0.02999	0.95385	111.917	0.02999
その他	0.01123	9.61687	0.01123	1.71936	75.2653	0.01123	1.29362	151.491	0.01123	0.03502	174.959	0.01123	0.00062	368.764	0.01123

	体験学習プログラム			共同開発			その他			特に無し		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
大学や研究機関	2.19195	1.88671	0.02999	2.95912	0.33351	0.02999	1.08896	0.04461	0.02999	0.93939	0.06548	0.02999
水族館等の博物館	0.51816	0.446	0.02999	0.19138	0.02157	0.02999	0.39633	0.01624	0.02999	0.00208	0.00014	0.02999
漁業協同組合等の漁業	0.07071	0.06086	0.02999	0.07665	0.00864	0.02999	0.00492	0.0002	0.02999	0.00297	0.00021	0.02999
財団法人等の公益機関	8.85302	7.62018	0.02999	1.89992	0.21413	0.02999	4.78557	0.19605	0.02999	2.40391	0.16756	0.02999
市民団体やNPO等	1.34475	1.15749	0.02999	4.45593	0.50221	0.02999	0.42775	0.01752	0.02999	0.12345	0.0086	0.02999
その他	2.25592	1.94177	0.02999	0.88044	0.09923	0.02999	1.37343	0.05627	0.02999	2.80911	0.1958	0.02999

χ二乗:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	18.44720167	219.3315096	513.109609	595.7403171	1249.771917
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	28.34753322	11.64273581	8.40784577	6.718697612	
自由度:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	5	5	5	5	5
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	5	5	5	5	
p値:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	0.002435131	2.06616E-45	1.1812E-108	1.6835E-126	4.8594E-268
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	3.11249E-05	0.040024981	0.135144811	0.242415686	
結果:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却できない	帰無仮説を棄却できない	

標準化残差:	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
	0.4	-0.3	0.3	-0.3	1.0	-0.5	-1.4	0.9	0.9	-0.4
大学や研究機関										
水族館等の博物館	0.8	-0.6	-0.1	0.1	1.7	-0.9	-0.7	0.5	0.3	-0.1
漁業協同組合等の漁業	-1.0	0.8	0.4	-0.4	0.6	-0.3	0.5	-0.3	0.0	0.0
財団法人等の公益機関	-0.2	0.1	0.1	-0.1	-0.3	0.1	1.2	-0.8	0.0	0.0
市民団体やNPO等	1.1	-0.9	1.4	-1.6	-1.6	0.8	-0.2	0.1	-1.0	0.5
その他	-0.1	0.1	-1.3	1.4	-1.1	0.6	-0.2	0.1	0.0	0.0

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
大学や研究機関	-1.5	1.4	-1.7	-0.6	1.0	-0.2	-1.0	0.3
水族館等の博物館	0.7	-0.7	-0.4	0.1	-0.6	0.1	0.0	0.0
漁業協同組合等の漁業	0.3	-0.2	0.3	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	0.0
財団法人等の公益機関	3.0	-2.8	-1.4	0.5	-2.2	0.4	-1.6	0.4
市民団体やNPO等	-1.2	1.1	2.1	-0.7	0.7	-0.1	-0.4	0.1
その他	-1.5	1.4	-0.9	0.3	1.2	-0.2	1.7	-0.4

標準化残差:	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
大学や研究機関	0.5	-0.5	0.5	-0.5	1.1	-1.1	-1.7	1.7	1.0	-1.0
水族館等の博物館	1.1	-1.1	-0.1	0.1	2.1	-2.1	-0.9	0.9	0.3	-0.3
漁業協同組合等の漁業	-1.6	1.6	0.6	-0.6	0.9	-0.9	0.7	-0.7	0.1	-0.1
財団法人等の公益機関	-0.2	0.2	0.1	-0.1	-0.3	0.3	1.6	-1.6	0.0	0.0
市民団体やNPO等	1.4	-1.4	2.2	-2.2	-1.8	1.8	-0.2	0.2	-1.1	1.1
その他	-0.2	0.2	-2.3	2.3	-1.5	1.5	-0.3	0.3	0.0	0.0

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
大学や研究機関	-2.1	2.1	-1.9	-1.9	1.1	-1.1	-1.0	1.0
水族館等の博物館	1.1	-1.1	-0.5	0.5	-0.7	0.7	0.1	-0.1
漁業協同組合等の漁業	0.4	-0.4	0.3	-0.3	-0.1	0.1	-0.1	0.1
財団法人等の公益機関	4.4	-4.4	-1.6	1.6	-2.4	2.4	-1.7	1.7
市民団体やNPO等	-1.7	1.7	2.3	-2.3	0.7	-0.7	-0.4	0.4
その他	-2.4	2.4	-1.2	1.2	1.4	-1.4	2.1	-2.1

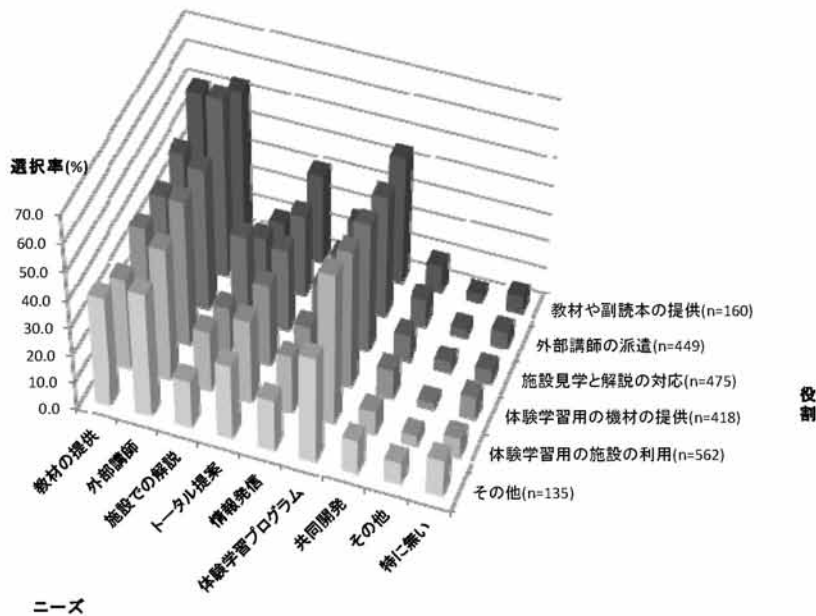
(9) 学校外機関・個人の役割とニーズ

学校外機関・個人の役割と学校外機関に期待するサポートの関係を見るため、質問3-5と質問4のクロス集計を行った。教材や副読本の提供、外部講師の派遣、施設見学と解説の対応、体験学習用の機材の提供を受けている場合、外部講師の選択率がそれぞれ55.0%、63.7%、50.7%、51.9%と最も高かった。体験学習用の施設の提供を受けている場合は、体験学習プログラムの選択率が54.4%と最も高かった。なお、集計は質問3で「3」～「6」を選択し、かつ質問3-4で「1」～「6」を選択した学校1,109校についてのみ行った。

図表 58：学校外機関・個人の役割と学校外機関に期待するサポート

	質問4 学校外機関のサポートニーズ										n	
	1 教材の提供	2 外部講師	3 施設での 解説	4 トータル 提案	5 情報発信	6 体験学習 プログラム	7 共同開発	8 その他	9 特に無い	0 未回答		
質問3-5	1 教材や副読本の提供	82 51.3	88 55.0	17 10.6	51 31.9	29 18.1	73 45.6	16 10.0	5 3.1	10 6.3	10 6.3	160
	2 外部講師の派遣	185 41.2	286 63.7	78 17.4	133 29.6	83 18.5	197 43.9	45 10.0	14 3.1	27 6.0	20 4.5	449
	3 施設見学と解説の対応	180 37.9	241 50.7	145 30.5	140 29.5	99 20.8	221 46.5	48 10.1	19 4.0	24 5.1	17 3.6	475
	4 体験学習用の機材の提供	162 38.8	217 51.9	72 17.2	123 29.4	77 18.4	206 49.3	43 10.3	10 2.4	36 8.6	17 4.1	418
	5 体験学習用の施設の利用	186 33.1	267 47.5	123 21.9	167 29.7	116 20.6	306 54.4	50 8.9	21 3.7	40 7.1	15 2.7	562
学校外機関役割	6 その他	53 39.3	60 44.4	23 17.0	36 26.7	25 18.5	51 37.8	16 11.9	11 8.1	18 13.3	4 3.0	135
	0 未回答	37 45.1	50 61.0	15 18.3	14 17.1	11 13.4	23 28.0	5 6.1	1 1.2	5 6.1	11 13.4	82

学校外機関・個人の役割とニーズ



学校外機関との連携状況と、学校外機関の各サポートが有用だと考えるかどうかの関係を、 χ^2 乗検定により分析したところ、有意水準5%において、以下のような結果になった。

「共同開発」と「その他」に関しては有意な差が見られなかった。

「教材や副読本の提供」を受けている場合は、「教材」の選択率が高く、「施設での解説」の選択率が低い傾向にあった。「外部講師の派遣」を受けている場合は、「外部講師」の選択率が高く、「施設での解説」の選択率が低い傾向にあった。「施設見学と解説の対応」を受けている場合は、「施設での解説」の選択率が高い傾向にあった。「体験学習用の機材の提供」を受けている場合は、「施設での解説」の選択率が低い傾向にあった。「体験学習用の施設の利用」を受けている場合は、「体験学習プログラム」の選択率が高い傾向にあり、「教材」や「外部講師」の選択率が低い傾向にあった。これらのことから、すでに受けているサポートのさらなる充実を求めている傾向があることがわかった。

図表 59：学校外機関・個人の役割と学校外機関に期待するサポートの χ^2 乗検定

χ^2 乗検定

帰無仮説： 学校外機関の役割によって、学校外機関の各サポートが有用だと思うかどうかには差はない
 対立仮説： 学校外機関の役割によって、学校外機関の各サポートが有用だと思うかどうかには差がある

有意水準： 5%

実測値：

	教材			外部講師			施設での解説			トータル提案			情報発信		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
教材や副読本の提供	82	78	160	88	72	160	17	143	160	51	109	160	29	131	160
外部講師の派遣	185	264	449	286	163	449	78	371	449	133	316	449	83	366	449
施設見学と解説の対応	180	295	475	241	234	475	145	330	475	140	335	475	99	376	475
体験学習用の機材の提供	162	256	418	217	201	418	72	346	418	123	295	418	77	341	418
体験学習用の施設の利用	186	376	562	267	295	562	123	439	562	167	395	562	116	446	562
その他	53	82	135	60	75	135	23	112	135	36	99	135	25	110	135
計	848	1,351	2,199	1,159	1,040	2,199	458	1,741	2,199	650	1,549	2,199	429	1,770	2,199

	体験学習プログラム			共同開発			その他			特に無し			未回答		
	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計	選択	未選択	計
教材や副読本の提供	73	87	160	16	144	160	5	155	160	10	150	160	10	150	160
外部講師の派遣	197	252	449	45	404	449	14	435	449	27	422	449	20	429	449
施設見学と解説の対応	221	254	475	48	427	475	19	456	475	24	451	475	17	458	475
体験学習用の機材の提供	206	212	418	43	375	418	10	408	418	36	382	418	17	401	418
体験学習用の施設の利用	306	256	562	50	512	562	21	541	562	40	522	562	15	547	562
その他	51	84	135	16	119	135	11	124	135	18	117	135	4	131	135
計	1,054	1,145	2,199	218	1,981	2,199	80	2,119	2,199	155	2,044	2,199	83	2,116	2,199

期待値：

	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
教材や副読本の提供	61.7	98.3	84.3	75.7	33.3	126.7	47.3	112.7	31.2	128.8
外部講師の派遣	173.1	275.9	236.6	212.4	93.5	355.5	132.7	316.3	87.6	361.4
施設見学と解説の対応	183.2	291.8	250.4	224.6	98.9	376.1	140.4	334.6	92.7	382.3
体験学習用の機材の提供	161.2	256.8	220.3	197.7	87.1	330.9	123.6	294.4	81.5	336.5
体験学習用の施設の利用	216.7	345.3	296.2	265.8	117.1	444.9	166.1	395.9	109.6	452.4
その他	52.1	82.9	71.2	63.8	28.1	106.9	39.9	95.1	26.3	108.7

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
教材や副読本の提供	76.7	83.3	15.9	144.1	5.8	154.2	11.3	148.7
外部講師の派遣	215.2	233.8	44.5	404.5	16.3	432.7	31.6	417.4
施設見学と解説の対応	227.7	247.3	47.1	427.9	17.3	457.7	33.5	441.5
体験学習用の機材の提供	200.4	217.6	41.4	376.6	15.2	402.8	29.5	388.5
体験学習用の施設の利用	269.4	292.6	55.7	506.3	20.4	541.6	39.6	522.4
その他	64.7	70.3	13.4	121.6	4.9	130.1	9.5	125.5

統計量：

	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
教材や副読本の提供	6.67834	1.07909	0.15978	45.4899	7.9966	45.2085	0.29037	62.1677	0.15706	128.786
外部講師の派遣	0.8113	0.37331	10.2917	85.0017	2.57443	139.244	0.00059	172.062	0.24102	361.405
施設見学と解説の対応	0.065	8.85208	0.34938	28.2386	21.4525	148.187	0.00117	165.887	0.43279	382.333
体験学習用の機材の提供	0.00404	6.1703	0.04973	79.9128	2.60501	130.656	0.0025	160.58	0.25354	336.453
体験学習用の施設の利用	4.3556	17.7456	2.87981	76.7137	0.30231	173.628	0.00465	197.869	0.36895	452.36
その他	0.01697	6.34486	1.74814	26.1326	0.93135	47.0081	0.38204	51.6678	0.06787	108.663

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
教材や副読本の提供	0.17749	0.16339	0.0012	0.0013	0.11575	0.00437	0.14479	0.01098
外部講師の派遣	1.54078	1.41833	0.00535	0.0059	0.3337	0.0126	0.68276	0.05177
施設見学と解説の対応	0.19551	0.17997	0.0176	0.00194	0.17108	0.00646	2.68485	0.2036
体験学習用の機材の提供	0.15927	0.14661	0.05882	0.00647	1.78287	0.06731	1.45018	0.10997
体験学習用の施設の利用	4.98065	4.58481	0.58611	0.0645	0.01503	0.00057	0.00377	0.00029
その他	2.90346	2.6727	0.51159	0.0563	7.54827	0.28407	7.56472	0.57365

X二乗:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	52_48651004	356_9678813	719_7931713	810_9154188	1771_521241
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	19_12296055	1_310596381	10_34297295	13_48132513	

自由度:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	5	5	5	5	5
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	5	5	5	5	

p値:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	4_28715E-10	5_53117E-75	2_5783E-153	5_0332E-173	0
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	0_001823352	0_933837552	0_066080452	0_019262446	

結果:	教材	外部講師	施設での解説	トータル提案	情報発信
	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却
	体験学習プログラム	共同開発	その他	特に無し	
	帰無仮説を棄却	帰無仮説を棄却できない	帰無仮説を棄却できない	帰無仮説を棄却	

標準化残差:	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
	2.6	-2.0	0.4	-0.4	-2.8	1.5	0.5	-0.3	-0.4	0.2
教材や副読本の提供	0.9	-0.7	3.2	-3.4	-1.6	0.8	0.0	0.0	-0.5	0.2
外部講師の派遣	-0.2	0.2	-0.6	0.6	4.6	-2.4	0.0	0.0	0.7	-0.3
施設見学と解説の対応	0.1	-0.1	-0.2	0.2	-1.6	0.8	-0.1	0.0	-0.5	0.2
体験学習用の機材の提供	-2.1	1.7	-1.7	1.8	0.5	-0.3	0.1	0.0	0.6	-0.3
体験学習用の施設の種類	0.1	-0.1	-1.3	1.4	-1.0	0.5	-0.6	0.4	-0.3	0.1
その他										

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
	-0.4	0.4	0.0	0.0	-0.3	0.1	-0.4	0.1
教材や副読本の提供	-1.2	1.2	0.1	0.0	-0.6	0.1	-0.8	0.2
外部講師の派遣	-0.4	0.4	0.1	0.0	0.4	-0.1	-1.6	0.5
施設見学と解説の対応	0.4	-0.4	0.2	-0.1	-1.3	0.3	1.2	-0.3
体験学習用の機材の提供	2.2	-2.1	-0.8	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0
体験学習用の施設の種類	-1.7	1.6	0.7	-0.2	2.7	-0.5	2.8	-0.8
その他								

標準化残差:	教材		外部講師		施設での解説		トータル提案		情報発信	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
	3.4	-3.4	0.6	-0.6	-3.3	3.3	0.7	-0.7	-0.5	0.5
教材や副読本の提供	1.3	-1.3	5.2	-5.2	-2.0	2.0	0.0	0.0	-0.6	0.6
外部講師の派遣	-0.3	0.3	-1.0	1.0	5.9	-5.9	0.0	0.0	0.8	-0.8
施設見学と解説の対応	0.1	-0.1	-0.4	0.4	-2.0	2.0	-0.1	0.1	-0.6	0.6
体験学習用の機材の提供	-3.1	3.1	-2.9	2.9	0.7	-0.7	0.1	-0.1	0.8	-0.8
体験学習用の施設の種類	0.2	-0.2	-2.0	2.0	-1.1	1.1	-0.8	0.8	-0.3	0.3
その他										

	体験学習プログラム		共同開発		その他		特に無し	
	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択	選択	未選択
	-0.6	0.6	0.0	0.0	-0.4	0.4	-0.4	0.4
教材や副読本の提供	-1.9	1.9	0.1	-0.1	-0.7	0.7	-1.0	1.0
外部講師の派遣	-0.7	0.7	0.2	-0.2	0.5	-0.5	-1.9	1.9
施設見学と解説の対応	0.6	-0.6	0.3	-0.3	-1.5	1.5	1.4	-1.4
体験学習用の機材の提供	3.6	-3.6	-0.9	0.9	0.1	-0.1	0.1	-0.1
体験学習用の施設の種類	-2.4	2.4	0.8	-0.8	2.9	-2.9	2.9	-2.9
その他								

4) 集計結果 (各地域)

(1) 県別・学校種別回答率

県別の回答率は、小学校では宮城県の31.2%、中学校では香川県の38.5%、合計では宮城県の32.4%が最も高かった。大阪府は小学校で9.4%、中学校で12.6%、合計で10.6%と全てにおいて最も低かった。地域別では、信越・北陸地方が小学校で24.0%、中学校で29.9%、合計で25.8%と全てにおいて最も高かった。近畿地方が小学校で14.6%、中学校で18.3%、合計で15.8%と最も低かった。

図表 60：県別の学校種別の回答校数

	全学校数(校)			回答校数(校)			回答率(%)			
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	小中学校	計	小学校	中学校	計
北海道	1,201	671	1,872	179	105	2	286	14.9	15.6	15.3
青森県	333	171	504	67	58	0	125	20.1	33.9	24.8
岩手県	378	189	567	90	56	0	146	23.8	29.6	25.7
宮城県	446	224	670	139	78	0	217	31.2	34.8	32.4
秋田県	246	130	376	69	43	0	112	28.0	33.1	29.8
山形県	309	113	422	77	19	0	96	24.9	16.8	22.7
福島県	501	245	746	91	61	0	152	18.2	24.9	20.4
北海道・東北地方	3,414	1,743	5,157	712	420	2	1,134	20.9	24.1	22.0
茨城県	564	243	807	141	87	0	228	25.0	35.8	28.3
栃木県	393	174	567	113	51	0	164	28.8	29.3	28.9
群馬県	335	176	511	63	32	0	95	18.8	18.2	18.6
埼玉県	821	447	1,268	117	84	0	201	14.3	18.8	15.9
千葉県	848	407	1,255	195	110	0	305	23.0	27.0	24.3
東京都	1,367	816	2,183	151	150	0	301	11.0	18.4	13.8
神奈川県	890	476	1,366	117	99	0	216	13.1	20.8	15.8
山梨県	197	96	293	58	31	0	89	29.4	32.3	30.4
関東地方	5,415	2,835	8,250	955	644	0	1,599	17.6	22.7	19.4
新潟県	531	241	772	114	88	0	202	21.5	36.5	26.2
富山県	198	83	281	61	28	0	89	30.8	33.7	31.7
石川県	229	100	329	61	29	0	90	26.6	29.0	27.4
福井県	204	81	285	53	25	0	78	26.0	30.9	27.4
長野県	387	197	584	82	40	0	122	21.2	20.3	20.9
信越・北陸地方	1,549	702	2,251	371	210	0	581	24.0	29.9	25.8
岐阜県	378	198	576	100	57	0	157	26.5	28.8	27.3
静岡県	525	294	819	128	97	0	225	24.4	33.0	27.5
愛知県	983	439	1,422	162	103	0	265	16.5	23.5	18.6
三重県	396	178	574	97	43	0	140	24.5	24.2	24.4
東海地方	2,282	1,109	3,391	487	300	0	787	21.3	27.1	23.2
滋賀県	232	106	338	43	26	0	69	18.5	24.5	20.4
京都府	423	199	622	47	34	0	81	11.1	17.1	13.0
大阪府	1,040	533	1,573	98	67	1	166	9.4	12.6	10.6
兵庫県	805	386	1,191	129	87	0	216	16.0	22.5	18.1
奈良県	214	119	333	52	27	0	79	24.3	22.7	23.7
和歌山県	272	137	409	66	30	0	96	24.3	21.9	23.5
近畿地方	2,986	1,480	4,466	435	271	1	707	14.6	18.3	15.8
鳥取県	140	63	203	43	8	0	51	30.7	12.7	25.1
島根県	235	106	341	70	31	0	101	29.8	29.2	29.6
岡山県	416	172	588	118	59	0	177	28.4	34.3	30.1
広島県	531	272	803	82	38	1	121	15.4	14.0	15.1
山口県	320	169	489	65	42	0	107	20.3	24.9	21.9
中国地方	1,642	782	2,424	378	178	1	557	23.0	22.8	23.0
徳島県	200	89	289	44	23	0	67	22.0	25.8	23.2
香川県	179	78	257	45	30	0	75	25.1	38.5	29.2
愛媛県	334	140	474	77	33	0	110	23.1	23.6	23.2
高知県	219	121	340	56	31	1	88	25.6	25.6	25.9
四国地方	932	428	1,360	222	117	1	340	23.8	27.3	25.0
福岡県	767	375	1,142	151	96	0	247	19.7	25.6	21.6
佐賀県	181	103	284	38	27	1	66	21.0	26.2	23.2
長崎県	384	195	579	59	37	0	96	15.4	19.0	16.6
熊本県	409	188	597	117	43	0	160	28.6	22.9	26.8
大分県	311	138	449	51	22	0	73	16.4	15.9	16.3
宮崎県	248	146	394	57	44	0	101	23.0	30.1	25.6
鹿児島県	572	254	826	107	43	3	153	18.7	16.9	18.5
沖縄県	279	161	440	63	38	4	105	22.6	23.6	23.9
九州・沖縄地方	3,151	1,560	4,711	643	350	8	1,001	20.4	22.4	21.2
計	21,371	10,639	32,010	4,203	2,490	13	6,706	19.7	23.4	20.9

(2) 県別の学校のロケーション

次の表は学校のロケーションを県別にまとめたものである。徒歩15分程度の割合が最も多いのは長崎県の52.1%で、次いで沖縄県の50.5%であった。海のない栃木県、群馬県、埼玉県、山梨県、長野県、岐阜県、滋賀県、奈良県では0%となっている。これらを除き、徒歩15分程度の割合が最も少ないのは福島県の2.6%で、電車やバスの割合が最も多いのは東京都で86.4%であった。電車やバスの割合が最も少ないのは、沖縄県で8.6%、次いで長崎県で16.7%であった。

図表 62：県別の学校と海との距離

	度数(校)					割合(%)				
	1 徒 歩 1 5 分 程 度	2 1 徒 歩 時 間 3 0 分	3 電 車 や バ ス	未 回 答	計	1 徒 歩 1 5 分 程 度	2 1 徒 歩 時 間 3 0 分	3 電 車 や バ ス	未 回 答	計
北海道	65	35	182	4	286	22.7	12.2	63.6	1.4	100.0
青森県	25	21	78	1	125	20.0	16.8	62.4	0.8	100.0
岩手県	16	20	109	1	146	11.0	13.7	74.7	0.7	100.0
宮城県	20	43	151	3	217	9.2	19.8	69.6	1.4	100.0
秋田県	4	15	93	0	112	3.6	13.4	83.0	0.0	100.0
山形県	11	7	78	0	96	11.5	7.3	81.3	0.0	100.0
福島県	4	16	130	2	152	2.6	10.5	85.5	1.3	100.0
北海道・東北地方	145	157	821	11	1,134	12.8	13.8	72.4	1.0	100.0
茨城県	19	37	170	2	228	8.3	16.2	74.6	0.9	100.0
栃木県	0	1	162	1	164	0.0	0.6	98.8	0.6	100.0
群馬県	0	1	93	1	95	0.0	1.1	97.9	1.1	100.0
埼玉県	0	3	194	4	201	0.0	1.5	96.5	2.0	100.0
千葉県	27	64	205	9	305	8.9	21.0	67.2	3.0	100.0
東京都	9	27	260	5	301	3.0	9.0	86.4	1.7	100.0
神奈川県	23	42	147	4	216	10.6	19.4	68.1	1.9	100.0
山梨県	0	0	87	2	89	0.0	0.0	97.8	2.2	100.0
関東地方	78	175	1,318	28	1,599	4.9	10.9	82.4	1.8	100.0
新潟県	20	34	143	5	202	9.9	16.8	70.8	2.5	100.0
富山県	8	16	64	1	89	9.0	18.0	71.9	1.1	100.0
石川県	25	25	40	0	90	27.8	27.8	44.4	0.0	100.0
福井県	16	11	51	0	78	20.5	14.1	65.4	0.0	100.0
長野県	0	1	116	5	122	0.0	0.8	95.1	4.1	100.0
信越・北陸地方	69	87	414	11	581	11.9	15.0	71.3	1.9	100.0
岐阜県	0	0	154	3	157	0.0	0.0	98.1	1.9	100.0
静岡県	27	62	130	6	225	12.0	27.6	57.8	2.7	100.0
愛知県	13	37	210	5	265	4.9	14.0	79.2	1.9	100.0
三重県	33	26	72	9	140	23.6	18.6	51.4	6.4	100.0
東海地方	73	125	566	23	787	9.3	15.9	71.9	2.9	100.0
滋賀県	0	2	67	0	69	0.0	2.9	97.1	0.0	100.0
京都府	7	1	64	9	81	8.6	1.2	79.0	11.1	100.0
大阪府	7	15	140	4	166	4.2	9.0	84.3	2.4	100.0
兵庫県	29	45	134	8	216	13.4	20.8	62.0	3.7	100.0
奈良県	0	1	77	1	79	0.0	1.3	97.5	1.3	100.0
和歌山県	25	19	51	1	96	26.0	19.8	53.1	1.0	100.0
近畿地方	68	83	533	23	707	9.6	11.7	75.4	3.3	100.0
鳥取県	4	22	25	0	51	7.8	43.1	49.0	0.0	100.0
島根県	18	14	68	1	101	17.8	13.9	67.3	1.0	100.0
岡山県	22	17	134	4	177	12.4	9.6	75.7	2.3	100.0
広島県	27	24	70	0	121	22.3	19.8	57.9	0.0	100.0
山口県	29	33	39	6	107	27.1	30.8	36.4	5.6	100.0
中国地方	100	110	336	11	557	18.0	19.7	60.3	2.0	100.0
徳島県	11	12	43	1	67	16.4	17.9	64.2	1.5	100.0
香川県	20	19	35	1	75	26.7	25.3	46.7	1.3	100.0
愛媛県	30	29	50	1	110	27.3	26.4	45.5	0.9	100.0
高知県	21	18	45	4	88	23.9	20.5	51.1	4.5	100.0
四国地方	82	78	173	7	340	24.1	22.9	50.9	2.1	100.0
福岡県	29	66	144	8	247	11.7	26.7	58.3	3.2	100.0
佐賀県	8	13	44	1	66	12.1	19.7	66.7	1.5	100.0
長崎県	50	28	16	2	96	52.1	29.2	16.7	2.1	100.0
熊本県	32	17	107	4	160	20.0	10.6	66.9	2.5	100.0
大分県	12	18	42	1	73	16.4	24.7	57.5	1.4	100.0
宮崎県	14	20	64	3	101	13.9	19.8	63.4	3.0	100.0
鹿児島県	59	34	55	5	153	38.6	22.2	35.9	3.3	100.0
沖縄県	53	42	9	1	105	50.5	40.0	8.6	1.0	100.0
九州・沖縄地方	257	238	481	25	1,001	25.7	23.8	48.1	2.5	100.0
計	872	1,053	4,642	139	6,706	13.0	15.7	69.2	2.1	100.0

(3) 県別の海洋教育の認知度

次の表は海洋教育の認知度を県別にまとめたものである。海洋教育という言葉を知っていた割合が最も高かったのは山形県で42.7%、次いで高知県で40.9%、奈良県が40.5%であった。知らなかった割合が最も高かったのは宮崎県と島根県で86.1%であった。

図表 63：県別の海洋教育の認知度

	度数(校)				割合(%)			
	1	2	未回答	計	1	2	未回答	計
	知っていた	知らなかった			知っていた	知らなかった		
北海道	84	195	7	286	29.4	68.2	2.4	100.0
青森県	23	100	2	125	18.4	80.0	1.6	100.0
岩手県	27	118	1	146	18.5	80.8	0.7	100.0
宮城県	64	151	2	217	29.5	69.6	0.9	100.0
秋田県	35	77	0	112	31.3	68.8	0.0	100.0
山形県	41	55	0	96	42.7	57.3	0.0	100.0
福島県	46	105	1	152	30.3	69.1	0.7	100.0
北海道・東北地方	320	801	13	1,134	28.2	70.6	1.1	100.0
茨城県	82	142	4	228	36.0	62.3	1.8	100.0
栃木県	33	130	1	164	20.1	79.3	0.6	100.0
群馬県	24	69	2	95	25.3	72.6	2.1	100.0
埼玉県	75	125	1	201	37.3	62.2	0.5	100.0
千葉県	94	207	4	305	30.8	67.9	1.3	100.0
東京都	96	201	4	301	31.9	66.8	1.3	100.0
神奈川県	71	142	3	216	32.9	65.7	1.4	100.0
山梨県	30	57	2	89	33.7	64.0	2.2	100.0
関東地方	505	1,073	21	1,599	31.6	67.1	1.3	100.0
新潟県	58	142	2	202	28.7	70.3	1.0	100.0
富山県	26	63	0	89	29.2	70.8	0.0	100.0
石川県	18	72	0	90	20.0	80.0	0.0	100.0
福井県	15	63	0	78	19.2	80.8	0.0	100.0
長野県	25	97	0	122	20.5	79.5	0.0	100.0
信越・北陸地方	142	437	2	581	24.4	75.2	0.3	100.0
岐阜県	59	98	0	157	37.6	62.4	0.0	100.0
静岡県	73	151	1	225	32.4	67.1	0.4	100.0
愛知県	62	201	2	265	23.4	75.8	0.8	100.0
三重県	48	89	3	140	34.3	63.6	2.1	100.0
東海地方	242	539	6	787	30.7	68.5	0.8	100.0
滋賀県	15	54	0	69	21.7	78.3	0.0	100.0
京都府	21	58	2	81	25.9	71.6	2.5	100.0
大阪府	53	113	0	166	31.9	68.1	0.0	100.0
兵庫県	59	153	4	216	27.3	70.8	1.9	100.0
奈良県	32	45	2	79	40.5	57.0	2.5	100.0
和歌山県	34	62	0	96	35.4	64.6	0.0	100.0
近畿地方	214	485	8	707	30.3	68.6	1.1	100.0
鳥取県	13	38	0	51	25.5	74.5	0.0	100.0
島根県	12	87	2	101	11.9	86.1	2.0	100.0
岡山県	44	128	5	177	24.9	72.3	2.8	100.0
広島県	42	78	1	121	34.7	64.5	0.8	100.0
山口県	30	74	3	107	28.0	69.2	2.8	100.0
中国地方	141	405	11	557	25.3	72.7	2.0	100.0
徳島県	15	52	0	67	22.4	77.6	0.0	100.0
香川県	27	48	0	75	36.0	64.0	0.0	100.0
愛媛県	33	76	1	110	30.0	69.1	0.9	100.0
高知県	36	50	2	88	40.9	56.8	2.3	100.0
四国地方	111	226	3	340	32.6	66.5	0.9	100.0
福岡県	94	149	4	247	38.1	60.3	1.6	100.0
佐賀県	17	49	0	66	25.8	74.2	0.0	100.0
長崎県	27	67	2	96	28.1	69.8	2.1	100.0
熊本県	27	132	1	160	16.9	82.5	0.6	100.0
大分県	17	56	0	73	23.3	76.7	0.0	100.0
宮崎県	13	87	1	101	12.9	86.1	1.0	100.0
鹿児島県	54	98	1	153	35.3	64.1	0.7	100.0
沖縄県	34	69	2	105	32.4	65.7	1.9	100.0
九州・沖縄地方	283	707	11	1,001	28.3	70.6	1.1	100.0
計	1,958	4,673	75	6,706	29.2	69.7	1.1	100.0

(4) 県別の海洋教育の実施状況

次の表は海洋教育の実施状況を県別にまとめたものである。総合的な学習の時間や課外活動で海洋教育に取り組んでいると回答した学校（質問3で「3」「4」「5」「6」を選択した学校1,334校）の割合が最も高かったのは沖縄県で43.8%、次いで岡山県で39.0%、長崎県で34.0%であった。最も低かったのは埼玉県で5.5%であった。

図表 64：県別の海洋教育内容の実施状況

	度数(校)						割合(%)						3 5 6 計	合計				
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
	未実施	教科書の範囲	メインテーマに 総合で	トピックスに 総合で	総合の連携 教科と	課外	未回答	3 5 6 計	合計	未実施	教科書の範囲	メインテーマに 総合で	トピックスに 総合で	総合の連携 教科と	課外	未回答	3 5 6 計	合計
北海道	44	171	23	35	1	3	9	62	286	15.4	59.8	8.0	12.2	0.3	1.0	3.1	21.7	100.0
青森県	25	78	7	12	1	1	1	21	125	20.0	62.4	5.6	9.6	0.8	0.8	0.8	16.8	100.0
岩手県	20	96	9	16	0	2	3	27	146	13.7	65.8	6.2	11.0	0.0	1.4	2.1	18.5	100.0
宮城県	31	146	8	24	2	2	4	36	217	14.3	67.3	3.7	11.1	0.9	0.9	1.8	16.6	100.0
秋田県	10	90	2	6	0	2	2	10	112	8.9	80.4	1.8	5.4	0.0	1.8	1.8	8.9	100.0
山形県	25	46	7	12	3	1	2	23	96	26.0	47.9	7.3	12.5	3.1	1.0	2.1	24.0	100.0
福島県	21	116	1	7	2	2	3	12	152	13.8	76.3	0.7	4.6	1.3	1.3	2.0	7.9	100.0
北海道・東北地方	176	743	57	112	9	13	24	191	1,134	15.5	65.5	5.0	9.9	0.8	1.1	2.1	16.8	100.0
茨城県	33	176	2	7	2	6	2	17	228	14.5	77.2	0.9	3.1	0.9	2.6	0.9	7.5	100.0
栃木県	22	103	4	16	4	8	7	32	164	13.4	62.8	2.4	9.8	2.4	4.9	4.3	19.5	100.0
群馬県	16	64	1	3	0	9	2	13	95	16.8	67.4	1.1	3.2	0.0	9.5	2.1	13.7	100.0
埼玉県	38	146	3	3	2	3	6	11	201	18.9	72.6	1.5	1.5	1.0	1.5	3.0	5.5	100.0
千葉県	43	216	12	22	1	1	10	36	305	14.1	70.8	3.9	7.2	0.3	0.3	3.3	11.8	100.0
東京都	54	188	10	18	5	14	12	47	301	17.9	62.5	3.3	6.0	1.7	4.7	4.0	15.6	100.0
神奈川県	38	142	9	17	4	2	4	32	216	17.6	65.7	4.2	7.9	1.9	0.9	1.9	14.8	100.0
山梨県	8	75	1	0	3	1	1	5	89	9.0	84.3	1.1	0.0	3.4	1.1	1.1	5.6	100.0
関東地方	252	1,110	42	86	21	44	44	193	1,599	15.8	69.4	2.6	5.4	1.3	2.8	2.8	12.1	100.0
新潟県	35	133	4	21	1	6	2	32	202	17.3	65.8	2.0	10.4	0.5	3.0	1.0	15.8	100.0
富山県	14	61	0	5	1	5	3	11	89	15.7	68.5	0.0	5.6	1.1	5.6	3.4	12.4	100.0
石川県	12	59	1	6	0	8	4	15	90	13.3	65.6	1.1	6.7	0.0	8.9	4.4	16.7	100.0
福井県	7	49	4	12	0	3	3	19	78	9.0	62.8	5.1	15.4	0.0	3.8	3.8	24.4	100.0
長野県	21	72	5	9	0	9	6	23	122	17.2	59.0	4.1	7.4	0.0	7.4	4.9	18.9	100.0
信越・北陸地方	89	374	14	53	2	31	18	100	581	15.3	64.4	2.4	9.1	0.3	5.3	3.1	17.2	100.0
岐阜県	24	84	14	27	1	5	2	47	157	15.3	63.5	8.9	17.2	0.6	3.2	1.3	29.9	100.0
静岡県	36	130	13	26	6	4	10	49	225	16.0	57.8	5.8	11.6	2.7	1.8	4.4	21.8	100.0
愛知県	51	173	6	24	1	5	5	36	265	19.2	65.3	2.3	9.1	0.4	1.9	1.9	13.6	100.0
三重県	13	82	12	20	2	5	6	39	140	9.3	58.6	8.6	14.3	1.4	3.6	4.3	27.9	100.0
東海地方	124	469	45	97	10	19	23	171	787	15.8	59.6	5.7	12.3	1.3	2.4	2.9	21.7	100.0
滋賀県	11	47	2	3	1	1	4	7	69	15.9	68.1	2.9	4.3	1.4	1.4	5.8	10.1	100.0
京都府	7	39	10	8	1	4	12	23	81	8.6	48.1	12.3	9.9	1.2	4.9	14.8	28.4	100.0
大阪府	20	92	10	18	2	17	7	47	166	12.0	55.4	6.0	10.8	1.2	10.2	4.2	28.3	100.0
兵庫県	29	115	18	31	3	8	12	60	216	13.4	53.2	8.3	14.4	1.4	3.7	5.6	27.8	100.0
奈良県	6	54	5	6	1	2	5	14	79	7.6	68.4	6.3	7.6	1.3	2.5	6.3	17.7	100.0
和歌山県	5	59	4	21	2	4	1	31	96	5.2	61.5	4.2	21.9	2.1	4.2	1.0	32.3	100.0
近畿地方	78	406	49	87	10	36	41	182	707	11.0	57.4	6.9	12.3	1.4	5.1	5.8	25.7	100.0
鳥取県	8	34	1	4	0	1	3	6	51	15.7	66.7	2.0	7.8	0.0	2.0	5.9	11.8	100.0
島根県	11	72	4	9	0	2	3	15	101	10.9	71.3	4.0	8.9	0.0	2.0	3.0	14.9	100.0
岡山県	14	81	20	35	5	9	13	69	177	7.9	45.8	11.3	19.8	2.8	5.1	7.3	39.0	100.0
広島県	7	80	9	14	1	7	3	31	121	5.8	66.1	7.4	11.6	0.8	5.8	2.5	25.6	100.0
山口県	7	66	6	15	1	5	7	27	107	6.5	61.7	5.6	14.0	0.9	4.7	6.5	25.2	100.0
中国地方	47	333	40	77	7	24	29	148	557	8.4	59.8	7.2	13.8	1.3	4.3	5.2	26.6	100.0
徳島県	6	33	2	10	3	8	5	23	67	9.0	49.3	3.0	14.9	4.5	11.9	7.5	34.3	100.0
香川県	11	45	5	6	1	4	3	16	75	14.7	60.0	6.7	8.0	1.3	5.3	4.0	21.3	100.0
愛媛県	10	74	6	13	0	5	2	24	110	9.1	67.3	5.5	11.8	0.0	4.5	1.8	21.8	100.0
高知県	7	51	9	11	1	3	6	24	88	8.0	58.0	10.2	12.5	1.1	3.4	6.8	27.3	100.0
四国地方	34	203	22	40	5	20	16	87	340	10.0	59.7	6.5	11.8	1.5	5.9	4.7	25.6	100.0
福岡県	36	161	9	25	1	7	8	42	247	14.6	65.2	3.6	10.1	0.4	2.8	3.2	17.0	100.0
佐賀県	3	47	5	9	0	2	0	16	66	4.5	71.2	7.6	13.6	0.0	3.0	0.0	24.2	100.0
長崎県	7	53	10	19	1	3	3	33	96	7.3	55.2	10.4	19.8	1.0	3.1	3.1	34.4	100.0
熊本県	16	94	7	32	1	5	5	45	160	10.0	58.8	4.4	20.0	0.6	3.1	3.1	28.1	100.0
大分県	11	34	12	6	0	4	6	22	73	15.1	46.6	16.4	8.2	0.0	5.5	8.2	30.1	100.0
宮崎県	17	73	2	3	1	2	3	8	101	16.8	72.3	2.0	3.0	1.0	2.0	3.0	7.9	100.0
鹿児島県	23	72	12	24	6	8	5	50	153	15.0	47.1	7.8	15.7	3.9	5.2	5.2	32.7	100.0
沖縄県	9	41	14	25	4	3	9	46	105	8.6	39.0	13.3	23.8	3.8	2.9	8.6	43.8	100.0
九州・沖縄地方	122	575	71	143	14	34	42	262	1,001	12.2	57.4	7.1	14.3	1.4	3.4	4.2	26.2	100.0
計	922	4,213	340	695	78	221	237	1,334	6,706	13.7	62.8	5.1	10.4	1.2	3.3	3.5	19.9	100.0

5) 自由記述

(1) 対象学年

質問 3-2 における対象学年毎に回答するを集計した（複数学年の回答あり）。

学年	回答数	回答率	全回答校 における 該当率
小学1年	177	17.1	4.2
小学2年	200	19.3	4.7
小学3年	336	32.4	8.0
小学4年	396	38.2	9.4
小学5年	730	70.3	17.3
小学6年	371	35.7	8.8
小学校計	1,038		n= 4,216
中学1年	281	65.3	11.2
中学2年	223	51.9	8.9
中学3年	163	37.9	6.5
中学校計	430		n= 2,503
その他・不明	10		

※複数学年の回答があるため、計はいずれかに回答した件数

※小中学校は両方にカウント

小学校においては、5年生が最も多く 730 件(70.3%)であった。中学校においては、1年生が最も多く 281 件(65.3%)であった。

(2) 時数

回答に幅がある場合は、多い方で集計した（「3～6時間」の場合6時間）。学年毎の時数が記載されている場合は最も多い時数で集計した。「2泊3日」「1日」等は1日6時間として集計した。

学年	回答数	回答率	全回答校 における 該当率
5時間以内	477	36.3	7.1
10時間以内	335	25.5	5.0
20時間以内	327	24.9	4.9
それ以上	159	12.1	2.4
その他・不明	16	1.2	0.2
計	1,314		n= 6,706

5時間以内の回答が477件(36.3%)で最も多かった。10時間以内と20時間以内がほぼ同じで約25%であった。但し、この時数に体験学習を含んでいる回答とそうでない回答が見受けられたため、それらを分けて質問する必要があった。

(3) 海洋教育の形態

質問 3-2 の海洋教育の概要を以下の 3 つに分類したところ、次の表のようになった。

体験学習のみ： 臨海学校等における体験のみで完結するような学習活動
体験学習と事前事後学習： 体験の前後に学校における学習を組み合わせた学習活動
総合的・全学的な学習： より総合的あるいは複数の学年にまたがるような学習活動

質問 3-3 の体験学習の自由記述内容や、時数も参考にした。但し、時数は校外学習を含めている場合とそうではない場合があり、単純に時数が多いからと言って総合的な学習とは言えない。そのため判断が難しいものも多かった。また、自由記述の集計全般について、その学習が以前行われていたものか、現在行われているものか、あるいは今後行われるものであるのかの区別はしなかった。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率	全回答校における該当率
体験学習のみ	684	44.4	10.2
体験学習と事前事後学習	131	8.5	2.0
総合的・全学的な学習	385	25.0	5.7
その他・不明	340	22.1	5.1
計	1,540	n= 1,540	n= 6,706

学習概要もしくは体験内容の自由記述に回答した 1,540 件のうち、約 44% (681 件) の記述内容が体験学習のみであり、事前事後学習を伴うものをあわせると約 53% (812 件) であった。総合的・全学的な学習であったものは約 25% (385 件) であった。

(4) 体験学習の重要性

質問 3-3 の体験学習内容として、「質問 3-2 と同じ」という回答が多かった。これは海洋教育において体験学習が中心的存在であることを示していると考えられる。そこで海洋教育の形態において体験学習のみに該当するものに加え、「質問 3-2 と同じ」「上記参照」等の回答、及び、質問 3-2 は無回答で質問 3-3 のみに回答があったものをカウントしたところ次のようになった。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の 自由記述回答校 における該当率	全回答校 における 該当率
体験学習のみ	684	44.4	10.2
体験に「概要と同じ」	266	17.3	4.0
概要無回答・体験回答	45	2.9	0.7
上記のいずれかに該当	779	50.6	11.6
		n= 1,540	n= 6,706

質問 3-3 の体験に概要と同じと回答されたものは 266 件、質問 3-3 のみの回答が 45 件あり、体験学習のみだったものをあわせると、779 件にのぼった。これは自由記述回答校の半数にあたり、海洋教育における体験学習の重要性がうかがえる。

(5) 宿泊を伴う学習活動の有無

質問 3-2 の海洋教育の概要、もしくは質問 3-3 の体験学習の内容から宿泊を伴う活動があるかどうかを判断し分類した。時数も参考にした。宿泊日数が記載されているものや、宿泊学習、宿泊研修等を宿泊ありとし、臨海学校などは宿泊の可能性が高いとした。

海洋教育の形態	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率	全回答校における該当率
宿泊あり	443	28.8	6.6
宿泊の可能性高い	148	9.6	2.2
宿泊の可能性低い	949	61.6	14.2
計	1,540	n= 1,540	n= 6,706

学習概要もしくは体験内容の自由記述に回答した 1,540 件のうち、約 29% (443 件) が宿泊を伴う学習を行っていた。宿泊の可能性が高いものもあわせると、約 38% (591 件) が宿泊を伴う学習を行っていた。一方、宿泊の可能性が低いものは約 62% (949 件) であった。

(6) 短期集中型体験学習の種類

青少年自然の家や海洋研修センターにおいて、臨海学校や宿泊研修などの短期集中型の体験学習（宿泊を伴うことが多い）が行われていることが多いため、それらの分類を試みた。質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、完全に同一の名称が記載されていた場合にカウントし、同名以外の場合の判断は行わない。例えば「海洋の学習」と記載されていても、「海洋学習」とはカウントしなかった。「体験学習」は名称であるのかどうか判断できないためカウントしていない。同一校が違う呼び方をしている場合もあり、その場合は複数カウントした。

大きく以下の 3 つにわかれた。

- ・海洋をメインテーマとする学習
- ・自然や野外をテーマとする学習
- ・宿泊をメインテーマとする学習

86 件もの呼び名があった。「海洋」の中では、「臨海学校」が 89 件で最も多かった。「自然」の中では「自然学校」と「自然教室」が 26 件で最も多かった。また「宿泊」の中では、「宿泊学習」が 72 件で最も多かった。

分類	名称	回答校数	分類	名称	回答校数	
海洋	臨海学校	89	自然	自然学校	26	
	海事研修	26		自然教室	26	
	臨海学習	25		環境教育	22	
	漁村体験	24		環境学習	19	
	臨海自然教室	20		自然体験学習	12	
	海の学習	10		野外活動	11	
	海の学校	7		環境体験学習	5	
	海洋体験	7		自然体験教室	4	
	水産教室	7		野外学習	3	
	マリン活動	7		野外宿泊学習	3	
	海洋教室	6		自然体験	2	
	海浜学校	5		環境活動	1	
	海洋体験学習	5		環境教室	1	
	臨海学舎	5		キャンプ学習	1	
	マリン体験	4		宿泊自然教室	1	
	海浜学習	3		宿泊野外実習	1	
	海洋学習	3		少年自然活動	1	
	海洋研修	3		長期宿泊自然体験授業	1	
	海事教室	2		野外教育活動	1	
	海洋環境教室	2		野外実習	1	
	海洋実習	2		野外体験学習	1	
	マリンスクール	2		宿泊	宿泊学習	72
	臨海学園	2			宿泊研修	35
	臨海体験学習	2			宿泊体験学習	21
	海体験学習	1			宿泊体験	14
	海の体験学習	1			宿泊訓練	13
海辺の学校	1	集団宿泊学習	11			
海事学習	1	集団宿泊教室	9			
海浜キャンプ	1	宿泊体験活動	8			
海浜教室	1	集団宿泊訓練	6			
海浜自然教室	1	宿泊活動	4			
海浜宿泊体験	1	宿泊教室	3			
海浜体験	1	合宿訓練	2			
海洋学舎	1	集団宿泊活動	2			
海洋活動	1	集団宿泊研修	2			
海洋訓練	1	集団宿泊体験	2			
海洋自然体験	1	宿泊合宿	2			
漁村宿泊研修	1	合宿体験	1			
シーサイドスクール	1	教育合宿	1			
夕の学校	1	宿泊体験研修	1			
宿泊海洋体験学習	1	生活体験学習	1			
洋上研修	1	長期宿泊学習	1			
臨海合宿	1					
臨海研修	1					

(7) 教育課程上の位置付け

質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、教育課程上の位置付けをカウントした。前述の短期集中型体験学習のカウントとは異なり、多少の判断をしつつカウントした。例えば、「総合的な学習」や「総合学習」が「総合的な学習の時間」を示していると考えられる場合はそのようにカウントした。

名称	回答校数	名称	回答校数
総合的な学習の時間	156	夏季行事	1
生活	24	余剰時間	2
社会	43	社会見学・社会科見学	11
理科	16	校外学習・郊外研修	18
地学	1	移動教室	9
国語	3	遠足	35
美術・図画工作	2	修学旅行	47
体育	4	学習旅行	3
道徳	1	クラブ活動・部活動	14
特別活動	7	生徒会活動	5
学校行事	34	PTA活動	11
		子ども会活動	4

教科の中では、総合的な学習の時間での扱いが 156 件と多かった。次いで社会が 43 件、生活が 24 件であった。教科外では、修学旅行が 47 件と多く、次いで遠足の 35 件であった。

(8) 学習の種類

質問 3-2 と 3-3 の自由記述において、学習の種類をカウントした。教育課程上の位置付けと同様に、多少の曖昧さを持ってカウントした。

- ・「個別・班別学習」には、課題やテーマ毎に個別あるいはグループに分かれて学習するような方法を採用しているものをカウントした。「テーマ」「課題」「班」「グループ」「個別」「個人」。
- ・「縦割班学習」には、異なる年齢間でグループを作って活動しているものをカウントした。「縦割」「たて」「縦」「異年齢」「異学年」。
- ・「地域・郷土学習」には、郷土、地域、ふるさとなどについて学習しているものカウントした。
- ・「調べ学習」には「調べ」「調査」などが含まれるものをカウントした。
- ・「課題学習」には個別あるいは班別に「課題」を設定し調査するようなものをカウントした。ここで言う「課題」とは、「解決すべき事柄」ではなく、「学ぶべき事柄」といった意味合いである。
- ・「心・態度の育成」には、「海を大切に思う」「漁師の思いを考える」「みんなで力をあわせる」など心や態度、考え方の育成について明示されているものをカウントした。

名称	回答校数	名称	回答校数
個別・班別学習	57	地域・郷土学習	159
調べ学習	245	交流	35
課題学習	30	食育	4
縦割班学習	8	防災教育	15
進路学習	2	エネルギー教育	3
職場体験	35	ジオパーク学習	13
キャリア教育	5	心・態度の育成	85
産業体験学習	1		

調べ学習が 245 件と多く見られた。また地域・郷土学習も 159 件と多かった。食育には調理体験などをカウントしていないため少ないが、それらをカウントすると多くなると考えられる。

(9) 学習の概要と12領域

質問 2-2 学習の概要において、「～について学ぶ」等のように学習の目標やねらい、具体的な内容が示してあれば、それを12領域に分類することを試みた。但し、体験学習は極力判断材料としないようにした。

本来12領域は海について学ぶべき「要素」の分類なので、それらの組み合わせである学習の目標やねらいを12分野に分類するのは困難であったが、次のようなルールで分類を試みた。

- ・「地域の海の学習」「自分の地域と他の地域の比較」「海・水の大切さ」「海の楽しさ」「海の怖さ」「協調性」「仲間づくり」「個性の伸長」等は、産業や生活、エネルギー等多くの領域にまたがるため分類しなかったが、学習の種類において「地域・郷土学習」「心・態度の育成」にカウントした。
- ・「街づくり」はJ経済・産業にカウントした。
- ・「海に親しむ」はB観光・レジャー・スポーツにカウントした。
- ・漁業については、「仕事」や「漁村の生活」等はJ経済・産業に、「水産物」はA生活・健康・安全にカウントした。
- ・「キャリア」や「職業」はJ経済・産業にカウントした。

12領域	該当校数
A 生活・健康・安全	60
B 観光・レジャー・スポーツ	22
C 文化・芸術	29
D 歴史	16
E 地球・海洋	47
F 物質	1
G 生命	125
H 環境	235
I 資源・エネルギー	7
J 経済・産業	215
K 管理	2
L 国際	5

環境が235件で最も多かった。次いで経済・産業が215件、生命が125件であった。

(10) 体験学習の種類

「磯遊び」「カヤック」等の体験学習を、同一な名称ではなくてもある程度の判断を加えつつカウントした。

外部連携	博物館・水族館	131	漁業体験	漁師体験・漁業体験	65
	博物館・水族館職場体験	1		漁船見学・漁船体験	49
	外部講師の出張講座・出前授業	71		地引網	114
	しんかい6500見学	1		底引き網	1
	研究所見学	2		定置網	18
生物観察	生物観察	125		追い込み漁	8
	磯遊び・磯の生物観察	244		カゴ漁	3
	干潟の観察	30		刺網	3
	人工干潟作り	1		大敷網漁見学	4
	生物飼育	1		キス網漁	1
	アサリ育成調査	1		カツオ一本釣り	1
	貝の採集・飼育	4		イカつけ漁	1
	貝の同定	1		イカ釣り	2
	ウニ採集	2		イザリ漁	1
	ウニ飼育・観察	2		うたせ漁	1
	ウミホタル観察	16		ササヒビ漁	1
	ガザミ飼育・観察	1		こつき網漁	1
	ヒメジャコ観察	1		シラス漁見学	1
	カプトガニ観察	1		タコつぼ漁	1
	カプトガニ幼生調査	1		エビ籠漁	1
	プランクトン調査	1		エビ網漁	1
	植物調査	6		ウニ漁見学	1
	松原観察	1		ウニ採り	2
	海藻採集	1		カニ漁	1
	藻場見学	2		カニカゴ漁	1
	アマモ場観察	2		カニ釣り	1
	マングローブ観察	2		サザエ漁	1
	透視船・グラスボート観察	5		シジミ漁	1
	コーラルウォッチ	2		アサリほり	4
	サンゴ産卵観察	1		海藻とり	1
	ホエルウォッチング	3		わかめ採り	2
	野鳥観察	4		ひじきがり	1
標本作成	ウミガメ骨格標本作り	1		もずく収穫	3
	貝殻標本作り	1		磯のりかき	2
	海藻標本作り	3		アーサ採り	1
解剖	魚の解剖	1		昆布採り	2
	ミズウオ解剖	2		浮き球網掛け	1
	ホタテ解剖	1		網あげ	1
	シロウリガイ解剖	1		網おこし	2
保護活動	ウミガメ孵化場見学	4		網の片付け	1
	ウミガメ卵移設	2	漁港漁村見学	網の修理	1
	ウミガメ飼育	4		漁港見学	39
	ウミガメ放流	3		水揚げ見学	2
	カプトガニ産卵場所調査	1		水揚げ	5
	カプトガニ飼育	1		魚しわけ	1
	カプトガニ放流	1		魚荷さばき	3
	マングローブ種子採取	1		せり見学	11
	マングローブ植樹	2		漁協見学	18
	マングローブ林内清掃	1		漁協職場体験	2
	アマモ栽培・植付	9		魚市場見学	12
	アマモシート作成	1		漁村調査	1
	海藻植え付け	1		漁家体験	1
	ツメタガイ捕獲	2		民宿の方との交流・調和	15
	ヤコウガイ放流	1		民宿宿泊	26
	サンゴ養殖見学	1		民宿手伝い	1
	サンゴ飼育	1		民泊	9
	サンゴ植え付け	1		漁師との交流・調和	32
	ウニ駆除	1		番屋見学	1
	グミ植樹	1		魚屋見学	1
	ハマボウフウの種取り・苗植え	1		祭り参加	4
	浜での植樹	1			
	防風林植林	1			
	松育成	1			
	松植林	4			
	松林草ぬき	1			
	松原樹林間伐	1			
	松のこもまき	1			
	ニジガハマギク植樹	1			
	ハマナデシコ植え付け	1			
	カミネッコン作り	1			
	山への植樹	1			

養殖体験	水産試験場等見学	30	水産加工体験	水産物加工体験	3
	水産試験場職場体験	1		水産加工場見学	12
	魚礁観察	1		缶詰作り	2
	養殖場見学	9		サバの缶詰作り	1
	いけす給餌	6		サバのへしこ作り	2
	稚魚放流	14		サバの干物作り	2
	カンパチ養殖体験	1		はんぺん作り	1
	カンパチ餌付け	1		かまぼこ作り	2
	ブリ養殖見学	1		ちくわ作り	2
	ブリエサやり	1		笹かま作り	1
	サワラ放流	1		サケ燻製作り	2
	エゾメバル稚魚放流	1		サケ新巻作り	6
	ニシン稚魚放流	1		サケフレーク作り	2
	イサキ稚魚放流	1		サンマ燻製作り	1
	タイ放流	7		サンマ干物作り	1
	ヒラメ養殖体験	1		タタミイワシ作り	1
	ヒラメ飼育	1		トビウオ燻製作り	1
	ヒラメ放流	18		シラス加工工場見学	1
	カレイ放流	1		しらす釜揚げ	1
	カサゴ稚魚放流	2		ちりめん加工工場見学	1
	サケ放流	14		イクラ加工	1
	サケ飼育	10		干物作り	31
	サケ採卵・受精	6		くさや作り	1
	アユ飼育・放流	1		干しカレイ作り	1
	エビ放流	1		アジの干物作り	3
	タカアシガニ放流	1		一夜干し作り	1
	アサリ稚貝放流	4		魚の一夜干し作り	1
	アサリ移植	1		イカの一夜干し作り	7
	アサリ間引き	1		イカ生干し作り	1
	アサリ成長調査	1		スルメ作り	1
	牡蠣養殖体験	8		イカさき	3
	カキむき	4		たこの干物作り	1
	ホタテ養殖体験	2		タコの燻製作り	1
	ホタテ人工授精	1		ホタテ殻剥き	1
	ホタテエサつり	1		ホタテ燻製作り	1
	ホタテ耳吊り	2		ホタテ燻製販売	1
	ホタテのごみとり	1		みりん干し	3
	ホタテ水揚げ	2		たて干し	1
	サザエ網はずし	1		ワカメ芯抜き	2
	アワビ養殖見学	1		のり工場見学	5
	アワビ稚貝放流	1		のり作り・のりすき	15
	シヤコ貝放流	1		わかめ干し	2
	ワカメ養殖体験	5		天草採集・ところてん作り	2
	ワカメ育成	3		テングサかんでん作り	2
	枝ワカメ作り	2		製塩工場見学	4
	のり養殖場見学	2		塩作り	45
	海苔つけ	1	調理体験	魚料理	37
	のりつみ	1		魚さばき	25
	海ぶどう施設見学	1		サケ解体・調理	2
	真珠養殖体験	1		タラ解体	1
	真珠養殖見学	1		カツオのタタキ作り	3
				アジの開き料理	11
				イワシの開き	1
				魚の三枚おろし	2
				ハマチの三枚おろし	1
				アジの三枚おろし	2
				シタの三枚おろし	1
				トビウオさばき	1
				焼きアコ作り	1
				ホッケ汁作り	1
				カニ汁試食	1
				煮魚定食	1
				塩釜汁作り	1
				はらこ飯作り	1
				あんこうつるしぎり見学・どぶ汁試食	1
				鮭料理作り	1
				イカ調理	2
				ホタテ調理	1
				浜焼体験	1
				漁師鍋	1
				手こね寿司	1
				バエリア作り	1
				バーベキュー	1
				シーフードカレー	1
				料理創作	1

海事見学	コンテナターミナル見学	1	スポーツ	水泳	46
	工業地帯見学	1		遠泳	32
	ヘッドランド工事見学	1		飛び込み	1
	造船所見学	3		シュノーケリング	52
地形水質調査	台場跡見学	1		スキндаイビング	5
	橋上ウォーキング	1		スキューバダイビング	5
	下水処理施設見学	1		ダイビングインストラクター体験	1
	地形・地層観察	22		波乗り	1
	貝塚調査	1		ボディーボード	2
	赤土流出調査	1		ウインドサーフィン	1
	磯焼け調査	1		ビーチバレー	1
	砂組成調査	1		ビーチフラッグ	1
	化石観察	4		海岸持久走	3
	潮流体験	1		砂浜運動会	1
	満潮見学	1		水上運動会	2
	水質調査	14	ボート	カヌー	102
	海水観察	1		カヤック	79
	天体観測	4		ヨット	21
砂浜活動	砂浜活動（遊び・ゲーム）	44		OPヨット	4
	ビーチコーミング	9		ボート	15
	貝拾い	10		カッター	173
	流木拾い	2		ローボート	4
工作芸術	ビーチクリーン・海岸清掃	196		ペーロン	15
	除藻	1		権伝馬	1
	漂着物調査	26		爬竜船（ハーリー）	11
	漂流物調査	7		サバニ	1
	工作	10		いかだ作り・いかだ乗り	64
	ナチュラルアート	5		手漕ぎ木造船	2
	貝がらキーホルダー作り	2		樽漕ぎ	5
	貝がらフォトフレーム作り	1	たらい船	1	
	貝の根付	1	さつぱ船	1	
	貝がらクラフト	6	乗船体験	20	
	ストーンベインディング	2	船中泊	1	
	海藻クラフト	2	クルージング	5	
	海藻おしぼ	1	海洋・水産高校連携・見学	16	
	海藻しおり	3	海洋実習船見学	2	
海藻絵葉書作り	2	海洋実習船乗船	4		
レジャー	サンドアート	60	探査船乗船	1	
	写生	8	高速モーターボート乗船	1	
	海を守るポスター	2	バウスプリッド渡り	1	
	壁面	2	マスト登り	3	
	組紐体験	1	甲板みがき	4	
	作曲	1	手旗信号	8	
	海水浴	44	ロープワーク・結索	11	
	海開き	6	ボンク作り	1	
	潮干狩り・貝掘り	28	海上保安庁職場体験	4	
	はまぐり採り	1	海上保安庁見学	3	
	釣り	85	海上保安庁職員の話	5	
	沖釣り	8	海上保安庁巡視船乗船	3	
	ディンギー釣り	1	ライフセービング	6	
	アジ釣り	1	着衣泳	8	
魚のつかみどり	10	救命道具の装着	1		
タコつかみ	3	救急救命講習	3		
遊覧船	6	津波防災訓練・避難訓練	9		
バナナボート	3	津波防災マップ作り	1		
トレッキング	1				
ウォークラリー	5				
オリエンテーリング	6				
海沿いの道追跡ハイク	1				
ナイトハイク	3				
ホテル観賞	1				
サイクリング	2				
凧上げ	1				
隠れ家作り	1				
浜辺キャンプ	7				
無人島キャンプ	1				
キャンプファイヤー	11				
火起こし	1				
バーベキュー	2				
炊飯活動	9				
花火	1				
スイカ割り	4				
宝探し	1				
肝試し	1				

(11) 体験学習の分類

体験学習を以下のようなルールで12領域に分類した。

- ・「魚をさばく」などの料理はA.生活にカウント。
- ・「釣り」はB.レジャーにカウント。
- ・「サンドアート」「貝がら工作」などはC.芸術・文化としてカウント。
- ・「水質調査」はF.物質にカウント。
- ・「磯遊び」「生物観察」はG.生命にカウント。
- ・「ビーチクリーン」「漂着物調査」はH.環境にカウント。
- ・漁業など水産業に関するものはJ.産業にカウント。

12領域	該当校数
A 生活・健康・安全	126
B 観光・レジャー・スポーツ	634
C 文化・芸術	142
D 歴史	6
E 地球・海洋	27
F 物質	16
G 生命	416
H 環境	249
I 資源・エネルギー	1
J 経済・産業	564
K 管理	221
L 国際	0

臨海学校や宿泊研修などでカッターやカヌーが盛んに行われているため、B 観光・レジャー・スポーツが634件と多かった。次いで地引網などの漁業体験が多いためJ 経済・産業が564件と多かった。G 生命も416件と多いのは、磯遊びを行う学校が多かったからである。

(12) 東日本大震災の影響

質問 3-2 もしくは 3-3 において、東日本大震災の影響でそれまで行われていた学習ができなくなるなどと記載された回答をカウントした。具体的には、次のキーワードを含む回答をピックアップし、影響があったかどうかを判断した。「震災」「津波」「22 年度」「23 年度」「地震」「放射」。

震災の影響	該当校数	学習概要・体験の自由記述回答校における該当率(%)	全回答校における該当率(%)
あり	36	2.3	0.5
	n=	1,540	6,706

質問 3-2 もしくは 3-3 の自由記述に回答した 1,540 件のうち、36 件 (2.3%) が震災の影響を受けたと回答した。これは全回答数 6,706 件の 0.5%に該当する。

この報告書は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。

平成 24 年度 海洋教育普及の実現に向けた戦略的研究及び条件整備報告書
～次期学習指導要領改訂へのロードマップ～

平成 25 年 3 月発行

発行 海洋政策研究財団（財団法人シップ・アンド・オーシャン財団）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-4-10 虎ノ門 35 森ビル
TEL 03-5404-6828 FAX 03-5404-6800
<http://www.sof.or.jp> E-mail : info@sof.or.jp

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。 ISBN 978-4-88404-295-0

